

2018

学 生 要 覧

FERRIS UNIVERSITY

文学部／国際交流学部／音楽学部

2018年度学事日程カレンダー

前期

4月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30					

(2017年度後期成績通知:3月末)

- 4/2 入学式
- 4/3～6 オリエンテーション期間
- 4/3～5 健康診断
- 履修者数制限科目履修希望受付期間
- 履修登録期間①※1
- 4/4 AA面談※2
- レッスン打ち合わせ
- 4/4, 5 履修相談日
- 4/6 学外オリエンテーション
- 4/7～16 履修登録期間②※1
- 4/9 前期授業開始
- 4/16【院】博士學位申請論文計画書提出日
- 4/30 授業実施日(みなし金曜日)

5月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

- 5/11 卒業論文等※3題目届提出期限(9月卒業予定者)
- 5/17 避難訓練(緑園)
- 5/24 避難訓練(山手)
- 5/30 補講日

6月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30

- 6/1 創立記念日、授業実施日
- 6/11～17 英語プレイスメント・テスト実施期間(第1回)
- 6/21～25 前期集中講義履修登録期間
- 6/29 前期第14週試験時間割・レポート試験発表

7月	日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				

- 7/3 午前補講日、前期キリスト教講演会(午後休講)
- 7/4, 5 卒業論文等※3提出日(9月卒業予定者)
- 7/6 前期第15週試験時間割発表
- 7/16 授業実施日
- 7/23～29 英語プレイスメント・テスト実施期間(第2回)
- 7/26 授業終了
- 7/27 補講日
- 7/27～30 実技試験
- 7/28～9/14 夏季休業
- 7/31～8/4 前期集中講義期間(第1ターム)

※1 履修登録期間: 前期(①4/3 14:00～4/5 15:00 及び ②4/7 10:00～4/16 18:30)
後期(①9/18 9:00～9/19 12:00 及び ②9/21 13:00～10/1 18:30)

※2 AA面談: アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

は授業実施日

8月	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30	31	

8/20～22 サマーキャンプ
 8/23、24 追試験期間
 8/27～8/31 前期集中講義期間(第2ターム)

9月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15

9/1 実技追・再試験日
 9/12 9月卒業・修了者発表、成績通知(1～4年次)
 9/14 9月卒業再試験日

後 期

9月	日	月	火	水	木	金	土
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30						

9/18 AA面談^{※2}
 9/18 履修相談日(午後)
 9/18、19 履修者数制限科目履修希望受付期間
 履修登録期間^①^{※1}
 9/21～10/1 履修登録期間^②^{※1}
 9/24 後期授業開始、授業実施日
 9/26 9月学位授与式

10月	日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5	6
	7	8	9	10	11	12	13
	14	15	16	17	18	19	20
	21	22	23	24	25	26	27
	28	29	30	31			

10/8 授業実施日
 10/12 卒業論文等^{※3}題目届提出期限
 【院】修士研究・修士副論文題目届提出期限(音楽)
 10/22 避難訓練(緑園)
 10/22～26 【院】博士の学位申請論文提出期間
 10/23 避難訓練(山手)
 10/24 後期キリスト教講演会(午前休講)

11月	日	月	火	水	木	金	土
					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	

11/1 補講日
 11/2～5 大学祭期間(全学休講)
 11/3、4 大学祭
 11/6 補講日
 11/9 【院】修士論文・修了レポート題目届提出期限(人文・国際)
 11/17 緑園キャンパス入校禁止^{※4}
 11/21～23 後期集中講義履修登録期間
 11/23 授業実施日
 11/24 学部補講日

※1 履修登録期間: 前期(①4/3 14:00～4/5 15:00 及び ②4/7 10:00～4/16 18:30)
 後期(①9/18 9:00～9/19 12:00 及び ②9/21 13:00～10/1 18:30)

※2 AA面談: アカデミック・アドバイザー面談

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※4 緑園キャンパス入校禁止: 秋期特別入試のため

は授業実施日

12月	日	月	火	水	木	金	土
							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					

12/5～7 【院】修士研究・修士副論文提出期間(音楽)

12/10、11 卒業論文等^{※3}提出日
 12/12 クリスマス礼拝(午後休講)
 12/17 後期第14週試験時間割・レポート試験発表
 12/21 後期第15週試験時間割発表

12/25～1/3 冬季休業

1月	日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30	31		

1/4 授業再開

1/8～10 【院】修士論文・修士レポート提出期間(人文・国際)

1/18～20 緑園キャンパス入校禁止^{※5}

1/25～31 英語プレゼンメント・テスト実施期間(第3回)

1/28 授業終了

1/29 補講日

1/30、31 卒業試験公開演奏会(4年次)

2月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28		

2/1～4 緑園キャンパス入校禁止^{※6}

2/5～7 【院】修士学位審査研究発表・演奏会(音楽)

2/5～9 後期集中講義期間(第1ターム)

2月上旬～中旬 【院】最終試験期間

2/12 追試験日(4年次)

2/13～15 後期実技試験期間(1～3年次)

2/22 卒業・修了者発表

2/25 実技追・再試験日(1～3年次)

2/26、27 追試験期間(1～3年次)

2/26 卒業再試験(4年次)

3月	日	月	火	水	木	金	土
						1	2
	3	4	5	6	7	8	9
	10	11	12	13	14	15	16
	17	18	19	20	21	22	23
	24	25	26	27	28	29	30
	31						

3/7～9、11、12 後期集中講義期間(第2ターム)

3/21 卒業礼拝

3/22 学位授与式

(2018年度後期成績通知:3月末)

(2019年度入学式:4/1)

※3 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」

※5 緑園キャンパス入校禁止:大学入試センター試験会場のため。

※6 緑園キャンパス入校禁止:一般入試のため。

は授業実施日

2018年度授業日一覧

 の祝日は授業開講日

【前 期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2018年	第1回	4月9日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日
	第2回	4月16日	4月17日	4月18日	4月19日	4月20日
	第3回	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日	4月27日
	第4回	5月7日	5月1日	5月2日	5月10日	4月30日 みなし金曜日
	第5回	5月14日	5月8日	5月9日	5月17日	5月11日
	第6回	5月21日	5月15日	5月16日	5月24日	5月18日
	第7回	5月28日	5月22日	5月23日	5月31日	5月25日
	第8回	6月4日	5月29日	6月6日	6月7日	6月1日
	第9回	6月11日	6月5日	6月13日	6月14日	6月8日
	第10回	6月18日	6月12日	6月20日	6月21日	6月15日
	第11回	6月25日	6月19日	6月27日	6月28日	6月22日
	第12回	7月2日	6月26日	7月4日	7月5日	6月29日
	第13回	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日	7月6日
	第14回	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日	7月13日
	第15回	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日	7月20日

【後 期】	月(Mon.)	火(Tue.)	水(Wed.)	木(Thu.)	金(Fri.)	土(Sat.)
2018年	第1回	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日	9月28日
	第2回	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日	10月5日
	第3回	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	10月12日
	第4回	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日	10月19日
	第5回	10月22日	10月23日	午前 10月31日 午後 10月24日	10月25日	10月26日
	第6回	10月29日	10月30日	午前 11月7日 午後 10月31日	11月8日	11月9日
	第7回	11月12日	11月13日	午前 11月14日 午後 11月7日	11月15日	11月16日
	第8回	11月19日	11月20日	午前 11月21日 午後 11月14日	11月22日	11月23日
	第9回	11月26日	11月27日	午前 11月28日 午後 11月21日	11月29日	11月30日
	第10回	12月3日	12月4日	午前 12月5日 午後 11月28日	12月6日	12月7日
	第11回	12月10日	12月11日	午前 12月12日 午後 12月5日	12月13日	12月14日
	第12回	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日	12月21日
2019年	第13回	1月7日	1月8日	1月9日	1月10日	1月4日
	第14回	1月21日	1月15日	1月16日	1月17日	1月11日
	第15回	1月28日	1月22日	1月23日	1月24日	1月18日

2018年度手続きスケジュール(2018/4/1～2019/3/31)

手続窓口：特別の指定がない限り、教務課・山手事務室となります。
手続時間：特別の指定がない限り、各課室の開室時間となります。

種別	参照ページ	手続き	期間・期限	手続窓口	備考
履修	22	全般(履修登録、履修者数制限科目受付、訂正等)	—		参照ページで確認
	19	【前期】履修登録上限超過願	～4/5		3.4年次生
	25	【前期】集中講義履修登録	6/21～6/25		
	19	【後期】履修登録上限超過願	～9/19		3.4年次生
	25	【後期】集中講義履修登録	11/21～11/23		
試験・レポート	31	【前期】教務課提出レポート試験提出	7/20～7/26		
	31	【前期】追試験手続・レポート追受理願	～7/31		受験許可者、時間割等の発表は8/3
	31	【後期】教務課提出レポート試験提出	1/22～1/28		
	31	【後期】追試験手続・レポート追受理願	～1/31		受験許可者、時間割等の発表は4年次:2/6 1～3年次:2/13
成績	36	【前期】成績評価確認願	～4/9		前年度後期科目・通年科目分
	36	【後期】成績評価確認願	～9/24		当年度前期科目分
	36	成績評価確認願	～2/25		卒業年次生のみ。当年度後期科目・通年科目分
CLA	55	提案科目「私たちが学びたいこと」提案	～11/9		
語学	62	英語インテンシブから英語スタンダードへの変更	4/4	履修相談会場	当年度前期からの変更
	62	語学履修コース・言語変更願	4/16～4/20		4年次生
	60	語学履修コース・言語選択届	5/29～6/1	言語センター	当年度前期からの変更
	65	語学検定受験料補助	7/9～7/13	言語センター	1年次生全員必須
	62	語学履修コース・言語変更願	6/25～6/29		2.3年次生
	62	英語インテンシブから英語スタンダードへの変更	9/18	履修相談会場	当年度後期からの変更
	62	語学履修コース・言語変更願	10/1～10/5		2-4年次生
	65	語学検定受験料補助	10/8～10/12	言語センター	当年度後期からの変更
	62	語学履修コース・言語変更願	1/4～1/10		4年次生
	65	語学検定受験料補助	1/11～1/21	言語センター	1-3年次生 次年度前期からの変更
音楽	169	【前期】実技再試験該当者発表日	7/31		
	169	【前期】実技追試験・再試験手続	～8/2		
	167	専攻楽器等変更願	～10/31		
	167	「卒業公開演奏」曲目提出届	11/12～11/16	音楽学部共同研究室	
	169	【後期】実技再試験該当者発表日	2/1		4年次生
	169	【後期】実技追試験・再試験手続	～2/5		4年次生
	169	【後期】実技再試験該当者発表日	2/18		1～3年次生
卒業・卒業論文	169	【後期】実技追試験・再試験手続	～2/20		1～3年次生
	38	「9月卒業・修了希望届」	～4/13		
	38	「9月卒業」「卒業論文等題目届」	～5/11		
	38	「9月卒業」卒業論文等提出日	7/4～7/5	緑園キャンパス	各日11:00-16:00
	38	「9月卒業」卒業論文等遅延提出日	7/6	緑園キャンパス	11:00-13:00
	38	「9月卒業」「卒業論文等撤回願」提出期限	～7/26		
	38	「9月卒業」卒業発表・成績通知・成績評価確認願	～9/12		
	33	「9月卒業」卒業再試験手続	9/12～9/13		
	37	「卒業論文等題目届」提出	～10/12		
	37	卒業論文等提出日	12/10～12/11	緑園キャンパス	各日11:00-1600 提出会場等詳細は指示で指示
	37	卒業論文等遅延提出日	12/12	緑園キャンパス	11:00-13:00 提出会場等詳細は指示で指示
	37	「卒業論文等撤回願」提出期限	～1/28		
	33	卒業再試験手続	2/22～2/25		

種別	参照ページ	手続き	期間・期限	手続き窓口	備考
単位互換	171	【前期】横浜市内大学間単位互換出願	4/3～4/6		
	171	【後期】横浜市内大学間単位互換出願	6/28～7/4		1～3年次生のみ
	45	同志社女子大学国内交流履修志願	10/9～10/11		
	171	放送大学特別聴講希望申請期間	～6/22		【後期聴講分】 許可者の聴講手続期間は7/2～7/9
	171	放送大学特別聴講希望申請期間	～1/11		【次年度前期聴講分】 許可者の聴講手続期間は1/24～1/30
単位認定	173	入学前他大学等における履修による単位認定申請	～4/3		1年次生のみ
	169	入学後他大学等における科目等履修願	6/29		後期履修分
	169	入学後他大学等における科目等履修願	～1/31		次年度前期履修分
	169	【前期】技能審査の合格による単位認定申請	7/9～7/13		
	169	【後期】技能審査の合格による単位認定申請	1/11～1/21		
転学部・転学科	178	転学部・転学科願の提出期限	～10/1		募集がある場合のみ受付
休学・退学	176	【前期】休学願	～5/31		前期、通年分
	177	【前期】退学願	～9/28		前期末退学
	176	【後期】休学願	～11/30		後期または後期から1年間
	177	【後期】退学願	～3/29		後期末退学

目 次

2018 年度日程

学事日程.....	p.1	手続スケジュール.....	p.5
授業日一覧.....	p.4		

建学の精神・教育理念

建学の精神・教育理念・人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー	p.8
--	-----

学部共通事項

履 修

授業（授業時間、休講、補講、授業欠席）	p.12	取消）	p.22
授業科目の構成と単位制度	p.16	試験（試験種類、追試験・追レポート受理、再試験）	p.30
履修計画・履修指導（アカデミック・アドバイザー制度、CAP 制、特別指導・修学指導）	p.18	成績評価（GPA、ガイドライン、通知・保証人通知・差止、成績評価確認願）	p.34
履修登録（スケジュール、クラス指定、再履修、他学部・他学科科目、集中講義、人数制限・事前手続、遅延・訂正・		卒業の要件・卒業論文等	p.37

海外短期研修・留学・国内留学

海外短期研修・交換留学.....	p.40	セメスター・アブロード.....	p.43
認定留学.....	p.43	国内留学.....	p.45

学部教育課程

全学教養教育機構（CLA）

CLA コア科目	p.48	語学科目（コース・言語の選択・変更、コース修了要件、英語プレイスメント・テスト）	p.59
FERRIS+ 実践教養探求課程	p.49	履修の進め方・履修方法（クラス指定、再履修、履修登録）	p.63
基礎教養科目・総合課題科目	p.52	語学検定試験受験料補助	p.65
特色ある科目（自校教育、学生提案、教職員提案、キャリア）	p.55	各学科の履修方法	p.66
キリスト教関連科目	p.57	留学生科目	p.84
特別な手続が必要な科目（キリスト教Ⅲ、ボランティア、キャリア実習、音楽実技）	p.58		

文学部

文学部.....	p.91	コミュニケーション学科.....	p.114
英語英米文学科／英文文学科.....	p.92	社会調査士資格認定	p.124
日本語日本文学科／日本文学科.....	p.101		

国際交流学部

国際交流学部国際交流学科.....	p.128
-------------------	-------

音楽学部

音楽芸術学科.....	p.146	演奏学科.....	p.156
-------------	-------	-----------	-------

単位認定・単位互換

単位認定・単位互換.....	p.171
----------------	-------

学 籍

修業年限及び在学期間.....	p.180	復学・退学・除籍・留学.....	p.181
休学.....	p.180	転学部・転学科・再入学.....	p.182

資料編

組織.....	p.184	教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者	p.190
フェリス女学院大学の沿革.....	p.185	2018年度の主な制度変更	p.191
専任教員一覧.....	p.187		
役職者.....	p.189		

建学の精神・教育理念

建学の精神

フェリス女学院は、キリスト教の信仰に基づく女子教育を行うことを建学の精神としています。

フェリス女学院大学の学則第1条にも、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究及び教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的とする」と明記されています。

教育理念

さらに、フェリス女学院は「For Others」という教育理念を掲げています。これは、建学以来の永い歴史のなかで自然に人々の心の中で形をなし、学院のモットーとして受け継がれるようになったものです。

この言葉は「他者のために」と訳すことができます。自分やちかしい人だけではなく、より広い視野から他者の存在をも考えに入れて、他者のために行動することを、本学で学ぶ一人一人が受け継いでいます。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学では、人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーを次のように定めています。

ディプロマ・ポリシーは大学から社会に対する約束です。学士課程を修了する時点で最低限できるようにしていることを表しています。したがって、ディプロマ・ポリシーは、卒業時には必ず達成されなければなりません。

カリキュラム・ポリシーは、この達成のために学生が体系的性と整合性が担保されたカリキュラムで学べるよう定めるものです。

これら大学としての人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーは、各学部、学科でさらに具体化されています。該当ページを参照してください。

大全体

◆人材養成目的

フェリス女学院大学は、「キリスト教を教育の基本方針となし、学問研究および教育の機関として、女子に高度の教育を授け、専門の学問を教授研究し、もって真理と平和を愛し、人類の福祉に寄与する人物を養成することを目的」（学則第1条）としている。

さらに、2020年の学院創立150周年に向けて作成されたグランドデザイン「Ferris Univ.2020」においては、時代に先駆けて「キリスト教の信仰に基づく女子教育」を志した創立者メアリー・E. キダーの建学の精神を教育の基本方針となし、フェリス女学院の長い歴史の中で育まれてきた教育理念「For Others」を実践し、真理と平和および人類の福祉に寄与するとともに、新しい時代を切り拓くことが

できる豊かな教養および芸術的・文化的素養を身に付けた女性を育成することを教育の目的・使命としている。

上記の目的を実現するために、本学は以下の能力および知識・技能を修得・涵養し、総合的に活用できる人材を養成することを教育目標とする。

- (1) 教養および専門的知識・技能
- (2) 言語運用能力
- (3) 課題発見・解決能力
- (4) コミュニケーション能力
- (5) 他者との協働・共生力
- (6) 新しい価値の創造力

◆ディプロマ・ポリシー

フェリス女学院大学は、人材養成目的の実現のため、以下の能力を修得し、卒業要件を満たした者に対して学位を授与する。

- (1) 基本的教養および専門分野における様々な知識・技能を修得し、活用する能力。
- (2) 高度な外国語運用能力および専門的な日本語運用能力。
- (3) 批判的な思考力と高い倫理性をもとに、自ら課題を発見・解決し、現代社会に存在する諸問題に対処する能力。
- (4) 他者と効果的にコミュニケーションを図り、自己を的確に表現し発信する能力。
- (5) 多様な文化・価値観をもつ他者を理解し、他者のために働き、他者と共生する能力。
- (6) 進取の気性に富み、伝統を尊ぶ精神をもち、新しい価値を創造する能力。

◆カリキュラム・ポリシー

フェリス女学院大学は、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 教養および専門的知識・技能を修得させるために、共通科目・専門科目およびその他必要とする科目を体系的に編成し、講義・演習・実習を適切に組み合わせた授業を開講する。
4年間を通して学修の基礎となる共通科目として、必修科目「キリスト教」を中心に、「知のフロンティア科目」、「実践教養科目」、「フェリス教養講義科目」、「健康・スポーツ科目」、「語学科目」、「留学生科目」を開設し、「全学教養教育機構（CLA）」のもとに置く。また、実践的教養を深めることを希望する学生のために「Ferris+ 実践教養探求課程」を置く。

専門科目に関しては、各学部学科に、専門分野の中核となる知識・技能を体系的に学修できるよう科目を適切に配置する。

科目間の関連や科目内容の難易度を表現するナンバリングを行い、カリキュラムの構造を分かりやすく示すためにカリキュラムマップを作成する。また、学生一人ひとりが主体的な学びができるよう適切なアドバイスを行う。

- (2) 各学生が、必要とする言語運用能力を身に付けるために、多彩な語学科目、語学コースを置く。語学科目には、「英語」、「初習外国語」、「教養外国語」、「日本語」からなる4つの科目群（10言語）を置き、学生が自らの希望に応じて選択することを可能とする。また、語学コースには、「インテンシブ・コース」、「スタンダード・コース」、「2か国語履修コース」を置く。
- (3) 新しい時代を切り拓くことを可能とする課題発見・解決の方法を修得させるために、1年次から4年次まですべての年次に、批判的な思考を培う少人数編成の演習科目を配置する。
- (4) 研究・就業・生活などで必要とされるコミュニケーション能力を身に付けるために、各演習科目、学外での実習科目およびアクティブ・ラーニング型の演習科目など、インタラクティブな授業を置く。
- (5) 他者と協働・共生できる力を身に付けるために、異なる文化や、多様な社会的価値観をもつ他者

を理解し、幅広い視野をもつための授業を置く。

- (6) 分析力・理解力・表現力を高め、新しい価値を創造する能力を身に付けるために、各専門分野の専門的知識・技能を修得させる、双方向的かつ少人数の授業や各種演習科目を置く。

最終学年では、卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト・卒業演奏などの形で、学生は4年間の学びを総括する。

各科目の授業のシラバスには、受講生に求める課題や学修内容、事前・事後学修の内容等を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記する。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設け、このガイドラインを公表する。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケート、学生満足度調査などを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

各学部、学科

次の該当ページを参照してください。

文学部	p.91
英語英米文学科／英文学科	pp.92～93
日本語日本文学科／日本文学科	pp.101～102
コミュニケーション学科	pp.114～115
国際交流学部	p.127
国際交流学科	pp.128～129
音楽学部	p.145
音楽芸術学科	pp.146～147
演奏学科	pp.156～157

履修

履修
—

履 修

授 業

授業時間

緑園校舎

第1時限	第2時限	礼拝(月～金)	第3時限	第4時限	第5時限
9:00 }	10:40 }	12:20 }	13:10 }	14:50 }	16:30 }
10:30	12:10	12:40	14:40	16:20	18:00

山手校舎

第1時限	第2時限	礼拝(木)	第3時限	第4時限	第5時限
9:10 }	10:50 }	12:30 }	13:50 }	15:30 }	17:10 }
10:40	12:20	13:00	15:20	17:00	18:40

スクールバス時刻表

両キャンパスを1日に2往復しています。(定員:26名)

便	山手		緑園
	6号館	4号館	
1	12:25	12:30	13:05
3	15:35	15:40	16:15

便	緑園	山手	
		6号館	4号館
2	13:10	13:40	13:45
4	16:30	17:05	17:10

年間運行日はバス停に掲示します。授業期間外は運休です。

休 講

大学又は各授業科目の担当者にやむを得ない事情が発生した場合、授業を休講とすることがあります。休講情報は、FerrisPassportで周知します。

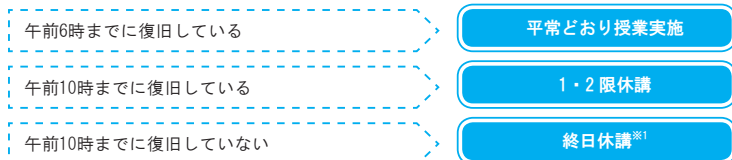
休講の掲示がなく、授業開始後30分以上経過しても担当者が入室しない場合は、自然休講とします。

休講についての電話照会には応じません。

全学休講措置

交通機関不通の場合

ストライキ、台風又は事故等による交通機関不通の場合、各校舎において次のような措置をとります。



※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

対象となる交通機関

緑園校舎：相模鉄道線

山手校舎：JR 根岸線及びみなとみらい線^{※2}

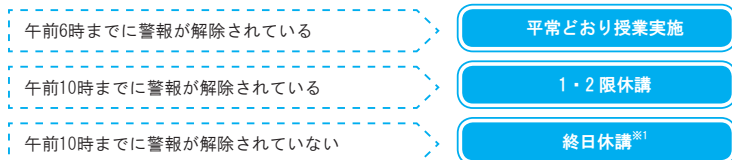
※2 山手校舎については、両線が不通となった場合のみ。いずれかの線が運行している場合は該当しない。

神奈川県下に暴風警報、暴風雪警報又は特別警報が発令された場合

台風接近等により、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に暴風警報又は暴風雪警報が発令された場合、次のような措置をとります（警報は「気象庁」もしくは「横浜地方気象台」（045-177）発表のものとします）。

また、神奈川県全域又は神奈川県東部（「横浜・川崎」「湘南」「三浦半島」）に特別警報（大雨、暴風、暴風雪及び大雪）が発令された場合も、上記に準じます。

休講措置をとる場合は、本学 Web サイト、FerrisPassport 及び緊急連絡システムにて周知します。



※1 授業開始後に警報の発令があった場合は、それ以降の当日の授業は終日休講とする。

新型インフルエンザが流行した場合

新型インフルエンザが流行し、厚生労働省から新型インフルエンザ対策行動計画が緑園・山手両キャンパスの近隣地域で発令された場合は、感染防止のため、発令が解除されるまで終日休講とします。

大規模地震の警戒宣言が発令された場合

大規模地震の判定会^{※1}が招集された場合や警戒宣言等が発令された場合には、休校とします。警戒宣言等が解除された時の授業再開については、交通機関が不通になった場合に準じます。

※1「大規模地震対策特別措置法」に基づく「地震防災対策強化地域判定会」

補 講

大学又は各授業担当者のやむを得ない事情により、休講となった授業については、原則として補講を行います。また、担当者の判断により補講を実施することがあります。

補講情報は、FerrisPassportで周知します。担当者から直接指示があった場合、その指示に従ってください。

授業欠席

大学では、授業を欠席する場合、原則として授業担当者に伝達するなどの措置はとりません。ただし、下記の事情により欠席する場合には、「感染症罹患届」又は「欠席届」の手続きを受け付けますので、速やかに申し出てください。出欠の扱いは各授業担当者の判断に委ねられています。

	欠席理由・状況	取扱窓口	必要書類	備 考
①	感染症にかかった	教務課	「診断・登校許可証明書」または「医師の診断書」（出席停止期間が確認できるもの）	※2を参照。
②	傷病等の理由により、2週間以上続けて欠席する	教務課	「医師の診断書」等、欠席理由・期間を証明できるもの	
③	忌引	教務課	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書（写）	※3を参照。
④	裁判員に選任され、審理に参加する	教務課	裁判所が発行する証明書	
⑤	その他特別な事情により、2週間以上続けて欠席する	教務課	理由を証明する書類	

* 証明書類は当該科目の授業に出席できなかったことを証明するもの、「〇月〇日～〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

※2 感染症にかかった場合

学校感染症（学校保健安全法施行規則第18条）にかかっていると疑われる場合には、通学を見合せ、速やかに医師の診療を受けてください。

医師が通学を許可するまでの期間、出席停止となります。授業への出席・試験の受験は認められません。出席停止期間の終了後2週間以内に、必要書類を教務課に提出してください。

→『Ferris Handbook2018』（p.38）

※3 忌引の場合

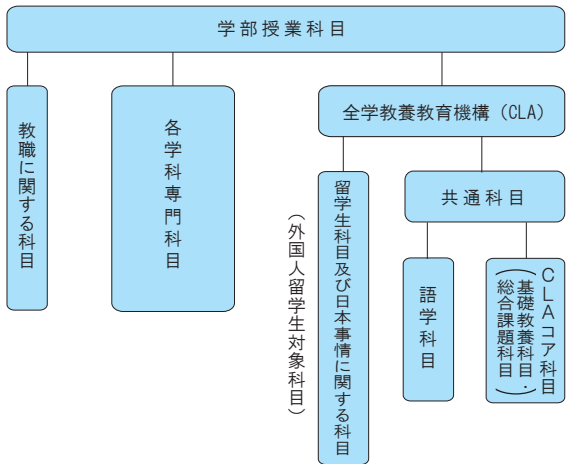
次の続柄の親族が亡くなった場合は、必要書類をもって教務課に申し出てください。忌引日数は、死亡日もしくは葬儀の日を含む次のとおりとします。日数には、土日・祝日を含みます。

続 柄	忌引日数
配偶者、父母、子	連続7日以内
配偶者の父母	連続5日以内
祖父母、孫、兄弟姉妹、配偶者の兄弟姉妹	連続3日以内

授業科目の構成と単位制度

授業科目の構成

学部授業科目群は、次の区分で構成されています。



また、各授業科目は、次のように分類されます。

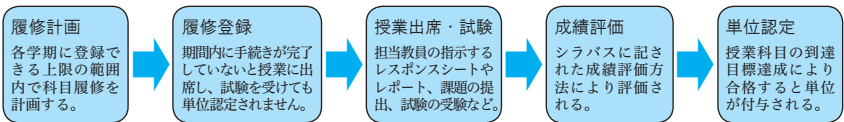
必修科目	必ず修得しなければならない科目
選択必修科目	一定の科目群の中から選択し、指定された方法で必ず修得しなければならない科目
選択科目	指定された科目群の中から自由に選択して修得する科目

単位制度

単位を修得するには

授業科目の単位の認定のためには、履修登録を行い、毎回の授業に出席し、試験、レポート、平常点評価等により合格すること、すなわち授業科目の到達目標を達成することが必要です。

一大学HP 大学学則第12条、第14条



* 授業の出席

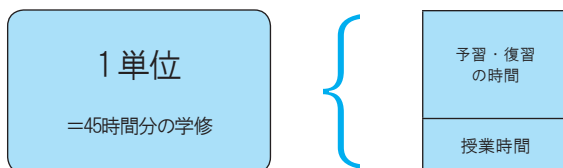
学則第13条に「学生は、履修授業科目について3分の2以上出席しなければ、当該授業科目の試験を受けることができない。」と定められていますが、言うまでもなく3分の1は欠席してもさしつかえないという意味ではありません。また、平常点とは単に出席（教室にいること）を指すのではなく、授業態度やグループワークでの参加度、レスポンスシートの内容などを含みます。

単位制度とは

卒業のために何をどれだけ学修すべきかを定めたルールの一つが単位制度です。

1単位は45時間の学修を必要とする内容で構成することが標準とされています。

この1単位修得に必要な「45時間の学修」には、毎回の授業時間のほかに、授業外学習（予習・復習などの自習時間）が含まれています。



単位の計算

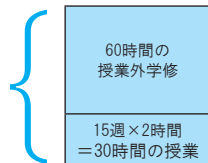
授業の方法により、教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を定めています。なお、本学では1回（90分）の授業を 2時間 として計算しています。

講義科目

15時間の授業をもって1単位とする。

【例】

2単位
90時間分の学修



講義科目では、2単位修得のためには60時間分の授業外学修が必要。
この「授業外学修」はシラバスの「教室外（事前・事後）の学習方法」に明記されており、さらに授業時に教員から具体的に指示される場合があります。

演習科目

15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

実技、実習及び実験科目

30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

ただし、音楽部学部における個人指導による実技については、別に定める。

履修計画・履修指導

アカデミック・アドバイザー制度

学生みなさんの素質と可能性を最大限に生かし、充実した学修生活を送れるよう、専任教員が学生一人ひとりを担当し、履修計画をはじめ学修全般の指導と助言を行う制度です。在学中、成績不振に陥った場合にはともに原因解決に取り組みます。

学期はじめの履修登録前には、アドバイザーによる個別面談を行い、毎学期の履修計画について助言します。授業期間中のアドバイザーへの相談は、オフィス・アワーを利用してください。

1. アカデミック・アドバイザー担当教員

アカデミック・アドバイザーは全て専任教員が担当します。原則として、下記の科目担当者がアカデミック・アドバイザーとなります。科目担当者が非常勤講師の場合は、担当者に代わり専任教員（各学科教務委員または、学科が個別に定めた教員）がアカデミック・アドバイザーとなります。

学部	学科	1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文	英語英米文学科	1年次前期 「R&R(入門ゼミ)」担当者				3年次前期 ^{※2} 「専門ゼミA」 担当者			
	日本語日本文学科								
	コミュニケーション学科					3年次前期 ^{※2} 「専門ゼミⅠA」 担当者			
国際 交流	国際交流学科	1年次前期 「導入演習」 担当者	1年次後期 「基礎演習」 担当者	2年次前期 「基礎演習」 担当者	2年次後期 「基礎演習」 担当者	3年次前期 ^{※2} 「専門演習」 担当者			
音楽	音楽芸術学科	音楽芸術学科専任教員 ^{※1}				3年次前期 ^{※2} 「専門ゼミⅠ」 担当者			
	演奏学科	演奏学科専任教員 ^{※1}							

※1 入学時に学科が個別に定め、1年次前期のオリエンテーション期間に発表します。

※2 他学部・他学科ゼミを履修する場合は、所属する学科が個別に定めます。各学科教務委員に確認してください。

2. 面談の実施

(1) 学期始めの面談日

各学期の始めにアカデミック・アドバイザー面談日を設けています。学期ごとの対象者、実施時間等については、FerrisPassportの掲示にてお知らせします。

※特別指導対象学生（p.21参照）は、アカデミック・アドバイザーによる学修支援の一環として学期始めの面談に加え、学期中も面談を数回行います。

(2) オフィス・アワー

オフィス・アワーとは、学生が教員を個人研究室等に訪ね、自由に質問や相談ができる時間です。講義や履修に関することだけでなく、学生生活や将来の進路に関することについても気軽に相談し、助言を求めることができます。非常勤講師の先生にも、授業前後の休み時間を利用して相談することができます。

専任教員のオフィス・アワーはFerrisPassportの教員時間割表で確認できます。事前予約などの指示がある場合は指示に従ってください。また、連絡手段がある場合は、事前に連絡をとることをお勧めします。

履修登録できる単位数の上限（CAP 制）

十分な学修時間を確保するため、1学期に履修登録できる単位数は24単位までとしています。ただし、成績状況（GPA、修得単位数）に応じて次のとおり例外を設けています。

成績優秀学生※1	28単位
特別指導対象学生※2	17単位

※1 直前学期の成績が「GPA3.0以上かつ修得単位数20以上」に該当する学生

※2 1年次後期～3年次前期の該当学生（p.21参照）

登録できる単位数のルール

(1) 登録できる単位数の算出方法

下記の条件で算出され、上限を超えた履修登録はエラーとなります。

上限に含まれる	①通常の授業期間に開講される科目すべて ②卒業要件に算入されない授業科目（教職に関する科目等） ③単位互換制度による履修科目（横浜市内単位互換、同志社女子大学、放送大学） ④他大学等における科目等履修による履修科目
上限に含まれない	集中講義科目、海外短期研修等の科目、上記④のうち大学の休業期間中など通常の授業期間外に履修する科目 詳細は、学期始めに FerrisPassport に掲示します。

(2) 通年科目の取扱い

卒業論文等、通年科目の単位は1/2ずつ各学期の履修登録単位数に加算されます。

(3) 上限を超過しての履修登録の取扱いについて

特別な事由により、3年次生・4年次生には上記の上限を超えて履修登録を認める場合があります。上限を超過した履修の許可を得るためには、下記のとおり所定の手続が必要です。

申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ①「履修登録上限超過願」（教務課備付）に記入し、所属学科の教務主任または教務委員の確認印（またはサイン）を受けてください。その際には必ず「FerrisPassport 成績照会画面」のコピーを持参してください。 ② 上記①を経て、必要書類を期限内に教務課に提出してください。
必要書類	① 履修登録上限超過願 ② FerrisPassport 成績照会画面コピー
注 意	・ 上限を超えて履修が許可される場合は、当該履修をしないと卒業延期が確定する、教職等の資格取得が困難になるなど、特別な事由がある3年次生・4年次生に限ります。なお、この場合も、十分な学修時間が確保できることが前提となります。 ・ 「履修登録上限超過願」に所属学科の教務主任または教務委員の確認印（またはサイン）がない場合は受理できません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

責任ある履修とは

学生には、登録した科目に対して最後まで責任をもって履修を続けることが求められます。

登録期間終了後に、取消を希望する科目がある場合は、登録取消制度を利用することができます。ただし、手続期間や取り消しできない科目等をよく確認してください。(p.29「登録取消」参照)

成績評価

学修の成果は、修得した単位数と共に、その成績評価を数値化した GPA により評価されます。

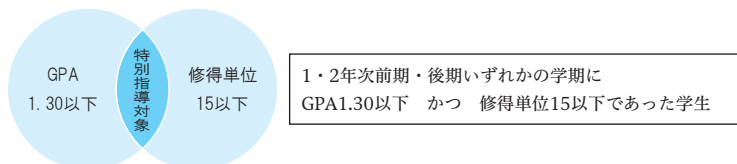
GPA は成績レベルを質的に計る指標となります。たとえば、登録単位数が多くても、修得した単位数が少ない場合、GPA は必然的に低くなります。(p.34「GPA 制度」参照)

特別指導対象学生

(1) 対象者

次の条件に該当する学生には、特別指導という形で学修支援を行います。

対象者には、3月・9月に書面でお知らせします。



特別指導対象学生となった学期の成績が、GPA1.31以上または修得単位が16以上となった場合、次の学期は特別指導対象学生ではなくなります。

(2) 学修支援

アカデミック・アドバイザーが、学期始めの面談に加え、学期中も継続して月1回の定期的な面談を行います。面談を通して、前学期 GPA が低くなった原因をともに考え、履修計画をはじめとした学修全般の指導及び助言を行います。

また、必要な場合には、学生本人の了承を得たうえで、学生支援センター又は保健室への紹介などの対応も行います。

(3) 履修登録の上限

最後まで履修を続けられるよう、その学期の履修登録の上限を17単位とします。当該学期を休学した場合は、復学时にアカデミック・アドバイザー面談を行ったうえで、特別指導対象から外れることにより、17単位の履修登録の上限は適用されません。

(4) 保証人への報告

対象学生の保証人に対しては、アカデミック・アドバイザーとの相談によって、前学期成績不振であったこと、今学期特別指導による学修支援が行われること等を書面で知らせます。

また、指導実施後、その報告書を保証人に送付します。

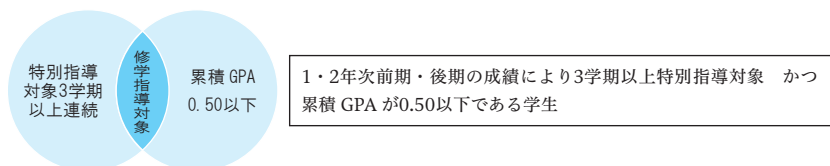
(5) 学生・保証人面談

2学期以上連続して特別指導の対象となった学生を対象に、アカデミック・アドバイザーが必要と判断した場合には、成績不振の理由や卒業までの履修計画、退学も含めた進路を視野に入れて今後の方針を話し合います。

(6) 修学指導

特別指導の実施にも関わらず、成績不振が続き次の条件に該当した学生に対し、必要な場合には、教務部長による段階に応じた学修姿勢・学生生活の見直しに関する修学指導を行います。

教務部長による指導を経ても、学修姿勢と学生生活の改善等が見られない場合は、進路指導（退学勧告を含む）を行うことがあります。また、当該学期を休学した場合は、復学时に教務部長との面談を行います。



履修登録

2018年度 履修のスケジュール

	前期	後期	参照・備考
成績通知	3月末	9月12日(水)	p.36 参照
アカデミック・アドバイザー 面談 (希望者、特別指導対象者) 後期は4年次生全員	4月4日(水)	9月18日(火)	p.18 参照
成績評価確認願 (希望者のみ)	～4月9日(月)18:00	～9月24日(月)18:00 ※卒業学期生は p.5 参照	p.36 参照
履修計画	■登録単位数の上限-----p.19 参照 ■所属学科カリキュラムの理解(共通科目)-----各該当箇所を参照 ■所属学科カリキュラムの理解(専門科目)-----各該当箇所を参照 ■年次・クラス指定-----p.23 参照 ■再履修-----p.23 参照 ■同一科目の重複履修-----p.23 参照 ■他学部・他学科科目の履修-----p.24 参照 ■教職科目の履修-----「教職に関する科目」開講科目表参照 ■集中講義の履修-----p.25 参照 ■人数制限のある科目・事前手続が必要な科目-----p.26 参照		
履修登録	4月3日(火) 14:00 ～4月5日(木) 15:00 4月7日(土) 10:00 ～4月16日(月) 18:30	9月18日(火) 9:00 ～9月19日(水) 12:00 9月21日(金) 13:00 ～10月1日(日) 18:30	p.27 参照
履修者数制限科目 希望受付	4月3日(火) 14:00 ～4月5日(木) 15:00	9月18日(火) 9:00 ～9月19日(水) 12:00	p.26 参照
履修者数制限科目 履修許可者発表	4月7日(土) 10:00	9月21日(金) 13:00	発表は FerrisPassport 及び 教務課掲示板で行います。

授 業 受 講 開 始

履修登録確認・訂正申告	4月17日(火) 9:00 ～4月23日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	10月2日(火) 9:00 ～10月8日(月) 18:00 ※遅延登録者は登録日から 7日以内(土日を含む)	pp.28～29 参照
遅延登録(*1)・ 履修科目取消(希望者のみ)	4月17日(火) 9:00 ～4月23日(月) 18:00	10月2日(火) 9:00 ～10月8日(月) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。
履修登録 (集中講義、海外語学実習等 希望者のみ*2)	6月21日(木) 9:00 ～6月25日(月) 18:00	11月21日(水) 9:00 ～11月23日(金) 18:00	pp.23～25 参照
履修登録確認・訂正申告 (集中講義 希望者のみ)	6月27日(水) 9:00 ～7月3日(火) 18:00	11月27日(火) 9:00 ～12月3日(月) 18:00	pp.28～29 参照
遅延登録(*1)・履修科目取消 (集中講義 希望者のみ)	6月27日(水) 9:00 ～7月3日(火) 18:00	11月27日(火) 9:00 ～12月3日(月) 18:00	この期日を過ぎた申し出は 理由の如何を問わず一切認め られません。

*1：大学が認める理由に該当した場合は遅延手数料が免除されます。

*2：集中講義科目や海外短期研修など、休業期間を利用した授業科目の履修登録期間は、通常の科目とは別に設定されています。

履修上の注意

大学では、学生が自らの責任において各自の学修計画を立て、所定の履修方法に基づいて単位を修得しなければなりません。履修に当たっては、定められた履修方法や履修登録方法に十分注意する必要があります。

1. 履修年次

履修年次が指定されている授業科目は、その年次に履修してください。

2. クラス指定及び変更手続

クラスを指定して開講されている授業は、指定クラスにおいて履修してください。

必修科目の重複によりやむを得ずクラスを変更する必要がある場合は、次の手続を行わなければなりません。

(1) キリスト教 I クラス

原則として、クラス変更を認めません。ただし、キリスト教科目責任者 (p.190) が特に認めた場合は、「クラス変更願」(教務課備付)を提出することができます。

(2) 初習外国語クラス

当該言語の語学責任者 (p.190) と変更先のクラスの担当者に申し出て、了承を得てください。

(3) 英語クラス

原則としてクラス変更を認めません。ただし、英語の語学責任者 (p.190) が特に認めた場合は、(2)と同様の手続によって変更が認められます。必ず履修相談を受けてください。

(4) その他の授業科目のクラス

各自が所属する学科の教務委員 (p.190) と変更先のクラスの担当者に、その旨申し出て了承を得てください。

上記の手続を経ないクラス変更は、認められません。

3. 再履修

再履修とは、履修した授業科目の単位を修得できなかった場合に、その科目を改めて履修することをいいます。履修登録とは別の手続きが必要になる場合がありますので、各科目の履修方法にしたがってください。

4. 同一授業科目の重複履修

同一授業科目を重複履修することは原則として認められません。ただし、学科等がカリキュラム上有益と定めた科目については、重複履修することができます。重複履修可能な科目は「開講科目表」中に網かけ  表示されています。

5. 他学部・他学科の専門科目の履修

(1) 専門科目の他学部・他学科開放／「教職に関する科目」の開放

開講科目表の「開放」欄に次の表示がある科目は、所属する学科や教育職員免許状取得希望の有無にかかわらず履修可能な科目で、卒業に必要な単位として算入されます。

表示	意 味	単位が算入される科目区分
▲	他学部・他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目
■	他学科の学生が履修可能な科目	自由に選択する科目

ただし、音楽学部専門科目のうち、以下の科目については、別途手続きが必要です。

① レッスン科目

科目名	注意事項
PA 副科個人実技 A,B	別途、実技料が必要です。 詳細は「実技レッスン (p.165)」を参照。
PA 副科グループ実技 (パレエ) A,B	
PA 第2専攻グループ実技 (パレエ基礎) A,B	
PA 第2専攻グループ実技 (パレエ応用) A,B	
PA 教職副科個人実技 A,B	

② クラス授業の実技科目

科目名	注意事項
弦楽アンサンブル A,B	・オーデションが課せられます。 (弦楽器または管楽器専攻の演奏学科生を除く。)
管楽アンサンブル A,B	
フルートアンサンブル A,B	
室内楽 1 A,B	

(2) 3・4年次演習 (ゼミ) 科目等の他学部・他学科開放

各自が所属する学部・学科が定める3・4年次演習 (ゼミ) 科目及び卒業論文等に代えて、他学部・他学科の3・4年次演習 (ゼミ) 科目及び「卒業論文」を履修することが可能です。

ただし、音楽学部生については、他学部・他学科の3・4年次演習 (ゼミ) 科目及び「卒業論文」を履修する場合でも、所属学科が定める3・4年次必修科目を履修しなければなりません。

申込対象者：当年度2年次生のみ

他学部・他学科に開放する演習 (ゼミ) 科目等は次のとおりです。

学部	学 科	他学部・他学科に開放する科目
文	英語英米文学科	「英米文化専門ゼミ A, B」 「英米文化卒論ゼミ A, B」 「卒業論文」
	日本語日本文学科	「日本語文化専門ゼミ A, B」 「日本語文化卒論ゼミ A, B」 「卒業論文」
	コミュニケーション学科	「コミュニケーション専門ゼミ I A, I B」 「コミュニケーション専門ゼミ II A, II B」 「卒業論文・卒業制作」
国際交流	国際交流学科	「専門演習」 「卒業論文」
音 楽	音楽芸術学科	「専門ゼミ I, II, III, IV」 「卒業プロジェクト」

手続の日程及び受け入れ人数・条件等詳細については、掲示でお知らせします。質問がある場合には、教務課に問い合わせてください。

6. 集中講義科目の履修

授業科目によっては、通常の授業期間外に、集中講義によって授業を行うことがあります。

(1) 日程

実施期間は学事日程（pp.1～3）を参照してください。

科目ごとの日程・授業時間の詳細は、各学期始めに FerrisPassport でお知らせします。

(2) 注意事項

- ① 卒業年次生は卒業学期に集中講義期間（第2ターム）の科目を履修することはできません。
- ② 日程が重複する複数の集中講義科目がある場合、履修できるのは一科目のみです。
- ③ 集中講義の日程が他の学事と重なることによって、すべての授業に出席できない場合、当該集中講義科目を履修することはできません。
- ④ 集中講義科目は、各学期に履修登録可能な単位数には含まれません。
（p.19「登録できる単位数の算出方法」参照）

7. 人数に制限のある科目・事前に手続が必要な科目の履修

種類	開講科目表 の表記	事前 手続	履修 登録	注意事項
履修者数制限科目	◆	必要	自動*1	履修希望者は、各学期の所定の日時に FerrisPassport で履修希望 申込をしてください。履修優先順位に従い、大学が履修者の選抜及 び履修登録を行います。選抜された科目の履修取消はできません。 履修許可者が定員に満ちていない場合であっても、原則として追加 はありません。ただし、学科等の判断により、追加募集を行うこと があります。その場合には FerrisPassport でお知らせします。
学科選抜科目	学	必要	自動*1	学科等でクラス指定や履修者の決定を行う科目については、各学科 等の指示に従って手続きをしてください。学科等の選抜結果に従っ て、大学が履修登録を行います。
初回授業時選抜科目	初	不要	各自*2	初回授業時に担当教員が選抜を行います。履修を希望する学生は初 回授業に必ず出席して、担当教員の指示を受けてください。 選抜の結果履修が許可されなかった科目をすでに FerrisPassport で履修登録を行っている場合は、履修登録期間内に各自で科目の 登録削除を FerrisPassport で行ってください。
要手続科目	要手続	必要	自動*1	実習等で事前に説明会への参加や申込手続が必要な科目です。手 続きについては開講科目表、シラバスの指示、掲示等で確認をして ください。
教員の指示がある科目		不要	各自*2	シラバス等で担当教員から初回授業時に履修者を選抜することが指 示されている場合があります。初回授業を欠席して、履修の権利 をなくさないよう、事前にシラバスをよく読んでください。
収容人数の超過科目		不要	各自*2	特定の科目に履修者が集中し教室変更によっても教室収容人数を超え る状態を解消できないと大学が判断した場合には、当該科目の履修登録 を打ち切ることや、履修登録者の選抜をする場合があります。この場合の 選抜は、カリキュラム、年次などの面から総合的に判断をしますが、初回授 業を欠席した学生には履修の権利がなくなることにつけてください。

*1：大学が登録を行うので、履修登録期間及び履修登録確認期間に登録されていることを確認すること。

*2：各学期の履修登録期間に各自が FerrisPassport で履修登録・取消を行うこと。

8. 履修登録

履修登録は、学生がその学期・学年に履修するすべての授業科目を申告する手続です。定められた期間に、履修登録及びその確認を行わない学生は、その学期における履修の権利を放棄したものとみなします。また、履修登録及びその確認の手続不備等による不利益は本人の責任となるので、十分注意してください。

(1) 履修登録上の注意

- ① 履修登録は、本人の責任において行うこと。
- ② 履修上の注意に違反して履修登録を行うことはできない。
- ③ 履修登録は、定められた履修登録期間のみ受け付ける。理由なく手続を行わなかった場合は、当該学期・学年の授業科目の履修は一切認められない。
- ④ 通年科目は前期に履修登録を行うこと。
- ⑤ 集中講義科目及び海外研修など、休業期間を利用した授業科目は、通常科目とは異なる日程で履修登録を行うので注意すること。(p.22「2018年度履修のスケジュール」参照)
- ⑥ 履修登録を行った際には、必ず「学生時間割表」を印刷、保存しておくこと。(登録の確認を行う際、「学生時間割表」が唯一の根拠となります。)
- ⑦ 履修登録期間終了後の登録科目の追加・変更は、一部の授業科目を除き、認められません。(p.28「追加・変更が認められる科目」参照)
- ⑧ 学内のPCをはじめ、インターネットに接続できる環境であれば学外からも登録できます。FerrisPassportはPC版及びスマホ版がありますので、アクセス機器に応じて適切なサイトを利用してください。なお、学内のPC以外からの登録については、利用環境により動作保証外の場合があり、システムが正常に動作しない可能性があります。履修登録確定後は、必ずPCサイトから「学生時間割表」を印刷し、保存してください。

履修登録期間中、システムに不具合が生じたり学内でのパソコンの稼動状況に変更があった場合には、次の方法でお知らせします。

 - ・本学公式web サイト (<http://www.ferris.ac.jp/>)
 - ・FerrisPassport
 - ・学内掲示板
- ⑨ 履修登録期間中には、利用者の集中により、学内PC利用の混雑や、システムの動作低下が発生する場合があります。時間に余裕を持って登録してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(2) 遅延登録

やむを得ない理由（追試験許可理由に準ずる。p.32参照）により、履修登録期間に手続できない場合は、最終日の翌日から数えて7日以内（休日を含む。）に必要書類（「遅延登録願」（教務課備付）及び証明書等）を提出し、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。

その他の理由で履修登録期間後に履修登録を希望する者は、所定用紙（「遅延登録願」（教務課備付））によって願い出て、許可された場合のみ履修登録を行うことができます。この場合、遅延手数料（5,000円）が徴収されます。

(3) 登録確認・訂正申告

履修登録期間終了の翌日以降、FerrisPassport で登録科目の確認ができます。必ず履修登録時に保存した「学生時間割表」と照合し、その学期に履修すべきすべての科目がもれなく登録されているか、削除すべき科目の登録が残っていないかを確認してください。

登録されていない科目がある場合は、履修登録時の「学生時間割表」を印刷して持参し、定められた期日までに教務課で訂正申告の手続きを行わなければなりません。

履修登録期間に履修登録をした者が「履修登録訂正申告期間」に履修登録の追加・変更が認められるのは、次の必修（相当）科目等のみです。

追加・変更が認められる科目	
【CLA コア科目／基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」	【音楽学部専門科目】 「専攻実技Ⅰ A・B ～Ⅳ A・B」 「2年次修了公開演奏」 「卒業公開演奏」（4年次前期のみ） 「卒業プロジェクト」（4年次前期のみ）
【語学科目】 当該学生にとっての必修相当語学科目	
【文学部専門科目】 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「卒業論文・卒業制作」（4年次前期のみ）	【教職に関する科目】 「教育実習2」「教育実習3」（4年次前期のみ）
【国際交流学部専門科目】 「研究入門」 「卒業論文」（4年次前期のみ） 「海外環境フィールド実習」 「海外エコツーリズム実習」 「農環境体験実習」	【その他】 当該科目を履修しなければ卒業延期となる授業科目 学科選抜科目（＊） 集中講義科目（＊2）

＊追加・変更には学科・科目責任者の承認が必要です。

＊2 集中講義科目で履修者数制限科目があった場合、選抜結果、当該科目の履修を許可されなかった学生は、同学期の別の集中講義科目（履修者数制限科目等を除く）の追加登録が認められます。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(4) 登録取消

履修登録した科目の取消を行う場合には、履修登録取消の期間に各自で FerrisPassport で取消の手続きをしてください。

【注意事項】

- ① 科目の性格上、次のとおり取り消しできない科目があります。

取り消しができない科目	
【CLA コア科目／基礎教養科目】 「キリスト教Ⅰ」（後期開講科目を除く） 「スポーツ実習（8）」「スポーツ実習（18）」	【語学科目】 英語科目（英語 e 科目を除く） 初習外国語科目（＊）
【CLA コア科目／総合課題科目】 「キリスト教Ⅲ（1）」 「キャリア実習（短期インターンシップ）」 「キャリア実習（長期インターンシップ）」	【その他】 履修者数制限科目 学科選抜科目 要手続科目

＊英語科目及び初習外国語科目については、当該学生にとって必修相当ではない科目のみ、語学責任者（p.190）の判断により取り消しが認められることがあります。取り消しを希望する学生は、スケジュールに従って「学生時間割表」に語学責任者の承認印を受けた上で教務課で手続きを行ってください。

- ② 取り消した科目に代えて、新たに別の科目を登録することはできません。
- ③ 通年科目については、前期・後期のいずれの期間でも取消申請をすることができます。
- ④ 集中講義期間中に、感染症罹患による出席停止になった場合、履修科目取消期間を過ぎても、登録している集中講義科目の履修を取り消すことができます。（p.15「授業欠席」参照）

【履修科目取消申請期間】

→スケジュール、手続窓口はp.5

試 験

1. 試験の種別

種 別	内 訳	掲 示	教務課による追加措置			備 考
			追試験	再試験	追受理	
授業内試験	教務課取扱い試験	○	○	—	—	全て担当者の指示に従ってください。
	担当者による試験	×	×	—	—	
レポート試験	教務課提出	○	—	—	○	全て担当者の指示に従ってください。
	担当者へ直接提出	掲示のあったもの	○	—	—	
		掲示のなかったもの	×	—	—	
音楽学部実技試験	実技試験	○	—	○	—	pp.168～169参照

2. 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、試験を受けることはできません。また、受験しても無効となり、当該科目の成績は取り消されます。

- (1) 履修登録がされていない。
- (2) 履修科目について、出席が3分の2に満たないと担当者が判断した。

3. 教務課取扱い試験

授業中に行われる試験のうち、教務課から掲示で発表される試験を「教務課取扱い試験」と呼びます。実施期間は授業第14週または第15週です。日程の詳細は授業日一覧（p.4）で確認してください。試験は通常の授業と異なる教室や5限終了後に行うことがあります。

一試験時間割発表日は学事日程(pp.1～3)参照

(1) 注意事項

試験に関する掲示は発表後に変更される場合があるので、FerrisPassport 等の更新情報に十分注意してください。また、受験上の注意は下記のとおりとします。

- ① 着席は原則として1人掛けまたは2人掛けとし、2人掛けの場合は各々両端に座ってください。
- ② 試験中は監督者が見やすいように、学生証を机上に置いてください。
- ③ 当日学生証を忘れた場合は、教務課で受験票の交付を受けてください。受験票は交付日当日のみ有効です。(返却不要です。)
- ④ 下敷きの使用及び筆記具の貸し借りは禁止します。
- ⑤ 科目担当者からの指示がない限り携帯電話・スマートフォン及びパソコン・タブレット端末等の電子機器の使用は禁止します。
- ⑥ 遅刻は試験開始後20分までに限り認められます。ただし、試験時間は延長しません。
- ⑦ その他試験中は全て監督者の指示に従ってください。

4. レポート試験

(1) レポート試験に関する掲示

教員から教務課に届出のあったレポート試験については、FerrisPassport で周知します。

→掲示日程は学事日程(pp.1～3)参照

(2) 教務課提出のレポート試験

提出方法	教務課所定の表紙に必要事項を記入し、ホチキスで綴じて所定のレポートボックスに提出してください。本人提出を原則としますが、病気その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は代理人提出を認めます。郵送による提出は一切受理しません。 なお、一度提出したレポートは返却できません。また、「7. レポート追受理」を除く遅延提出はいつさい認められません。
------	---

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 担当者に直接提出するレポート試験

提出方法等すべて担当者の指示に従ってください。教務課ではいつさい取扱いません。

(4) レポート作成・提出に際しての注意事項

レポート作成にあたり他人の文章を引用する際は、その部分を括弧「」で囲む等引用がわかるようにした上で出典を明記しなければなりません。下記の事項を十分に注意してください。

- ① 書物、論文及びインターネットから転記したり、それを組み合わせたりしてあたかも自分の文章のように装うことは、引用ではなく「盗用」です。盗用は絶対に許されない行為です。
- ② ①のような意図はなくても、出典を明記しないで引用を行うと、盗用とみなされる場合があります。
- ③ 提出されたレポートが上記①・②に基づき盗用とみなされた場合は、「不正行為」とみなします。
- ④ レポートにおいて不正行為を行った学生には、次項目「5. 不正行為を行った学生への措置」記載の措置等がとられます。

5. 不正行為を行った学生への措置

筆記試験	当該学期の全科目の履修登録を無効とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分(停学、訓告等)がなされることがあります。
レポート試験	当該科目の評価を不合格(H)とする措置等がとられます。また、学則に基づく処分(停学、訓告等)がなされることがあります。

6. 追試験

教務課取扱試験(p.30)についてのみ、追試験許可理由(下記(1)参照)のいずれかに該当し、受験資格があると認められた学生は、願い出によって追試験を受けることができます。

音楽学部実技科目の追試験

→p.169「実技追試験」

(1) 追試験許可理由

	欠席理由	必要な証明書類*
①	傷病	医師の診断書
②	感染症にかかった場合の出席停止 詳細は p.15「授業欠席」を参照。	感染症罹患届
③	就職試験受験	受験先の証明書等
④	大学院受験	受験票（写）
⑤	放送大学（特別聴講学生）第1学期の単位認定試験	放送大学の試験日程を証明する書類
⑥	裁判員招集 詳細は p.15「授業欠席」を参照。	裁判所からの呼び出し状
⑦	忌引 詳細は p.15「授業欠席」を参照。	欠席日を確認できる「会葬礼状」または死亡を確認できる公的証明書（写）
⑧	交通機関の事故	当該交通機関が発行する遅延証明書等
⑨	全国レベルの大会等への出場	当該大会等のプログラム及び参加を証明する書類
⑩	その他特別な事情により、教務部長が必要と認めた場合	理由を証明する書類

*証明書類は当該科目試験日に受験できなかったことを証明するもの、「〇月〇日～〇月〇日」のように期間が明記されたものでなければなりません。

(2) 受験手続

追試験受験を希望する場合は、次の期日までに教務課窓口にて「追試験許可願」（教務課備付）を記入の上、証明書類及び受験料*（証紙購入）を添えて、教務課に提出しなければなりません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。この期日を過ぎた場合、一切受け付けることができません。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、追試験該当者発表日以降に受験料を返還します。

*1科目につき1,000円。追試験許可理由②及び⑥の場合は不要です。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 追試験の注意事項

- ① 音楽学部実技科目の追試験については別途掲示します。
- ② 追試験の成績評価は2割減点とします。（追試験許可理由②及び⑥の場合は減点はありません。）
- ③ 追試験の実施は定められた期日1回限りです。
- ④ 合格・不合格評価科目及び集中講義科目については追試験を実施しません。

7. レポート追受理

レポート追受理とは、やむを得ない理由（追試験許可理由に準ずる。上記参照）により提出期限内に教務課提出のレポートを提出できない場合、下記の手続により提出することができる制度です。期日を過ぎた場合、一切受け付けることができません。

また、この場合の成績評価は、追試験の規定に準じます。

提出物	レポート追受理願（教務課備付）
	証明書類
	レポート本体
提出場所	教務課

→スケジュール、手続窓口はp.5

8. 再試験

再試験とは、音楽学部の必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価F）とされた学生が、願い出て認められた場合、改めて受験の機会が与えられる制度をいいます。

→p.169「実技再試験」

9. 卒業再試験

卒業再試験とは、卒業学期に履修した科目（卒業再試験対象外科目を除く）に対し不合格評価「F」を受けたため、卒業要件単位に4単位以内の不足が生じた者に、再度試験の機会を与える制度です（実施日は「学事日程」（pp.1～3）参照）。不合格評価「G」「H」を受けたため、卒業要件を満たせなくなった者には、受験資格が与えられません。

(1) 卒業再試験受験資格者

- ① 受験資格者は、教授会において確定された後、発表される。
- ② 受験資格者は卒業学期に評価「F」を受けた科目の中から、不足単位数に相当する分の科目の卒業再試験を受験することができる。

(2) 卒業再試験対象外科目

① 集中講義科目		
② 追試験受験科目		
③ 音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に試験を実施する必修・選択必修レッスン科目		
④ 合格・不合格評価科目（p.35）		
⑤ 実習・実技科目	CLA コア科目／基礎教養科目	「音楽実技（声楽アンサンブル入門）」 「音楽実技（ピアノ）」 「音楽実技（弦楽器）」 「音楽実技（管楽器）」 「音楽実技（声楽）」 「音楽実技（オルガン）」
	語学科目	「海外語学実習」
	英語英米文学科専門科目	「Summer Abroad (US)」 「Summer Abroad (UK)」 「Field Study 1,2」 「Spring Abroad」
	日本語日本文学科専門科目	「日本語教育実習1,2」
	国際交流学部専門科目	「アジア現地実習」「ヨーロッパ現地実習」 「地球環境実習」「オーストラリア現地実習」 「農環境体験実習」「海外エコツーリズム実習」 「Spring Abroad」 「海外環境フィールド実習」
	音楽学部専門科目	「伴奏実習」
⑥ 教職に関する科目のうち、卒業要件算入科目以外の科目		

(3) 卒業再試験手続

卒業再試験の受験を希望する者は、次の期日に教務課で所定の手続をしなければなりません。代理人による手続も認めるので必ずこの期日までに手続を行ってください。この期日を過ぎた場合、一切受け付けることができません。

提出物	卒業再試験受験願（教務課備付）
	受験料 5,000円（1科目につき）

→スケジュール、手続窓口はp.5

(4) 卒業再試験の注意事項

- ① 卒業再試験の時間割は、卒業再試験申込時に発表します。
- ② 卒業再試験の成績評価は「C」または「F」とします。
- ③ 卒業再試験の実施は、定められた期日1回限りとします。

成績評価

1. 成績評価

本学における成績評価の基準は、次のとおりです。ただし、大学院学生については、別途定めます。なお、各科目の詳細な成績評価基準及び成績評価方法はシラバスに記載しています。

	評価	評価基準		グレードポイント (GP)
合格	S	100点～90点	到達目標を達成し、卓越した水準に達している。	4
	A	89点～80点	到達目標を達成し、優れた水準に達している。	3
	B	79点～70点	到達目標を達成し、良好な水準に達している。	2
	C	69点～60点	到達目標を達成している。	1
	P	－	合格・不合格評価科目の合格	GPA 算出対象外
不合格	F	59点～0点	到達目標を達成していない。	0
	G	－	筆記・実技試験を欠席、もしくはレポートを提出しなかった。	
	H	－	出席が3分の2に満たず受験資格なしと判定された、もしくはその他の理由による。	
	Q	－	合格・不合格評価科目の不合格	
その他	N	－	単位認定（本学以外で修得した単位等の認定）	GPA 算出対象外
	T	－	履修中止	

2. GPA 制度

GPA (Grade Point Average) とは、上記表のとおり各成績評価に対してそれぞれポイント (GP: グレードポイント) を定め、1単位あたりの成績の平均値を示すものです。したがって、履修科目を多く登録しても、不合格評価が多いと GPA の値が小さくなります。科目選択および履修に際しては、各自が責任をもって管理してください。

GPA は履修科目の単位数に評価に応じたグレードポイントを乗じ、その合計を履修登録単位数の合計で除して求められます。

《例》GPA の算出方法

授業科目名	単位数	評価	ポイント数 (QP)
キリスト教 I	2	A	$2 \times 3 = 6$
英語 I s (読む・書く)	1	C	$1 \times 1 = 1$
英語 I s (聞く・話す)	1	H	$1 \times 0 = 0$
スペイン語 I (入門)	1	B	$1 \times 2 = 2$
中国語 I (入門)	1	F	$1 \times 0 = 0$
R & R (入門ゼミ)	1	B	$1 \times 2 = 2$
社会的行為としてのコミュニケーション	4	B	$4 \times 2 = 8$
対人コミュニケーションの心理学	2	B	$2 \times 2 = 4$
放送文化と制度を考える	2	A	$2 \times 3 = 6$
ディベートと自己主張	2	B	$2 \times 2 = 4$
日本語の音声とアクセント	2	A	$2 \times 3 = 6$
日本史の基礎 (古代～近世)	2	C	$2 \times 1 = 2$
合 計	21単位①		41②

$$\text{GPA} = \text{②} \div \text{①} \rightarrow 41 \div 21 = 1.95 \text{ (小数点第3位で四捨五入)}$$

3. 成績通知 (FerrisPassport)・成績証明書への表示

成績通知及び成績証明書への評価の表示方法は次のとおりです。

評 価	S	A	B	C	合	F	不	G	H	単位 認定 [※]	履修 中止	GPA
成績通知	S	A	B	C	P	F	Q	G	H	N	T	表示
成績証明書 (和文)	S	A	B	C	P					N		表示
成績証明書 (英文)	A ⁺	A	B	C	P					N		表示

※ 本学以外で修得した単位等の認定は、成績通知及び成績証明書に授業科目名：「単位認定」、評価：「N」と表示されます。

4. 成績評価のガイドライン

厳正な成績評価を行うことを目的として、学部・学部の授業科目の成績評価についてガイドラインを設けています。

1. S 評価と A 評価を与える学生の割合は履修登録者数に対して合計50%を上限とする。
2. 次のいずれかに該当する授業科目には、担当者の判断によりこのガイドラインを適用しないことができる。
 - (1) 履修登録者9名以下の科目
 - (2) 卒業再試験対象外の実習・実技科目 (p.33「卒業再試験対象外科目」⑤参照)
 - (3) 文学部「R&R (入門ゼミ)」「基礎ゼミ」「英米文化発展ゼミ」「日本語日本文学専門ゼミ」「コミュニケーション学探求」「専門ゼミ」「卒論ゼミ」
 - (4) 国際交流学部「研究入門 (国際交流学部での学び)」「導入演習」「基礎演習」「専門演習」
 - (5) 音楽学部「学内公開演奏」「ソルフェージュ」「音楽家の基礎知識」「音楽基礎理論」「室内楽」「演奏アドヴァンスト」「専門ゼミ」
 - (6) 「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公開演奏」

5. 合格・不合格評価科目

試験の結果が段階的な評価によらず、合格又は不合格で評価される授業科目は、次のとおりです。

合格・不合格評価科目

CLA コア科目	「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」 「キリスト教Ⅲ (1)」「キャリア実習 (短期インターンシップ)」 「キャリア実習 (長期インターンシップ)」
文学部専門科目	「文学部とキャリア」
音楽学部専門科目	「学外公开发表Ⅰ」「学外公开发表Ⅱ」「海外音楽研修」「国内音楽研修」 「室内楽の夕べ」「オーケストラ協演の夕べ」「学内公開演奏」「学外公開演奏」 「演奏ボランティア」「フェリスプレイヤーズ・オン・ステージ [スタンダード]」 「フェリスプレイヤーズ・オン・ステージ [アドヴァンスト]」

6. 成績通知

(1) 学生本人への通知

成績通知は、下記の日程にて FerrisPassport で行います。

【学生本人への成績通知日】

→日程・スケジュールはp.22

なお、長期休業期間中に実施する実習科目、集中講義科目や留学・単位互換により他大学等で修得した単位の認定は上記とは異なる日程で通知することがあります。

(2) 保証人への通知

学期ごとに保証人に成績を通知します。ただし、特別な事情によって保証人への通知を希望しない場合は、所定用紙（教務課、山手事務室備付）をもって通知の停止を願い出ることができます。願い出が受理された場合、保証人への成績通知を停止し、別途、通知停止となった旨のお知らせをします。

【保証人あて郵送日】

前期	2018年10月下旬（予定）
後期	2019年5月中旬（予定）

7. 成績評価に関する問い合わせ

成績評価基準（p.34）及びシラバスに定める成績評価方法に照らし、成績評価について、具体的な根拠に基づく確認事項がある場合には、「成績評価確認願」を提出することができます。該当者は、定められた期日までに、「成績評価確認願」（教務課、山手事務室備付）を教務課又は山手事務室に提出してください。この期日を過ぎた場合、問い合わせは一切受け付けられません。

なお、この問い合わせは、成績評価の確認を依頼するためのものであり、担当者に対して評価への異議又は再考を申し出るものではありません。

以下のような理由による「成績評価確認願」の提出は受け付けることができません。

- ① 再考を求めるもの。
- ② 担当教員に情状を求めるもの。
- ③ 他の履修者との対比のうえ不満を訴えるもの。（「友人はC評価だが、なぜ自分はF評価なのか。」等）
- ④ 具体的な内容の記載のないもの。（「単位を落とすほど欠席していない。」等）

→日程・スケジュールはp.5

卒業の要件・卒業論文等

1. 卒業要件

卒業のためには、4年（8学期）（2年次編入学者は3年（6学期）、3年次編入学者は2年（4学期））以上在学して、学部・学科ごとに定められた卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

2. 卒業者発表

卒業要件を満たした学生は卒業を認められ、卒業証書・学位記が授与されます。

→日程・スケジュールはp.3

3. 卒業論文、卒業制作、卒業プロジェクト（以下「卒業論文等」と表記）の提出

(1) 「卒業論文等題目届」提出

所定の期日までに「卒業論文等題目届」（学期始めに FerrisPassport に掲示）に必要な事項を記入し、指導教員の承認印又はサインを得た上で提出してください。

備考	提出後の主題の変更はできません。指導教員の指導により、提出後に主題の変更が生じた場合は、卒業論文等提出までに、指導教員の確認印又はサイン及び学生本人の訂正印を押印した上で、教務課又は山手事務室に提出してください。
----	--

→スケジュール、手続窓口はp.5

(2) 卒業論文等提出

提出方法	指定された日時に所定の場所に本人が提出してください。郵送等による提出は一切受理しません。
代理人提出	病気、その他やむを得ない理由により本人が提出できない場合は、追試験許可理由（p.32）に準じて代理人提出が認められます。教務課の指示に従って提出してください。ただし、この場合も提出期限は厳守とします。
提出媒体	紙に印刷され、所定の方法で綴じられたものでなければ受理されません。機器のトラブルによる遅延提出は一切認めませんので、提出日以前に印刷を済ませておいてください。 なお、コミュニケーション学科の卒業制作及び音楽芸術学科の卒業プロジェクトは紙以外の媒体での提出が指示されることがあります。
用紙・体裁	各学科の指示に従ってください。
口頭試験等	審査にあたり実施することがあります。詳細は各学科の指示に従ってください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 卒業論文等の遅延提出

所定の期日に提出できなかった卒業論文等は、遅延提出受付日に遅延扱いとして受け付けます。ただし、この場合遅延手数料が徴収されます。また、成績評価は「C」または「F」とします。

遅延提出受付日時に遅れた場合は、理由のいかんを問わず一切受理されません。

手数料	5,000円
-----	--------

→スケジュール、手続窓口はp.5

4. 卒業論文等の撤回

卒業論文等を提出した者がその年度に卒業を希望しない場合は、「卒業論文等撤回願」（教務課、山手事務室備付）を教務課に提出することにより卒業論文等を撤回できます。

なお、撤回した場合は H 評価となるので、次の学期に改めて履修登録及び卒業論文等の提出手続きを行わなければなりません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

5. 9月卒業

年度末に卒業資格の認定を得られなかった者が、次年度前期に卒業に必要な単位を修得した場合、9月末の卒業が認められ、卒業証書・学位記が授与されます。

→日程・スケジュールはp.2

(1) 9月卒業希望届

2018年度9月卒業を希望する者は、期日までに「9月卒業希望届」（教務課、山手事務室備付）を提出してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(2) 「卒業論文題目届」提出

上記「3.（1）「卒業論文等題目届」提出」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 卒業論文等提出

上記「3.（2）卒業論文等提出」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

(4) 卒業論文等の遅延提出

上記「3.（3）卒業論文等の遅延提出」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

(5) 卒業論文等の撤回

上記「4. 卒業論文等の撤回」を参照

→スケジュール、手続窓口はp.5

(6) 9月卒業希望者の履修方法

文学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 選択必修Ⅰと選択必修Ⅳ科目で後期開講科目を未修得の場合は、それぞれ同じ群の前期開講科目の履修をもって当該未修得科目の履修と見なします。その場合は、「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の教務委員の履修指導を受けなければなりません。
国際交流学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。
音楽学部	前期に卒業に必要な単位を修得するものとします。 なお、当該学生の未修得科目の履修方法について、学部が特に定める場合があります。「9月卒業希望届」提出前に、所属学科の履修指導を受けてください。

海外短期研修・留学・国内留学

海外短期研修・留学

本学では、多様な文化と価値観を理解し、国際社会で活躍できる人材を育成するために海外交流プログラムを豊富に提供しています。

学生を海外に派遣する制度としては、短期の海外短期研修制度と長期の交換留学制度、認定留学制度、セメスター・アプロードがあります。

海外短期研修・留学に関する情報は学生要覧だけでなく、必ず国際課が発行する冊子「STUDY ABROAD」(当該年度発行)も参照してください。

→「STUDY ABROAD」(国際課にて配付)

海外短期研修

海外短期研修は、夏季または春季休業期間を利用して、海外の大学等において、語学や歴史・文化、または専門分野を学ぶプログラムです。授業科目として開講しています。要手続科目のため、履修を希望する者は「STUDY ABROAD」を参照のうえ必要な手続きを行ってください。

履修にあたっては、下記及び開講科目表、並びにシラバスを確認し、履修が可能な科目であることを確認してください。

(1) 海外短期研修先 (2018年度予定)

No.	科目名*1	研修先(国)	時期*1	期間*1	科目区分*2	単位数*2	履修年次
1	海外語学実習 (フランス語)	西部カトリック大学(フランス)	夏期	約4週間	共通科目(語学) 初習外国語科目	2	1234
2	海外語学実習 (ドイツ語)	IIK:国際コミュニケーション研究所 (ドイツ)	夏期			2	
3	海外語学実習 (スペイン語)	サラマンカ大学(スペイン)	夏期	約3週間		2	
4	海外語学実習 (中国語)	清華大学(中国)	夏期			2	
5	海外語学実習 (朝鮮語)	梨花女子大学(韓国)	夏期			2	
6	Summer Abroad(US)	ローズモントカレッジ(アメリカ)	夏期	約3週間	英語英米文学科	2	1234
7	Summer Abroad(UK)	パースカレッジ(イギリス)	夏期	約4週間	専門科目*3	2	1234
8	Spring Abroad	ビクトリア大学(カナダ)	春期	約4週間	英語英米文学科/ 国際交流学科 専門科目*3	2	123
9	オーストラリア現地実習	ボンド大学(オーストラリア)	夏期	約3週間	国際交流学科 専門科目*3	2	1234
10	海外環境フィールド実習*4 (キリバス)		春期	約2週間		2	123

*1 開講科目、留学時期・期間は年度により変更することがあります。

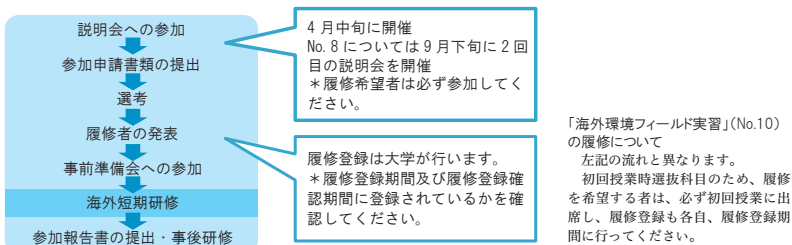
*2 修得した単位は履修した科目の「科目区分」に応じて認定されます。

「海外語学実習」(No.1～5) によって修得した単位は、共通科目(語学)の必修相当として認められます。

*3 他学部開放科目: 開講科目表の「開放」欄「▲」

*4 初回授業時選抜科目

(2) 履修までの流れ



交換留学

本学では、下記の18大学と協定を締結しており、この協定に基づき留学することを交換留学と言います。留学期間は1学期間、又は2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は、審査により本学において修得した単位として認定することができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学学期には卒業できません。

全般的な説明会は毎年4月・10月に、その他、留学地域別などの説明会は随時開催しています。出願時期は、年2回（6月・11月）で、留学出発時期によって異なります。

一単位認定については、p.172

交換留学の出願条件

交換留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者

例) 2年次後期に出願する場合

1年		2年	
前期	後期	前期	後期
15単位×3学期＝45単位以上			出願

- (4) 累積 GPA2.10以上の者（協定校によって異なる*）
- (5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFL iBT 61点以上または IELTS 6.0以上（協定校によって異なる*）
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均 B 以上（累積 GPA2.10以上） ②留学先言語の語学検定証明書

* (4) (5) は協定校により異なるので、当該年度発行の「STUDY ABROAD」で確認すること。

交換留学の協定校

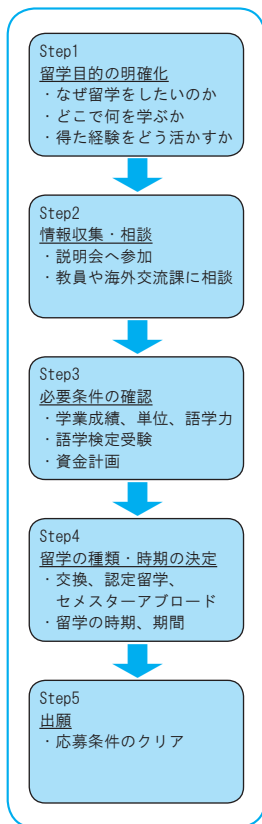
国	市・州	大学名	主な出発時期
中国	北京	清華大学	2～3月
	上海	華東師範大学	
台湾	台北	輔仁大学	
		梨花女子大学	
韓国	ソウル	徳成女子大学	6月
	釜山	新羅大学	
フィリピン	ドゥマゲテ	シリマン大学	8月
	ディリマン	フィリピン大学	
インドネシア	ジョグジャカルタ	ガジャマダ大学	9月
アメリカ	ミシガン州	ホープカレッジ	8月
	ペンシルベニア州	ローズモントカレッジ	
	メリーランド州	ワシントンカレッジ	
イギリス	ブライトン	サセックス大学	5月
フランス	アンジェ	西部カトリック大学	2月
ドイツ	デュッセルドルフ	デュッセルドルフ大学	4月
	ブレーメン	ブレーメン芸術大学	9月
スペイン	サラマンカ	サラマンカ大学	3月
スロバキア	ブラチスラバ	コメニウス大学	9月

交換留学実現にむけたロードマップ

交換留学を実現させるためには、計画的に準備を進めていく必要があります。出願までのステップやモデルプランを参考にしながら、早めに目標を設定して行動してください。

出願期間等手続きの詳細は「STUDY ABROAD」を参照してください。

◆出願までのステップ



◆交換留学のモデルプラン

学年	2年次後期に留学	3年次前期に留学
1年	前期 説明会出席	
	夏休み 海外短期研修*	
	後期 出願 書類・面接審査 決定	
	春休み 入学手続き 渡航準備	
2年	前期 教務面談 留学準備講座	説明会出席 出願 書類・面接審査 決定
	夏休み 留学生活	海外短期研修*
	後期 留学生活	入学手続き 渡航準備 教務面談 留学準備講座
	春休み 留学生活	
3年	前期 単位認定手続き	留学生活
	夏休み	
	後期	
	春休み 単位認定手続き	
4年	前期	
	夏休み	
	後期	
	春休み	

*海外短期研修は必須ではありませんが、長期留学前の参加をお薦めします。

認定留学

学生自ら選んだ海外の大学または大学附属の語学学校に、自ら入学手続きをした上で、本学に申請し許可を得て留学する制度です。

留学期間は1学期間、又は2学期間（最長1年間）です。

留学先で修得した単位は、審査により本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。

ただし、留学期間は卒業できません。

*詳しくは「STUDY ABROAD」を参照してください。

一単位認定については、p.172

認定留学の出願条件

認定留学の出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (2) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (3) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位を修得済みである者
- (4) 累積 GPA2.10以上の者
- (5) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

英語圏	TOEFL iBT54点以上 または IELTS4.5以上
初習外国語圏	中級以上。以下に定める条件①もしくは②が出願条件となる。 ①志願時に原則として2学期分以上の留学先言語の語学科目の成績評価が確認でき、平均B以上(GPA2.10以上) ②留学先言語の語学検定証明書

セメスター・アブロード

文学部英語英米文学科の学生のみ対象のプログラムです。

2～4年次前期の1学期、ニュージーランドの協定校に留学します。留学先で修得した単位は本学において修得した単位としてみなすことができ、また留学期間は在学期間として扱われるため、卒業要件単位を充足すれば4年間での卒業が可能です。興味・関心がある学生は、4月以降定期的に開催される説明会に参加し、プログラム内容等についての詳細を理解した上で、9月に出願手続きを行ってください。

*説明会等の案内は FerrisPassport にて国際課から発信します。

セメスター・アブロードの出願条件

セメスター・アブロードの出願にあたっては、下記の条件を満たす必要があります。

- (1) 応募時に英語英米文学科の1年次^{から}または3年次である者
- (2) 留学の目的が明確であり、学業及び健康に優れ、本学の留学生としてふさわしい者
- (3) 留学開始時において2学期以上在籍する者
- (4) 出願時の前学期までに、原則として在籍学期数×15単位以上を修得済みである者
- (5) 累積 GPA2.25以上の者
- (6) 留学先の大学において学習を行うに十分な語学能力を有する者。

TOEFL iBT 44点以上、または IELTS 4.0以上

国	市・州	大学名	留学開始時期の目安
ニュージーランド	ウェリントン	ビクトリア大学	3月から

その他の留学方法

交換留学、認定留学、セメスター・アブロードを利用せずに、休学して留学する方法もあります。ただし、休学して留学する場合は、留学期間は在学期間として扱われないため、4年間で卒業することはできません。

→休学の手続きについては、p.180

→単位認定については、p.173

海外留学に関する相談窓口

相談窓口

留学先で修得した単位の認定、帰国後の履修計画など	教務課
留学の手続き、出願、留学に関する奨学金制度の情報提供、個別相談など	国際課
留学後の就職活動など	就職課

留学に関する情報

留学準備のための情報収集には、緑園キャンパス CLA 棟2階の国際センター（資料コーナー）を活用してください。協定校に関する資料、先輩の報告書等が閲覧できます。

国内留学

同志社女子大学との国内交流制度

本学と同志社女子大学は国内留学協定を締結し、相互に派遣・受入を行っています。これを国内交流制度といます。同志社女子大学で半年ないし1年間、1つの学科に所属して履修します。

応募条件・留学期間の取扱い

1. 募集人員

原則として2名。なお通年での派遣、学期単位の派遣のいずれも可能です。

2. 出願資格

全学部対象。

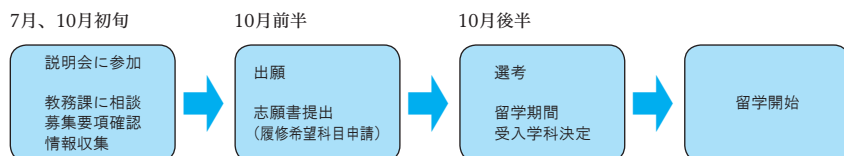
原則として本学に1年以上在学し、派遣時に2年次生又は3年次生であること。

教職課程履修者が派遣を希望する場合は、派遣時に2年次生であること。

3. 留学期間の取扱い

同志社女子大学での科目履修期間は、本学の修業年数及び在学期間に算入されるので、4年間での卒業が可能です。休学する必要はありません。

留学までの流れ



7月及び10月に説明会を開催します。出願する場合には、いずれか一方の説明会に必ず参加してください。なお、十分な出願準備のためにも、7月の説明会参加を推奨します。

留学スケジュールの例

下表は、2年次前期に留学した場合の例です。

パターン	1年		2年		3年		4年		卒業・進学
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
2年次前期に1学期留学	説明会	出願・選考 各種手続	留学期間	単位認定申請			就職活動または進学準備など		

受け入れ学科・履修可能科目

1. 受け入れ学科

下記のいずれかの学科に所属します。履修希望科目が最も多く置かれている学科を希望してください。学部を超えた履修も可能です。

学部名	所在地	学 科 名		
学芸学部	京田辺キャンパス	音楽学科	メディア創造学科	国際教養学科
現代社会学部	京田辺キャンパス	社会システム学科	現代こども学科	
生活科学部	今出川キャンパス	人間生活学科	食物栄養科学科 (食物科学専攻のみ)	
表象文化学部	今出川キャンパス	英語英文学科	日本語日本文学科	

＊薬学部医療薬学科及び看護学部看護学科は受入対象外です。

2. 履修可能科目

ほとんどすべての科目が履修できますが、一部予め相談が必要な科目があります。

また、京都周辺の大学・短期大学約50校が参加する『大学コンソーシアム京都』の科目及び同志社大学各学部の開放科目も履修可能です。詳細は説明会で配布する募集要項で確認してください。

出願の手続き

説明会（7月、10月）に参加した上で、下記のとおり申し込んでください。説明会の日程は、FerrisPassportで掲示します。

提出書類	志願書（志願理由、履修希望科目）
注 意	志願書には本人と保証人のサイン、押印が必要です。提出期限までに整えること。

→スケジュール、手続窓口はp.6

全学教養教育機構（CLA）

共通科目

CLA コア科目

基礎教養科目

総合課題科目

語学科目

留学生科目

全学教養教育機構（CLA）【2017年度以降入学者】

目的、カリキュラム・ポリシー

◆目的

全学教養教育機構（Center for the Liberal Arts: CLA）（以下 CLA）は、学部・学科の専門教育と並行して、新しい時代に主体的な役割を果たすために必要な知識と語学運用能力、課題発見・課題解決の方法を4年間にわたって学ばせ、リベラル・アーツ教育の拠点です。

◆カリキュラム・ポリシー

CLA のカリキュラムは、語学科目（p.60）、留学生科目（p.84）と下記に説明する CLA コア科目で編成されます。

フェリスの伝統を受け継ぎ、キリスト教的価値観に関する正確な理解を基に、「自分たちが生きる世界」「ボランティア精神がもつ力」「女性のキャリア」「新しい文化創造の可能性」「音楽の力」「女子教育の歴史とその意味」について広く考え、理解を深めます。CLA での学びを通して、どの学部の学生も「新しい時代を切り拓く」ために必要な現代の教養、能力を身に付けることができます。

CLA コア科目カリキュラムの説明

キリスト教を基盤として、未知の世界や多くの学問領域と出会い、探究、学修することを通じて、幅広い教養と科学的な思考力を身に付けます。建学の精神、教育の理念を具現化した科目を通じて、みなさん一人ひとりが本学で学ぶことの意義や価値を自覚することができます。また、学際的、実践的教養科目により、思考や実践の型を修得したうえで、今日の課題と社会の要請に応える力を身に付けます。

1. 科目群

キリスト教科目	キリスト教の基礎的知識を学び、その価値観・世界観を理解し、キリスト教と人文科学・社会科学・芸術との関係を探ります。
知のフロンティア科目	①思想、②社会、③文化・芸術、④科学の諸分野で、新たな知の世界と出会い、刺激を受け、科学的な思考力、幅広く深い教養を身につけた、豊かな人間性を涵養します。
実践教養科目	卒業後の実社会での活躍を見据え、教養を応用・活用する具体的な能力の修得を行います。答えがひとつではない課題に積極的にかかわり、根拠に基づく判断、解決のための提案、行動ができるようになることを目標としています。的確に読解し分析する力、多角的に考える力、論理的に表現する力を修得するために、議論の進め方やディベートの方法、意見や価値観の異なる他者との対話や合意形成の方法、協働する姿勢などを実践的に学びます。
フェリス教養講義科目	学生にとって身近なテーマや本学の教育・活動実績を糸口として、現代の世界情勢や社会問題、現代社会の諸相や文化動向について学際的に考え、世界に視野を広げます。学生が主体的に提案・デザインする科目もあります。
健康・スポーツ科目	家族や社会、次世代といった諸観点から、自分の身体とその周辺にある問題について考え、身体を動かすことの意味や効果を体験的に学びます。

2. 課程

FERRIS ⁺ 実践教養探索課程	CLA に新設される実践教養探索課程。課題解決型授業（PBL: Project-Based Learning）を効果的にとり入れ、大学での学びと社会との接点を意識しつつ、現代社会で求められる教養について主体的・体験的に学びます。課程修了者には、就職活動開始前の時期に修了証を発行。就職活動に生かすこともできます。
---------------------------------	--

FERRIS+ 実践教養探求課程

◆趣旨

FERRIS+ 実践教養探求課程は、フェリスらしいリーダーを育成する人材養成プログラムです。

◆ディプロマ・ポリシー

全学教養教育機構（CLA）において身に付けた教養、能力を FERRIS+ 実践教養探求課程においてさらに応用し、以下の実践力、能力を身に付けた者に修了証を授与する。

- (1) 「新しい時代を切り拓く」ために必要な現代の教養、能力
- (2) 新しい目標に挑戦する意欲と実行力
- (3) 社会における課題に対し、他者と協働する能力

◆カリキュラム・ポリシー

FERRIS+ 実践教養探求課程のディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身に付けるため、知のフロンティア科目、実践教養科目、フェリス教養講義科目から定められた単位の修得を課す。

さらに、学外の団体と連携することで社会との接点を持ち、課題発見・解決能力を養うために「プロジェクト演習」を必修科目として設ける。これにより、学生自身が目標を設定し、内省を通じて、自己の客観化、評価を行う能力を身に付けることができる。

1. 修了要件

2年次前期の「プロジェクト演習」を中心に、関連科目を13単位履修してください。

区分	科目数・単位数
プロジェクト演習科目	1科目1単位
知のフロンティア科目	2科目4単位
実践教養科目	2科目4単位
フェリス教養講義科目：For Others	2科目4単位
合計	13単位

2. プロジェクト演習（2年次前期履修）

FERRIS+ の学びの核となるのが「プロジェクト演習」です。専任教員の指導のもと、実社会と結びついた課題を具体的に設定し、解決策や企画を立案・提案する方法を体験的に学びます（PBL: Project-Based Learning）。

2018年度の取組課題は、次のとおりです。

- ・佐藤輝先生 ボランティアと地球：山梨県道志村の魅力の再発見と環境保全活動
- ・谷知子先生 若者による文化の創造と発信：『百人一首』の和菓子企画・立案する
- ・土屋広次郎先生 横浜と音楽：『横浜と音楽』をテーマに発展的企画を考えてみよう
- ・秋岡陽先生 フェリス女学院150周年記念プロジェクト：『フェリス女学院150年史：図録・年表』の編集

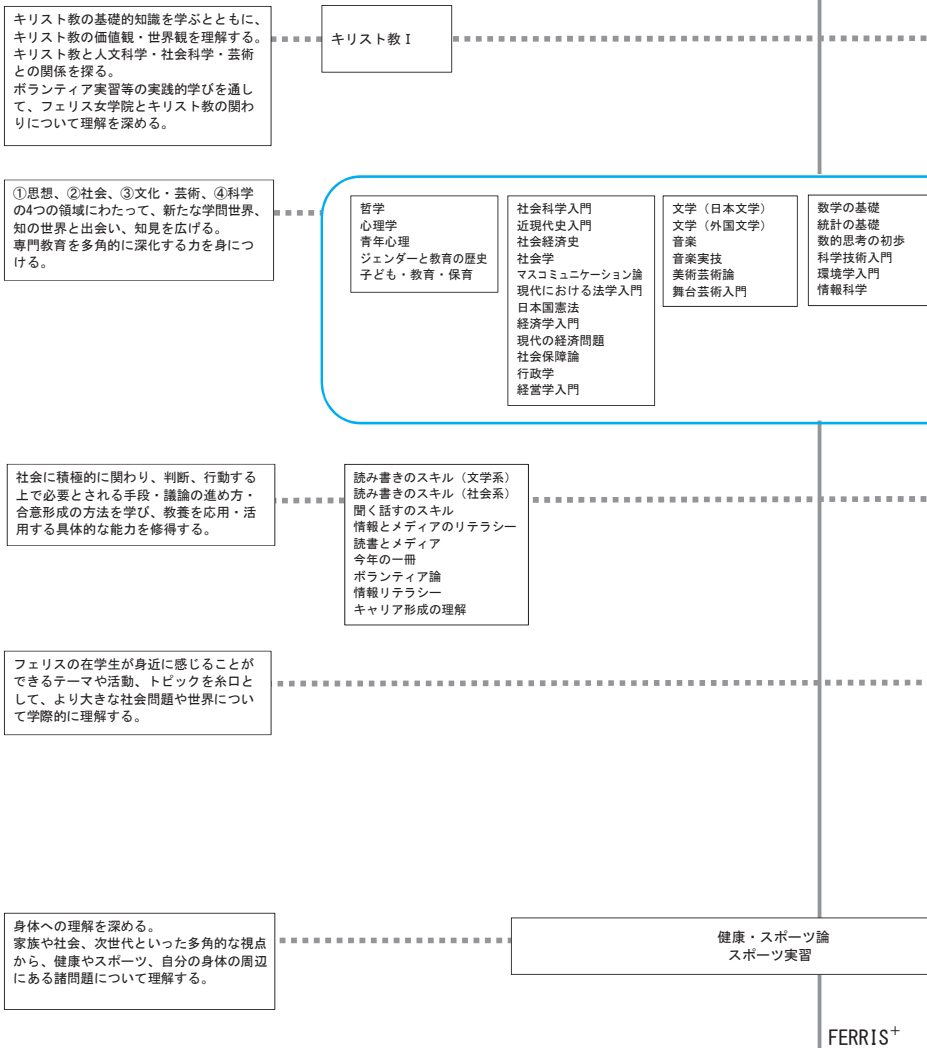
2018年度入学生対象の「プロジェクト演習」（2019年度前期開講）の取組課題は、7月の説明会で発表します。

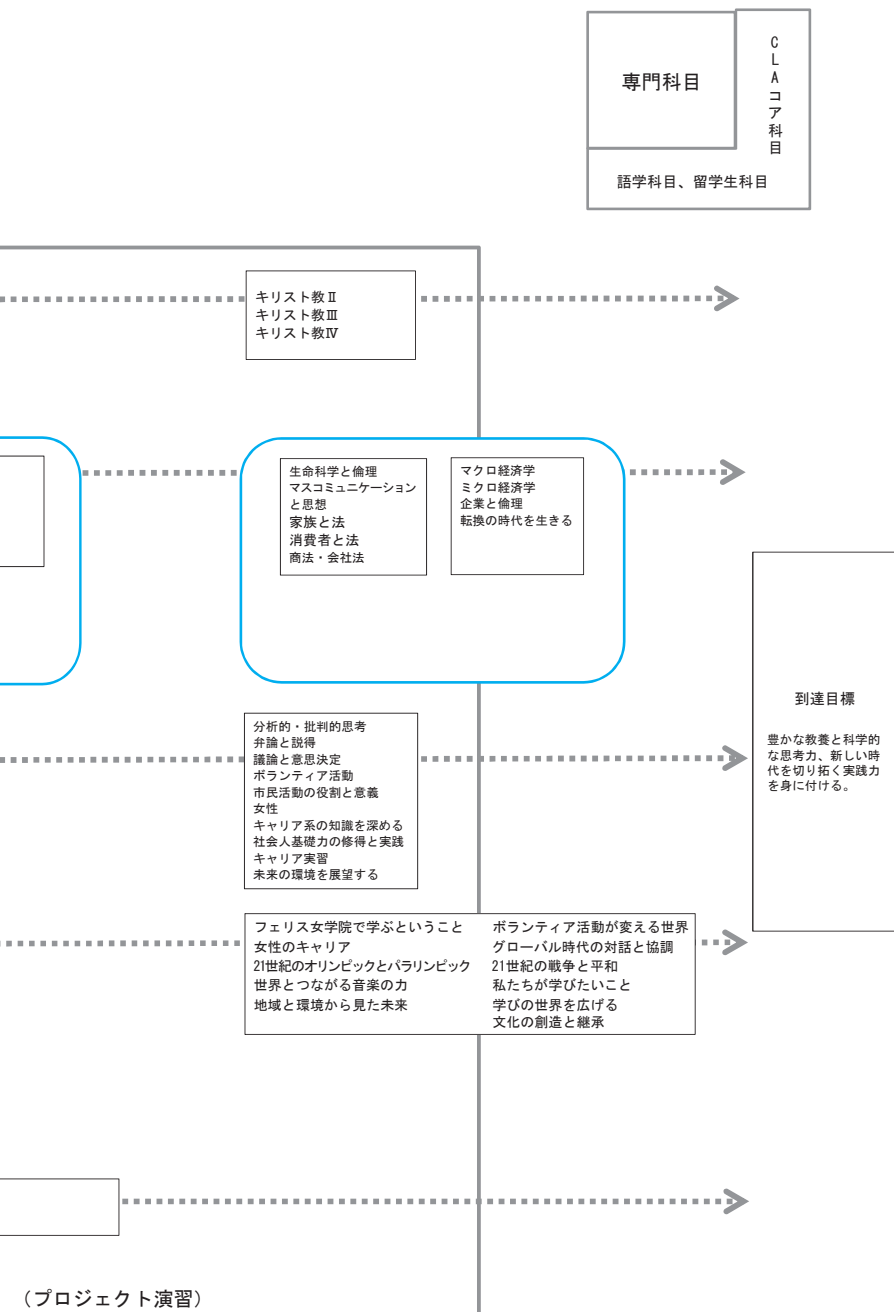
3. 修了証

修了者には、3年次9月以降に「実践教養探求課程修了証」を発行します。FERRIS+ で身に付けた力を就職活動におおいに生かしてください。

4. スケジュール *詳細は FerrisPassport 等で掲示します。

1年次	4月	オリエンテーション
	7月・10月	説明会
	11月	プロジェクト演習履修のためのエントリーシート提出
	12月	プロジェクト演習履修者決定
2年次	前期	プロジェクト演習履修
3年次	9月～	修了要件単位修得後、「実践教養探求課程修了証」発行





基礎教養・総合課題科目【2016年度以前入学者】

カリキュラムの説明

大学生に期待される基礎的な教養、現代的な課題に取り組む力をつけるための全学共通科目です。どの学部の学生も自由に選択し、4年間を通じて活用できます。

例えば、音楽学部の学生が演奏表現をより深めるために歴史や絵画、舞台芸術について知ること、文学部の学生が数的、科学的思考力を高めること、国際交流学部の学生が専門科目を学ぶ前提として環境や社会、法律の知識を身につけるなど、学びの基礎を固めるだけでなく、みなさんの可能性を広げるという機能があります。

専門科目の学びが深化するにつれ、理論や研究手法の必要性を強く感じるようになります。

「知識の修得」に加え、応用可能な「手法の獲得」にも重点を置いたカリキュラムです。

基礎教養科目

大学生にとって必要とされる基本的な知識、教養を学ぶ科目群です。

本学の教育に通底する「キリスト教の基礎」と、「社会で生きていくためのチカラ（リテラシー[※]）」で構成しています。

※リテラシー（Literacy）とは、本来読み書きの能力を指す言葉ですが、自立した個人に必要な、自ら考え意思決定するための様々な素養を意味するチカラとしても使われています。

カリキュラムの趣旨と構成

群	テーマ	到達目標
キリスト教の基礎	キリスト教の本質を理解する	・宗教の役割を自分の言葉で説明できる ・現代の私たちの価値観や思想のルーツを理解できる ・国際的な問題、歴史、文学、芸術の背景として捉えることができる
思考リテラシー	論理的に思考する	・科学的な視点と態度で人間の行動を理解できる ・人に伝えるための基本的な技法が身につく
コミュニケーション・リテラシー	伝える・表現する・読み解く	・読解力、本質をとらえる力がつく ・情報を収集し、まとめ、総合的に活用できる
社会リテラシー	ニュースの背景まで理解する	・市民として、消費者として、生活者として判断する力がつく ・政策や経済の動きを、暮らしと結びつけて考えられる ・社会における自らの役割や責任を果たせる ・保障された権利を知っている
文化リテラシー	深く洞察し、豊かに鑑賞する	・作品の背景にある歴史や社会、思想、宗教を理解して批評できる ・好き嫌いや生来の感性だけに頼らず、創造的な見方ができる ・作品を通して語られるメッセージを読み取れる
科学リテラシー	量る・測る・計る …そして発見する	・責任ある市民として、科学技術が社会や生活に与える影響を理解し、批判的にとらえることができる ・科学的根拠に基づいて情報の真偽を見極め、選択できる ・知識を統合・活用・再構成してアウトプットできる
身体リテラシー	身体への理解を深める	・家族や社会、次世代という視点から、健康やスポーツといった自分の身体の周辺にある問題について考えられる ・身体を動かすことによって得られる解放感、快適さ、楽しさなどポジティブな効果を感じられる

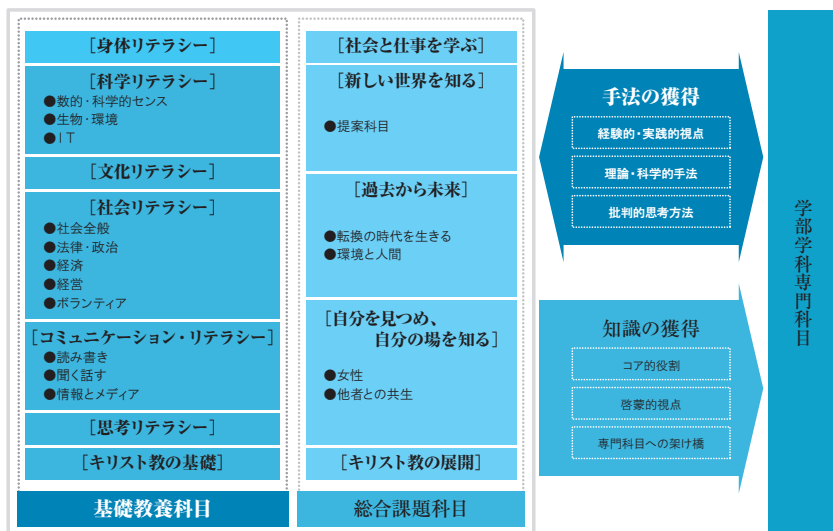
総合課題科目

教育理念「For Others」に根ざしながら、現代的な課題に取り組む基盤をつくります。まずは「女性」「他者」「環境」「変化」というテーマを通して今、世界で起きている問題を自分に引き寄せます。そして、その問題の背景を分析し、どう向き合うのかを自分で判断し、具体的に行動する力を身につけます。

カリキュラムの趣旨と構成

群	到達目標
キリスト教の展開	・宗教が人や社会に与えている影響を理解できる ・常識やものの見方の根底にある思想や違いを認識できる
自分を見つめ、自分の場を知る	・「For Others」を自分の行動や判断の基盤にできる ・女性に関わる制度や権利、法律を、自分の生き方に活用できる ・個人や企業が社会に貢献する意義や方法を提示できる
社会と仕事を学ぶ	・チームで課題に取り組み、これを計画的に進められる ・多様な人たちと協力して目標を達成できる ・論理的、効果的なコミュニケーションができる
過去から未来	・政治や経済、社会構造の変化を捉え、この変化を身近な問題にひきつけて考えられる ・人間活動と環境との関わりに自分の意見をもてる
新しい世界を知る	・社会の変化に適応し、前に踏み出す力がつく ・学び方、研究手法を修得し、ほかの課題に応用できる

基礎教養・総合課題科目カリキュラムマップ



特色ある科目と目的

自校教育科目「フェリス女学院で学ぶということ」

学修活動の基盤となるフェリスの歴史と存在意義、「For Others」の現代的解釈などを扱います。専任教員がコーディネーターとなり、卒業生や教職員を含む様々な観点からの講義を展開します。

学生提案科目「私たちが学びたいこと」

学生からの提案をもとに、教員との協働で作る科目です。応募されたテーマ、内容に基づき、CLA コア科目運営委員会で審査し、大学が決定します。審査結果は掲示により審査委員長からの講評がフィードバックされます。応募要領は次のとおりです。

対 象	2019年度 前期 1科目
講義題目・担当者	採用されたテーマをもとに、大学が決定
条 件	一人の教員が担当する授業形態であること。 講義科目（2単位）であること。
提出書類	提案書（所定の用紙を FerrisPassport からダウンロードすること）
提 出 先	教務課

→スケジュール、手続窓口はp.5

教職員提案科目「学びの世界を広げる」

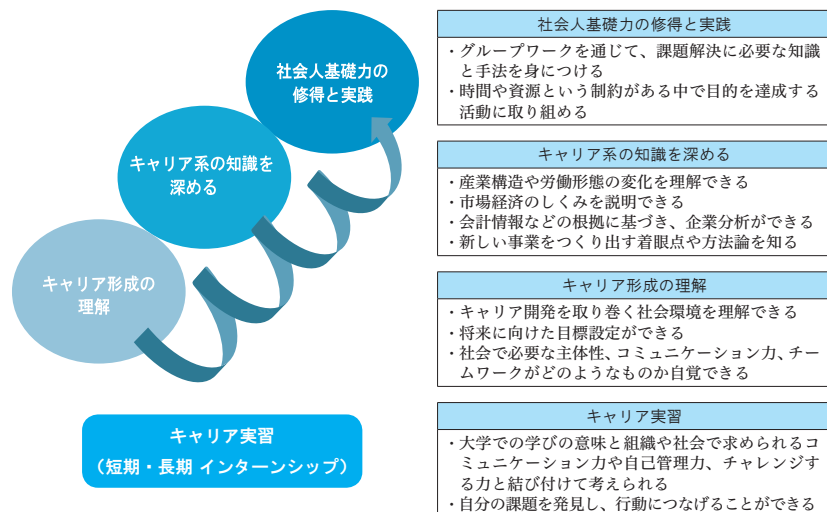
既存のカリキュラムにないテーマを教職員から募集し、CLA コア科目運営委員会で審査の上、採択されたテーマに基づき開講する科目です。社会の急激な変化に適応することや、ぜひ学んでほしい内容をタイムリーに提供し、新しいものの見方、取り組み方を修得してもらうことを目的としています。

キャリアに関する学び

社会と仕事を学ぶ

「キャリア形成の理解」から「キャリア系の知識を深める」、「社会人基礎力の修得と実践」の3段階で理解を進めます。

グループワークやプロジェクト学習を通して、社会で求められる力を修得します。



本学のキャリア教育は、いわゆる正課科目（単位が付与される授業科目）のほか、正課外での充実した講座、サポートプログラムから構成されています。これを包括的に「キャリアに関する学び」と捉え、授業科目と就職課が主催する就職支援講座、セミナー、ガイダンス、内定者報告会、実践講座などを組み合わせ、大学のリソースを最大限に活用してください。

キャリアに関する学び	正課	総合課題科目 社会と仕事を学ぶ	キャリア形成の理解 キャリア系の知識を深める 社会人基礎力の修得と実践 キャリア実習（短期・長期インターンシップ）
		学部・学科専門科目	実習、演習科目などのほか 産業構造、労働環境を扱う講義科目等
	正課外	就職講座 キャリア形成サポートプログラム 就職支援	就職ガイダンス 内定者報告会 実践講座
			低学年対象キャリア講座

1年次

2年次

3年次

4年次

卒業に必要な単位数

所属する各学科の「卒業に必要な単位数」を参照してください。

英語英米文学科……………	p.96
日本語日本文学科……………	p.108
コミュニケーション学科………	p.118
国際交流学科……………	p.132
音楽芸術学科……………	p.150
演奏学科……………	p.160

キリスト教関連科目【3 年次編入学者のみ】

3年次編入学者が「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」に代えて履修可能な「キリスト教」関連科目は次のとおりです。

2018年度開講「キリスト教」関連科目

科目種別	科目名
文学部各学科専門科目	キリスト教と文学
英語英米文学科専門科目	キリスト教と英米文学1、キリスト教と英米文学2（2018年度休講）
国際交流学科専門科目	世界の宗教（2018年度休講（隔年開講））
音楽学部各学科専門科目	キリスト教音楽概論1
音楽芸術学科専門科目	賛美歌学

科目の詳細は別冊「開講科目表」、シラバスで確認してください。

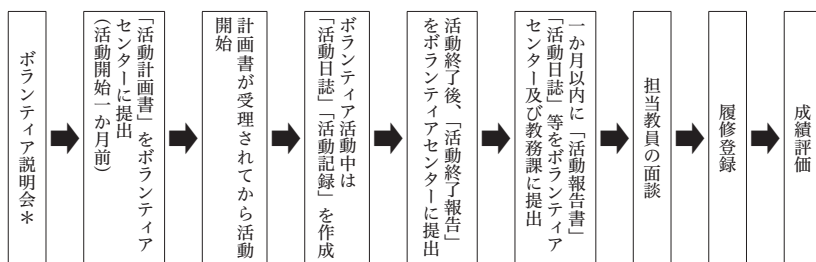
特別な手続きが必要な科目

1. 「キリスト教Ⅲ（1）」

夏期集中講義期間中に福祉施設で実習を行う科目です。履修希望者は、前期履修登録期間中に開催される説明会及び選考に出席してください。日程の詳細は FerrisPassport の掲示を確認してください。

2. 「ボランティア活動1」「ボランティア活動2」「ボランティア活動3」

学外でのボランティア活動の実働時間に応じて、卒業に必要な単位として認定される科目です。それぞれ45時間以上、90時間以上、270時間以上が各科目の基準です。これらの3科目は複数または重複して履修できます。履修希望者は、シラバスを参照の上、ボランティアセンターが開催するボランティア説明会*（4・5・7・10月）に出席し、「履修の手引き」にしたがって履修手続きをしてください。なお、卒業年次生が卒業学期に履修登録できるのは、各科目の基準時間を超えている場合に限りです。



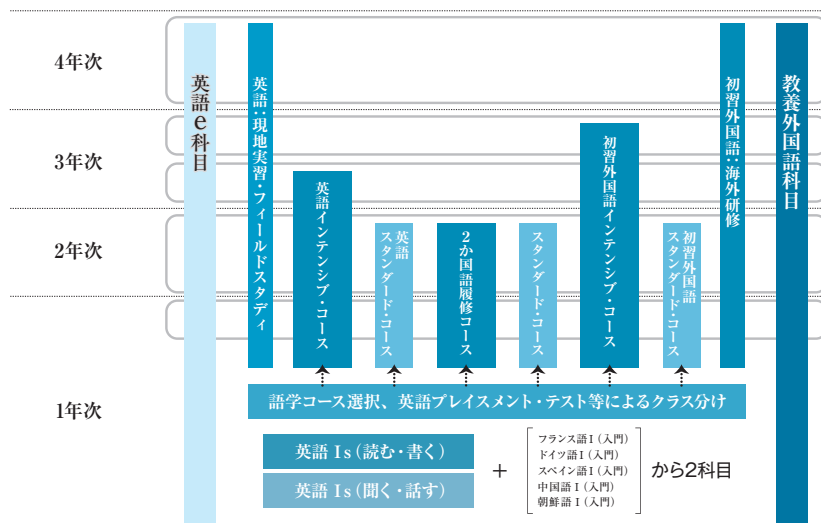
3. 「キャリア実習（短期インターンシップ）」「キャリア実習（長期インターンシップ）」

企業・団体での一定期間の就業体験のみならず、担当教員による事前・事後指導等で体系的に構成される科目です。履修希望者は、説明会（夏季:4～5月、春季:9～10月）に必ず出席し、募集要項にしたがって申し込み手続きをしてください。説明会日程については、FerrisPassport「キャリア関連」でお知らせします。

4. 「音楽実技」：履修者数制限科目

音楽学部を有する総合大学であるフェリスのメリットを活かし、全学部生が通常の時間割の中で実技レッスンを受けられる科目です。レッスンは原則としてグループ形式で行われ、特別な音楽経験がなくても履修可能です。声楽、ピアノ、弦楽器（隔年開講）、管楽器（隔年開講）、オルガンから選択可能です。履修希望者は、前期、後期初めの履修者数制限科目希望受付期間に FerrisPassport で申し込み手続きをしてください。

英語科目・初習外国語科目カリキュラムマップ



科目の種類

(1) 英語

インテンシブ科目(i 科目)	英語インテンシブ・コースの学生のみが履修できる科目です。英語プレイズメント・テストの結果に基づき A～J の習熟度別に履修クラスが指定されます。(クラス定員18名)
スタンダード科目(s 科目)	英語インテンシブ・コース以外の学生が履修する科目です。入学時に実施するアンケート及び英語プレイズメント・テストの結果に基づき習熟度別に履修クラスが指定されます。
選択科目 (e 科目)	全学生が自由に履修できる科目です。全て初回授業時選抜科目で、履修優先順位はシラバス及び FerrisPassport の掲示にて発表されます。

(2) 初習外国語

「I (入門)」科目	前期のみ開講する入門科目です。各言語の特徴、文化的背景、発音及び文法の基礎、会話の初歩などを学びます。
インテンシブ科目(i 科目)	主に初習外国語インテンシブ・コースの学生が履修する科目です。
スタンダード科目(s 科目)	初習外国語インテンシブ・コース以外の学生が履修する科目です。
音楽学部優先科目	ドイツ語科目には音楽学部優先科目があります。

(3) 教養外国語

全学生が自由に履修できる科目です。ただし、イタリア語には音楽学部生を優先としている科目があります。(開講科目表参照)

(4) 日本語

全学生が自由に履修できる科目です。

語 学 科 目

カリキュラムの説明

1. はじめに

各言語を学ぶ意義、語学を学ぶにあたっての各学科からのアドバイスについては、入学時に配布した冊子「履修のてびき」を参照してください。

2. 趣旨・目的

共通科目と専門科目に大別される本学のカリキュラムの中で、語学科目は共通科目に属します。

現代人にとって必要な言語コミュニケーションの能力だけでなく、専門科目の学習にあたって必要となる基礎的な語学力を習得し、さらにその言語を使用する国々の文化を理解することを目的としています。

3. 履修コース・言語と卒業に必要な単位・コース修了要件

語学科目はカリキュラムマップ (p.59) 記載のとおり、4科目群10言語、5つの履修コースで構成されています。

所属する学部・学科により選択できる言語、履修コースが異なりますが、各自の目的にあわせた選択が可能です。

(1) 履修コース・言語の選択

所属する学部・学科により、卒業に必要な語学科目の単位数及び選択できる履修コース・言語が異なります。(pp. 66～83参照)

なお、外国人留学生の語学科目履修方法については pp.86～88を参照してください。

履修コース及び言語を選択する際には、『履修のてびき』を必ず確認してください。語学責任者または所属学科の教務委員 (p.190参照) に相談することもできます。

① 2018年度入学者の「語学履修コース・言語選択届」提出

各学生の履修コース・言語は、1年次前期に提出する「語学履修コース・言語選択届」に基づき決定されます。「語学履修コース・言語選択届」提出後、コースの履修開始前に履修コース・言語を変更することは認められません。

→スケジュール、手続窓口はp.5

② 履修許可

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コースについては、希望者が定員を超えた場合は選抜を行い、履修許可者を決定します。

i) 英語インテンシブ・コース

希望者が多い場合は、英語プレイズメント・テストの結果に基づき選抜し、履修許可者(定員180名:文学部・音楽学部116名、国際交流学部64名)を決定します。履修が許可された後は、安易な変更は認められませんので注意してください。

ii) 初習外国語インテンシブ・コース

当該言語の「Ⅰ(入門)」を履修していることが前提となります。希望者が多い場合は次のとおり選抜し、履修許可者を決定します。履修が許可された後は、安易な変更は認められませんので注意してください。

→履修コース・言語の変更については、p.62

方 法	第1希望の段階で25名を超えた場合、選抜を行う。 第1希望の段階で選抜があった場合、第2・第3希望者が許可されることはない。また、第2希望の段階で選抜があった場合、第3希望者が許可されることはない。
選抜基準	「Ⅰ（入門）」の出席、成績等。 遅延及び未提出等、手続きに不備があった者は選抜から外れる。
許可取消	「Ⅰ（入門）」の成績評価により、履修許可を取り消される場合がある。

(3) 卒業に必要な単位数とインテンシブ・コースの修了要件

学生は、pp.66～83に定める所属学科、語学履修コースの卒業に必要な単位を修得する必要があります。

また卒業に必要な単位数とは別に、英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コースについては、各コースを修了するために必要な要件が次のとおり定められ、要件を満たした者には修了証が発行されます。

① 英語インテンシブ・コースの修了要件

pp.66～83に定める各所属学科の英語インテンシブ・コース標準履修科目を所定の学年・学期に全て修得^{*1}する必要があります。

※1 2015年度以降入学者は、交換留学及び認定留学、セメスター・アブロードにより修得した単位が、本学における英語科目の単位として認定された場合、留学により未履修となった英語インテンシブ科目に代えて、英語インテンシブ・コースの修了要件とすることが認められます。

また、英語インテンシブ科目の履修にあたっては、p.62に定める英語プレイズメント・テストを全て受験することが必須条件となります。受験しなかった者については、原則として次学期以降の英語インテンシブ科目の履修を認めません。

② 初習外国語インテンシブ・コースの修了

pp.66～83に定める各所属学科の初習外国語インテンシブ・コース標準履修科目を修得^{*2※3}する必要があります。

なお、再履修によるコース修了も認められます。再履修方法についてはpp.63～64を参照してください。

※2 「Ⅱ i」～「Ⅴ i」科目については上位科目での履修を持って代えることが認められます。

※3 2015年度以降入学者は、交換留学及び認定留学により修得した単位が、本学における初習外国語科目の単位として認定された場合、初習外国語インテンシブ・コース修了要件のうち、「Ⅱ i」～「Ⅴ i」科目の不足分として充当することができます。

③ インテンシブ・コースの成績証明書及び修了証

英語インテンシブ・コース及び初習外国語インテンシブ・コース履修者のうち、「必修相当として定められた語学科目を全て修得した者」について、下記のとおり成績証明書に「インテンシブ・コース修了者」である旨記載しています。

また、英語教育運営委員会及び初習外国語教育運営委員会から「修了証」が発行されます。

	英語インテンシブ・コース	初習外国語インテンシブ・コース
記載される内容	英語インテンシブ・コース修了	初習外国語インテンシブ・コース修了（〇〇語）
成績証明書	3年次前期までの修得状況に基づき判定される。 自動発行機で出力できる成績証明書には、3年次後期（11月）以降記載される。	3年次後期までの修得状況に基づき判定される。 自動発行機で出力できる成績証明書には、4年次前期（6月）以降記載される。
修了証	3年次後期以降、言語センターで交付する。 時期の詳細については FerrisPassport で周知する。	4年次前期以降、言語センターで交付する。 時期の詳細については FerrisPassport で周知する。

4. 英語プレイスメント・テスト

英語プレイスメント・テストは、英語インテンシブ科目及び英語スタンダード科目の習熟度別クラス編成及び理解度・達成度を確保するために実施されます。詳細は、FerrisPassportの掲示にてお知らせします。

【日程・受験対象者】

実施回	実施時期	受験対象者
第1回	前期	【1年次生】 語学履修コースの第1希望～第3希望のいずれかにおいて、英語科目の履修を希望する学生
第2回	前期	【2年次生・3年次生】 英語インテンシブ・コース履修者
第3回	後期	【1年次生】 英語インテンシブ・コース履修者 【2年次生】 英語インテンシブ・コース履修者 英語スタンダード・コース履修者 2か国語履修コース履修者

※第2回、第3回については、その他以下の学生も対象となります。

- ① 英語インテンシブ・コースへの変更を希望する学生
- ② 英語スタンダード・コースもしくは2か国語履修コースへの変更を希望する学生のうち、英語プレイスメント・テストの受験経験がない者

→日程については「学事日程」(pp.1～3)

5. 語学履修コース・言語の変更

語学履修コース・言語の変更を希望する場合には、「語学履修コース・言語変更願」(教務課備付)の提出により変更が認められます。年次により提出時期が異なりますので注意してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

インテンシブ・コースに関わる変更については次のとおり注意が必要です。

(1) 英語インテンシブ・コースに関わる変更

① 他コースから英語インテンシブ・コースへの変更

定員に欠員が生じた場合のみ、英語プレイスメント・テストの結果に基づき審査の上、可否を決定します。欠員の有無については英語責任者 (p.190) に問い合わせてください。

② 英語インテンシブ・コースから他コースへの変更

英語インテンシブ・コースから他コースへの変更については、英語責任者 (p.190) へ相談の後、許可された場合のみ「語学履修コース・言語変更願」を提出できます。

(2) 初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更

初習外国語インテンシブ・コースに関わる変更を希望する場合は、「語学履修コース・言語変更願」を提出する前に、必ず当該言語の語学責任者 (p.190) と十分相談してください。なお、初習外国語インテンシブ・コースから他のコースへの変更については、当該言語の語学責任者 (p.190) へ相談の後、許可された場合のみ「語学履修コース・言語変更願」を提出できます。

履修の進め方・履修登録方法

1. 1年次前期の履修

(1) 英語（「英語 I s（読む・書く）」、「英語 I s（聞く・話す）」）

入学時の英語習熟度（学習歴、留学経験、資格など）に基づき、履修するクラスが指定されます。

(2) 初習外国語（「〇〇語 I（入門）」）

フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語から2言語を履修します。それぞれ学科ごとにクラス指定がありますので、FerrisPassportの掲示を確認し、初回の授業に必ず出席してください。

履修希望者が多い場合はクラス内で選抜を行うことがあります。

なお、音楽学部生については pp.76～83を参照してください。

(3) 英語プレイスメント・テスト

1年次後期以降の英語履修のために英語プレイスメント・テストを受験します。

→英語プレイスメント・テストについては、p.62

2. 1年次後期以降の履修

1年次後期以降は所属する語学履修コース、選択言語の履修方法に従って履修を進めます。また必要に応じて英語プレイスメント・テストを受験します。

→履修コース・言語の選択については、p.60

→各学科・履修コースの履修方法については、pp.66～83

→英語プレイスメント・テストについては、p.62

→履修コース・言語の変更については、p.62

3. 再履修

語学科目の再履修は次の原則に従うこととします。

(1) 英語科目

英語インテンシブ科目 (i)、英語スタンダード科目 (s) の未修得いずれの場合も次の方法によって卒業要件を充足してください。

再履修等により、卒業要件を充足できる対応科目	履修方法	留意事項
1) 英語スタンダード科目 (s)	学期始めの掲示を確認し、指定された期間に再履修クラスの申し込みをしてください。	英語インテンシブ科目 (i) は再履修できません。したがって、修得できなかった場合はコースの修了は認められませんが、左記の科目の履修により卒業要件を充足する必要があります。
2) 英語 e 科目	シラバス及び優先順位表をよく確認したうえで FerrisPassport で履修登録してください。選抜の優先順位表は学期始めに FerrisPassport で発表します。	
3) 技能審査の合格による単位認定	指定された期間に手続きをしてください。(p.172)	

(2) 初習外国語科目

入門科目を未修得の場合は次の1)～4)のいずれかで卒業要件を充足してください。また初習インテンシブ科目(i)、初習スタンダード科目(s)の未修得いずれの場合は次の2)～4)によって卒業要件を充足してください。

再履修等により、卒業要件を充足できる対応科目	履修方法	留意事項
1) 入門科目	FerrisPassportで履修登録してください。	未修得の言語であればいずれの言語でも構いません。
2) 初習外国語インテンシブ科目(i)	クラス指定のある科目については、履修相談時に申し出てください。	初習外国語インテンシブ・コースの修了を希望する場合は、初習外国語インテンシブ科目(i)で再履修する必要があります。
3) 初習外国語スタンダード科目(s)	学期始めの掲示を確認し、所属する学部・学科の指定クラスで履修してください。時間割の制約上やむを得ない理由により他のクラスで履修する場合は、履修相談時に申し出てください。(FerrisPassportの成績照会画面を出力し、持参すること。)	
4) 技能審査の合格による単位認定	指定された期間に手続きをしてください。(p.172)	

初習外国語の再履修については、上位科目での履修をもって充足することが認められます。科目に付されたローマ数字の対応は次のとおりとします。

未修得科目	再履修科目	備考
I	I、II	III～VI科目の履修をもって充足も可
II		
III	III、IV	V、VI科目の履修をもって充足も可
IV		
V	V、VI	
VI		

例えば、「II」科目を修得できなかった場合、「I」または「II」科目だけでなく、「III」または「IV」科目での再履修により、卒業要件を充足することも可能です。

同様に、「III」科目を修得できなかった場合、「III」または「IV」科目だけでなく「V」または「VI」科目での再履修も可能です。一方下位科目での履修は認められませんので、「III」科目を「I」または「II」科目で再履修し、卒業要件を充足することはできません。

4. 履修登録方法

(1) 英語

インテンシブ科目(i科目)及びスタンダード科目(s科目)は大学が履修登録を行います。履修登録期間中に、指定された科目が登録されていることを各自 FerrisPassport で必ず確認してください。

なお、指定クラスは1年次7月及び3月、2年次8月及び3月に発表されます。

また、e科目は各自が FerrisPassport で登録する科目です。初回授業時の選抜で履修を許可された場合は、必ず期間中に自分で登録してください。

(2) 初習外国語

全て各自が FerrisPassport で登録すること。自分が指定されたクラスを FerrisPassport の掲示及び学生要覧で確認の上、間違いのないよう登録してください。なお、指定されたクラス以外で履修することは原則として認められません。やむを得ない理由によりクラス変更を希望する場合は、学期始めの履修相談で各語学責任者(p.190参照)に相談の上、指示を受けてください。

語学検定試験受験料補助

語学検定試験の受験をサポートすることを目的に、受験料の一部を補助する「語学検定試験受験料補助制度」があります。希望者は下記の要件を確認し、指定の期間に手続きを行ってください。

対象者	本学に在籍中の学部生（交換・私費留学生含む） ※対象外：科目等履修生、大学院生、同志社女子交流学生、オープンカレッジ生
補助金額	受験料1万円未満の場合：1,000円 受験料1万円以上、2万円未満の場合：2,000円 受験料2万円以上の場合：3,000円 (同一年度に1人2回まで申請可。合否に関わらず、申請できます。)
人 数	150名（予定） ※定員に達し次第、受付終了
対象とする検定	2018年1月～2018年12月に受験した検定試験 ※対象は別表参照 ※言語センター受付の団体割引で申し込んだ検定も補助対象に含まれます。
提出書類	①補助申請書 ②受験したことが確認できるスコア等の写し ③振込口座届（通帳等の写し貼付） ④学生証（本人確認のため）
受付場所	言語センター（7号館3階）（開室時間9：00～17：00）
問い合わせ先	教務課

ースケジュール、手続窓口はp.5

〈補助対象となる検定試験〉

英 語	実用英語技能検定（英検）、TOEIC、TOEIC&W、TOEFL-iBT、IELTS、 国際連合公用語英語検定試験（国連英検）、観光英語検定 ※ TOEIC-IP、TOEFL-ITP は対象外
フランス語	実用フランス語技能検定試験（仏検）、DELTA・DALF・TCF（フランス国民教育省 フランス語資格試験）、TEF（パリ商工会議所 フランス語能力認定試験）
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験（独検）、ゲーテ・インスティトゥートドイツ語検定試験
スペイン語	スペイン語技能検定（西検）、DELE（スペイン文部省認定 スペイン語能力試験）
中国語	中国語検定試験（中検）、HSK（漢語水平考査）、実用中国語技能検定試験、TECC （中国語コミュニケーション能力検定）
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験、韓国語能力試験（TOPIK）
イタリア語	実用イタリア語検定試験（伊検）
日本語	日本語能力試験（JLPT）、実用日本語検定（J.TEST） ※日本語教育能力検定試験、日本語検定は対象外

各学部・学科の語学科目履修方法

外国人留学生の語学科目履修方法については、pp.86～88を参照してください。

文学部英語英米文学科

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	22
初習外国語	2								2	
										32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○△語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】 英語 V i (Reading) [1] 英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位
初習外国語の I, II が付された科目により 2単位

(2) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					12	20
英語e科目	4									
初習外国語	2	2	2	2					8	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語I s (読む・書く) [1] 英語I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語II s (読む・書く) [1] 英語II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語III s (読む・書く) [1] 英語III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語IV s (読む・書く) [1] 英語IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】 ○○語I (入門) [1] △△語I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語II s (文法) [1] ○○語II s (読む) [1] ○○語II s (LL) [1] この中から 2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語III s (文法) [1] ○○語III s (読む) [1] ○○語III s (話す) [1] ○○語III s (LL) [1] この中から 2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語IV s (読む) [1] ○○語IV s (話す) [1] ○○語IV s (LL) [1] この中から 2単位を修得

網掛け  は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	12単位
初習外国語のI, IIが付された科目により	4単位
初習外国語のIII, IVが付された科目により	4単位

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	32
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語Ⅰs(読む・書く) [1]	英語Ⅱi(Reading) [1]	英語Ⅲi(Reading) [1]	英語Ⅳi(Reading) [1]
	英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	英語Ⅱi(Writing) [1]	英語Ⅲi(Writing) [1]	英語Ⅳi(Writing) [1]
		英語Ⅱi(Listening) [1]	英語Ⅲi(Listening) [1]	英語Ⅳi(Listening) [1]
		英語Ⅱi(Speaking) [1]	英語Ⅲi(Speaking) [1]	英語Ⅳi(Speaking) [1]
		英語Ⅱi(Language Development) [1]	英語Ⅲi(Language Development) [1]	英語Ⅳi(講読) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】			
	○△語Ⅰ(入門) [1]			
	△△語Ⅰ(入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語Ⅴi(Reading) [1]
	英語Ⅴi(Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により 20単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2								2	22
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1) [1] ○○語 IV i (読む2) [1] ○○語 IV i (話す) [1] ○○語 IV i (書く) [1] ○○語 IV i (LL) [1]

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) [1] ○○語 V i (話す) [1] ○○語 V i (書く) [1] ○○語 V i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 VI i (読む) [1] ○○語 VI i (話す) [1] ○○語 VI i (書く) [1] ○○語 VI i (LL) [1]

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語の I, II が付された科目により	8単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	10単位
初習外国語の V, VI が付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で ける単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2	2	2	2					8	10
初習外国語	2								2	
										32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○△語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で ける単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2								2	10
初習外国語	2	2	2	2					8	
										32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○△語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅱs(文法) この中から ○△語Ⅱs(読む) 2単位以上を ○△語Ⅱs(LL) 修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅲs(文法) この中から ○△語Ⅲs(読む) 2単位を修得 ○△語Ⅲs(話す) ○△語Ⅲs(LL)	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅳs(読む) この中から ○△語Ⅳs(話す) 2単位を修得 ○△語Ⅳs(LL)

網掛け ■ は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 4単位

初習外国語のⅢ、Ⅳが付された科目により 4単位

(5) 2か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	16 (※)
初習外国語	2	2	2	2					8	

※：卒業に必要な単位数10を含む

標準履修科目

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】	
	英語Ⅰs (読む・書く)	[1]	英語Ⅱs (読む・書く)	[1]	英語Ⅲs (読む・書く)	[1]	英語Ⅳs (読む・書く)	[1]
	英語Ⅰs (聞く・話す)	[1]	英語Ⅱs (聞く・話す)	[1]	英語Ⅲs (聞く・話す)	[1]	英語Ⅳs (聞く・話す)	[1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ（入門）科目】		【初習外国語スタンダード科目】		【初習外国語スタンダード科目】		【初習外国語スタンダード科目】	
	〇〇語Ⅰ（入門）	[1]	〇〇語Ⅱs (文法)	この中から 2単位を修得	〇〇語Ⅲs (文法)	この中から 2単位を修得	〇〇語Ⅳs (読む)	この中から 2単位を修得
	△△語Ⅰ（入門）	[1]	〇〇語Ⅱs (読む)		〇〇語Ⅲs (話す)		〇〇語Ⅳs (話す)	
			〇〇語Ⅱs (LL)		〇〇語Ⅲs (LL)		〇〇語Ⅳs (LL)	

網掛け  は重複履修可能

卒業に必要な単位数

2018年度入学者

英語科目により	8単位
初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	4単位
初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により	4単位

2017年度以前入学者

(3) 英語スタンダード・コース (p.70) 又は (4) 初習外国語スタンダード・コース (p.70) のいずれかの履修方法により修得すること。

すなわち	英語科目により	8単位
	初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	2単位
	英語科目により	2単位
または、	初習外国語のⅠ，Ⅱが付された科目により	4単位
	初習外国語のⅢ，Ⅳが付された科目により	4単位

国際交流学部 の 語学科目履修方法

(1) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2				20	32
初習外国語	2								2	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語 I s (読む・書く) [1]	英語 II i (Reading) [1]	英語 III i (Reading) [1]	英語 IV i (Reading) [1]
	英語 I s (聞く・話す) [1]	英語 II i (Writing) [1]	英語 III i (Writing) [1]	英語 IV i (Writing) [1]
		英語 II i (Listening) [1]	英語 III i (Listening) [1]	英語 IV i (Listening) [1]
		英語 II i (Speaking) [1]	英語 III i (Speaking) [1]	英語 IV i (Speaking) [1]
		英語 II i (Language Development) [1]	英語 III i (Language Development) [1]	英語 IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】			
	○△語 I (入門) [1]			
	△△語 I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語 V i (Reading) [1]
	英語 V i (Speaking) [1]
初習外国語	

卒業に必要な単位数

英語科目により	20単位
初習外国語の I, II が付された科目により	2単位

(2) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数		卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2								2	22	32
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20		

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○語 I (入門) [1] △語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○語 II i (文法) [3] ○語 II i (読む1) [1] ○語 II i (読む2) [1] ○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○語 III i (文法) [2] ○語 III i (読む) [1] ○語 III i (話す) [1] ○語 III i (書く) [1] ○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○語 IV i (読む1) [1] ○語 IV i (読む2) [1] ○語 IV i (話す) [1] ○語 IV i (書く) [1] ○語 IV i (LL) [1]

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○語 V i (読む) [1] ○語 V i (話す) [1] ○語 V i (書く) [1] ○語 V i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○語 VI i (読む) [1] ○語 VI i (話す) [1] ○語 VI i (書く) [1] ○語 VI i (LL) [1]

網掛け は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	2単位
初習外国語の I, II が付された科目により	8単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	10単位
初習外国語の V, VI が付された科目により	2単位

(3) 英語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2	2	2	2					8	10
初習外国語	2								2	
										32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰ s (読む・書く) [1] 英語Ⅰ s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱ s (読む・書く) [1] 英語Ⅱ s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲ s (読む・書く) [1] 英語Ⅲ s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳ s (読む・書く) [1] 英語Ⅳ s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語Ⅰ (入門) 科目】 ○△語Ⅰ (入門) [1] △△語Ⅰ (入門) [1]			

卒業に必要な単位数

英語科目により 8単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 2単位

(4) 初習外国語スタンダード・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2								2	10
初習外国語	2	2	2	2					8	
										32

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰ s (読む・書く) [1] 英語Ⅰ s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語Ⅰ (入門) 科目】 ○△語Ⅰ (入門) [1] △△語Ⅰ (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅱ s (文法) } この中から ○△語Ⅱ s (読む) } 2単位を修得 ○△語Ⅱ s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅲ s (文法) } この中から ○△語Ⅲ s (読む) } 2単位を修得 ○△語Ⅲ s (話す) } ○△語Ⅲ s (LL) }	【初習外国語スタンダード科目】 ○△語Ⅳ s (読む) } この中から ○△語Ⅳ s (話す) } 2単位を修得 ○△語Ⅳ s (LL) }

網掛け ■ は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により 2単位

初習外国語のⅠ、Ⅱが付された科目により 4単位

初習外国語のⅢ、Ⅳが付された科目により 4単位

(5) 2 か国語履修コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	16
初習外国語	2	2	2	2					8	

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 II s (文法) [1] ○○語 II s (読む) [1] ○○語 II s (LL) [1] この中から 2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 III s (文法) [1] ○○語 III s (読む) [1] ○○語 III s (話す) [1] ○○語 III s (LL) [1] この中から 2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語 IV s (読む) [1] ○○語 IV s (話す) [1] ○○語 IV s (LL) [1] この中から 2単位を修得

網掛け ■ は重複履修可能

卒業に必要な単位数

英語科目により	8単位
初習外国語の I, II が付された科目により	4単位
初習外国語の III, IV が付された科目により	4単位

音楽学部 の 語学科目 履修方法

2017年度入学者

【卒業に必要な単位数】

次の (1)・(2)・(3) いずれのコースも、すべての語学科目の中から英語科目2単位を含む8単位を修得すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]

② 英語と初習外国語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英 語	2	2							8	32
初習外国語			2	2						

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]		
初習外国語			【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) この中から [1] ○○語Ⅱs(読む) 2単位を修得 [1] ○○語Ⅱs(LL) [1]

※英語または初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。

網掛け  は重複履修可能

③ 英語とイタリア語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2							8	32
イタリア語	2	2								

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】					
	英語Ⅰs(読む・書く)	[1]	英語Ⅱs(読む・書く)	[1]				
	英語Ⅰs(聞く・話す)	[1]	英語Ⅱs(聞く・話す)	[1]				
イタリア語	イタリア語Ⅰ(文法)	[1]	イタリア語Ⅱ(文法)	[1]				
	イタリア語Ⅰ(読む)	[1]	イタリア語Ⅱ(読む)	[1]				

※英語「Ⅲs」以降を引き続き履修することもできます。

網掛け は重複履修可能

④ 英語、イタリア語とドイツ語を履修する場合（演奏学科）

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2							8	32
イタリア語	2	2								
ドイツ語			2	2						

言語	1年次前期		1年次後期		2年次前期		2年次後期	
英語	【英語スタンダード科目】		【英語スタンダード科目】					
	英語Ⅰs(読む・書く)	[1]	英語Ⅱs(読む・書く)	[1]				
	英語Ⅰs(聞く・話す)	[1]	英語Ⅱs(聞く・話す)	[1]				
イタリア語	イタリア語Ⅰ(文法)	[1]	イタリア語Ⅱ(文法)	[1]				
	イタリア語Ⅰ(読む)	[1]	イタリア語Ⅱ(読む)	[1]				
ドイツ語					ドイツ語Ⅰ(文法)	[1]	ドイツ語Ⅱs(文法)	[1]
					ドイツ語Ⅰ(読む)	[1]	ドイツ語Ⅱs(読む)	[1]

※ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。

網掛け は重複履修可能

(2) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	6	5	5	2(※)				20	22
初習外国語	2								2	(*)
										32

※：卒業に必要な単位数8を含む。

※：音楽学部の学生は、上記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に英語e科目を2単位修得することにより満たすことができます。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語I s (読む・書く) [1]	英語II i (Reading) [1]	英語III i (Reading) [1]	英語IV i (Reading) [1]
	英語I s (聞く・話す) [1]	英語II i (Writing) [1]	英語III i (Writing) [1]	英語IV i (Writing) [1]
		英語II i (Listening) [1]	英語III i (Listening) [1]	英語IV i (Listening) [1]
		英語II i (Speaking) [1]	英語III i (Speaking) [1]	英語IV i (Speaking) [1]
		英語II i (Language Development) [1]	英語III i (Language Development) [1]	英語IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語I (入門) 科目】			
	○△語I (入門) [1]			
	△△語I (入門) [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語Vi (Reading) [1]
	英語Vi (Speaking) [1]
初習外国語	

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2								2	22 (*)
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20	

*：卒業に必要な単位数8を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1) [1] ○○語 IV i (読む2) [1] ○○語 IV i (話す) [1] ○○語 IV i (書く) [1] ○○語 IV i (LL) [1]

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) [1] ○○語 V i (話す) [1] ○○語 V i (書く) [1] ○○語 V i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 VI i (読む) [1] ○○語 VI i (話す) [1] ○○語 VI i (書く) [1] ○○語 VI i (LL) [1]

この中から
1単位以上
を修得

この中から
1単位以上
を修得

網掛け ■ は重複履修可能

【卒業に必要な単位数】

次の (1)・(2)・(3) いずれのコースも、すべての語学科目の中から選択した科目により8単位を修得すること。

(1) スタンダード・コース

代表的な履修パターンは、次のとおりです。

教養外国語科目、「日本語Ⅰ・Ⅱ」を選択して履修することも可能です。

① 英語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅲs(読む・書く) [1] 英語Ⅲs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅳs(読む・書く) [1] 英語Ⅳs(聞く・話す) [1]

② 初習外国語のみで履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
初習外国語	2	2	2	2					8	32

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) [1] ○○語Ⅱs(読む) [1] ○○語Ⅱs(LL) [1] この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅲs(文法) [1] ○○語Ⅲs(読む) [1] ○○語Ⅲs(話す) [1] ○○語Ⅲs(LL) [1] この中から2単位を修得	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅳs(読む) [1] ○○語Ⅳs(話す) [1] ○○語Ⅳs(LL) [1] この中から2単位を修得

網掛け  は重複履修可能

③ 英語と初習外国語を履修する場合

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2	2							8	32
初習外国語	2	2								

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs(読む・書く) [1] 英語Ⅰs(聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs(読む・書く) [1] 英語Ⅱs(聞く・話す) [1]		
初習外国語	【初習外国語Ⅰ(入門)科目】 ○○語Ⅰ(入門) [1] △△語Ⅰ(入門) [1]	【初習外国語スタンダード科目】 ○○語Ⅱs(文法) [1] ○○語Ⅱs(読む) [1] ○○語Ⅱs(LL) [1] この中から2単位を修得		

※英語又は初習外国語「Ⅲs」以降を引き続いて履修することもできます。

網掛け  は重複履修可能

④ 英語とイタリア語を履修する場合

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語Ⅰs (読む・書く) [1] 英語Ⅰs (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語Ⅱs (読む・書く) [1] 英語Ⅱs (聞く・話す) [1]		
イ タ リ ア 語	イタリア語Ⅰ (文法) [1] イタリア語Ⅰ (読む) [1]	イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		

※「英語Ⅲs (読む・書く)」「英語Ⅲs (聞く・話す)」「英語Ⅳs (読む・書く)」「英語Ⅳs (聞く・話す)」を引き続き履修することもできます。
網掛け は重複履修可能

⑤ イタリア語とドイツ語を履修する場合 (演奏学科)

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な単位数	卒業要件に算入できる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
イ タ リ ア 語	2	2							8	32
ド イ ツ 語			2	2						

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
イ タ リ ア 語	イタリア語Ⅰ (文法) [1] イタリア語Ⅰ (読む) [1]	イタリア語Ⅱ (文法) [1] イタリア語Ⅱ (読む) [1]		
ド イ ツ 語			ドイツ語Ⅰ (文法) [1] ドイツ語Ⅰ (読む) [1]	ドイツ語Ⅱs (文法) [1] ドイツ語Ⅱs (読む) [1]

※ドイツ語を1年次に、イタリア語を2年次に履修することもできます。
網掛け は重複履修可能

(2) 英語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数		卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
英語	2	6	5	5	2(**)				20	22	32
初習外国語	2								2	(*)	

*：卒業に必要な単位数8を含む。

**：音楽学部の学生は、下記科目のうちVi科目2単位を、3年次前期までの間に修得した英語e科目2単位により代えることができます。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】	【英語インテンシブ科目】
	英語I s (読む・書く) [1]	英語II i (Reading) [1]	英語III i (Reading) [1]	英語IV i (Reading) [1]
	英語I s (聞く・話す) [1]	英語II i (Writing) [1]	英語III i (Writing) [1]	英語IV i (Writing) [1]
		英語II i (Listening) [1]	英語III i (Listening) [1]	英語IV i (Listening) [1]
		英語II i (Speaking) [1]	英語III i (Speaking) [1]	英語IV i (Speaking) [1]
		英語II i (Language Development) [1]	英語III i (Language Development) [1]	英語IV i (講読) [1]
初習外国語	【初習外国語I（入門）科目】			
	〇〇語I（入門） [1]			
	△△語I（入門） [1]			

言語	3年次前期
英語	【英語インテンシブ科目】
	英語Vi (Reading) [1]
	英語Vi (Speaking) [1]
初習外国語	

(3) 初習外国語インテンシブ・コース

履修言語	1年次		2年次		3年次		4年次		コース必修 単位数	卒業要件に算入で きる単位数の上限
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
英語	2								2	22 (*)
初習外国語	2	6	6	4	1	1			20	

*：卒業に必要な単位数8を含む。

標準履修科目

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英語	【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]			
初習外国語	【初習外国語 I (入門) 科目】 ○○語 I (入門) [1] △△語 I (入門) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 II i (文法) [3] ○○語 II i (読む1) [1] ○○語 II i (読む2) [1] ○○語 II i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 III i (文法) [2] ○○語 III i (読む) [1] ○○語 III i (話す) [1] ○○語 III i (書く) [1] ○○語 III i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 IV i (読む1) [1] ○○語 IV i (読む2) [1] ○○語 IV i (話す) [1] ○○語 IV i (書く) [1] ○○語 IV i (LL) [1]

この中から
4単位以上
を修得

言語	3年次前期	3年次後期
英語		
初習外国語	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 V i (読む) [1] ○○語 V i (話す) [1] ○○語 V i (書く) [1] ○○語 V i (LL) [1]	【初習外国語インテンシブ科目】 ○○語 VI i (読む) [1] ○○語 VI i (話す) [1] ○○語 VI i (書く) [1] ○○語 VI i (LL) [1]

この中から
1単位以上
を修得

この中から
1単位以上
を修得

網掛け ■ は重複履修可能

外国人留学生の履修

履修の進め方

外国人留学生^{*1}のカリキュラムは、原則として一般学生のものに準じます。ただし、下記のとおり一部異なる部分があるので注意してください。

- ※1 ここでは、大学教育を受ける目的をもって入国し、本学1年次に入學した外国人留学生（私費留学生）を指します。本学が外国の協定校から一定期間受け入れる学生（受入交換留学生）の履修については p.89 を見てください。

日本語科目	外国人留学生の日本語運用能力を高めることを目的とします。修得単位は語学科目の単位となります。（p.85参照）
日本事情に関する科目	外国人留学生の日本に対する理解を深めることを目的とします。2016年度以前入学者の修得単位は基礎教養科目の単位となります。

卒業に必要な単位数

(1) 文学部英語英米文学科

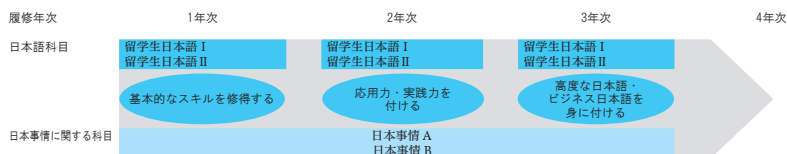
科目区分	単位数	備考	参照
日本事情に関する科目	4	「日本事情 A,B」 から4単位	
語学	10	「留学生日本語」 から10単位	※2
	語学コースによる： ① 20 ② 12	①英語インテンシブ・コース ②2か国語履修コース	

(2) 文学部日本語日文学科、コミュニケーション学科、国際交流学部、音楽学部

科目区分	単位数	備考	参照
日本事情に関する科目	4	「日本事情 A,B」 から4単位	
語学	10	「留学生日本語」 から10単位	※2

- ※2 日本語能力検定試験等の結果、留学生の日本語能力が非常に高いと留學生科目委員会が認めた場合、必修単位のうち2単位を他の専門科目で読み替えることができます。該当者には、1年次後期以降の学期末に通知がありますので、手続きを行ってください。

留学生日本語カリキュラム・マップ



日本語科目の履修方法

留學生日本語の履修年次と単位数

科 目	1年次		2年次		3年次		4年次		卒業に必要な 単位数
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
留學生日本語Ⅰ 留學生日本語Ⅱ	2	2	2	2	2				10

具体的な履修モデル

	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期	3年次前期
講義題目	レポート作成の基礎	アカデミック・ライティング ～文章表現の基礎～	上級作文 (テーマ別)	アカデミック・ライティング ～論説文読解・意見文作成～	時事日本語
	講義と発表の聴解・ ノートテイキング	読解ストラテジー養成	上級会話 (コミュニケーション力養成)	プレゼンテーション	ビジネス日本語
単位数	2	2	2	2	2

上記以外にも、「留學生日本語」では、日本の文化に触れるフィールドワークや日本語能力試験対策を行っています。

日本語以外の語学科目

文学部英語英米文学科

①英語インテンシブ・コース（必修20単位）または②2か国語履修コース（必修12単位）で英語科目を履修します。

英語インテンシブ・コースでは卒業に必要な単位とは別にコースの修了要件を定めています（p.61参照）。

2016年度以降入学者

一般学生に準じて、英語科目を履修します。

英語科目のクラスは、語学履修コースにかかわらず入学時に実施するアンケート及び英語プレースメント・テストの結果に基づいて指定されます。指定されたクラスの英語科目は、自動で履修登録されます。

→英語プレースメント・テストについてはp.62

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語 I s（読む・書く） [1] 英語 I s（聞く・話す） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 II i（Reading） [1] 英語 II i（Writing） [1] 英語 II i（Listening） [1] 英語 II i（Speaking） [1] 英語 II i（Language Development） [1] 英語 II i（講読） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 III i（Reading） [1] 英語 III i（Writing） [1] 英語 III i（Listening） [1] 英語 III i（Speaking） [1] 英語 III i（Language Development） [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 IV i（Reading） [1] 英語 IV i（Writing） [1] 英語 IV i（Listening） [1] 英語 IV i（Speaking） [1] 英語 IV i（講読） [1]
	【英語インテンシブ科目】 英語 V i（Reading） [1] 英語 V i（Speaking） [1]			

② 2か国語履修コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語 I s（読む・書く） [1] 英語 I s（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s（読む・書く） [1] 英語 II s（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語 III s（読む・書く） [1] 英語 III s（聞く・話す） [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s（読む・書く） [1] 英語 IV s（聞く・話す） [1]

上記の他に英語e科目を1年次前期から3年次前期までの間に、4単位追加の選択履修が必要です。

2015年度以前入学者

2年次以降は、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出用必要な手続きを行ってください。

履修時期	履修可能科目	クラス指定方法
1年次前期	英語スタンダード科目	入学前に実施するアンケートに基づき指定されます。
1年次後期	英語スタンダード科目	6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
2年次前期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、語学責任者との履修相談に基づき指定されます。
2年次後期	英語スタンダード科目 英語インテンシブ科目	2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

→英語プレイスメント・テストについてはp.62

① 英語インテンシブ・コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語			【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 II i (Reading) [1] 英語 II i (Writing) [1] 英語 II i (Listening) [1] 英語 II i (Speaking) [1] 英語 II i (Language Development) [1] 英語 II i (講読) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英 語	【英語インテンシブ科目】 英語 III i (Reading) [1] 英語 III i (Writing) [1] 英語 III i (Listening) [1] 英語 III i (Speaking) [1] 英語 III i (Language Development) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 IV i (Reading) [1] 英語 IV i (Writing) [1] 英語 IV i (Listening) [1] 英語 IV i (Speaking) [1] 英語 IV i (講読) [1]	【英語インテンシブ科目】 英語 V i (Reading) [1] 英語 V i (Speaking) [1]	

② 2か国語履修コース

言語	1年次前期	1年次後期	2年次前期	2年次後期
英 語			【英語スタンダード科目】 英語 I s (読む・書く) [1] 英語 I s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 II s (読む・書く) [1] 英語 II s (聞く・話す) [1]
言語	3年次前期	3年次後期	4年次前期	4年次後期
英 語	【英語スタンダード科目】 英語 III s (読む・書く) [1] 英語 III s (聞く・話す) [1]	【英語スタンダード科目】 英語 IV s (読む・書く) [1] 英語 IV s (聞く・話す) [1]		

上記の他に英語6科目を2年次前期から4年次前期までの間に、4単位追加の選択履修が必要。

日本語以外の語学を履修する場合、一般学生に準じて「語学履修コース・言語選択届」の提出等必要な手続きを行ってください。

1. 英語科目の履修を希望する場合

外国人学生は、次のとおり英語科目を履修することができます。なお、「英語e科目」は学年を問わず履修することができます。

履修時期	履修可能科目	クラス指定方法
1年次前期	英語スタンダード科目	入学前に実施するアンケートに基づき指定されます。
1年次後期	英語スタンダード科目	6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
2年次前期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、語学責任者との履修相談に基づき指定されます。
2年次後期	英語スタンダード科目	1年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。英語プレイスメント・テスト未受験の場合は、2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。
	英語インテンシブ科目	2年次6月の英語プレイスメント・テストの結果に基づき指定されます。「語学履修コース・言語選択届」を提出の上、英語プレイスメント・テストを必ず受験してください。

→英語プレイスメント・テストについてはp.62

2. 初習外国語の履修を希望する場合

2年次前期以降、初習外国語の履修を希望する場合は、あらかじめ語学責任者に相談してください。

3. 母語の履修

外国人留学生が母語を語学科目の履修言語として選択することは、原則としてできません。特別な事情により履修を希望する場合には、当該言語の語学責任者、指導教員に申し出て、指示にしたがってください。

専門科目の履修方法

専門科目の履修方法については、すべて一般学生と同一です。不明な点がある場合には学科教務委員に相談してください。3・4年次演習（ゼミ）科目は、あらかじめ『履修が望ましい、あるいは必須の語学科目・コース』を定めている場合があります。

受入交換留学生の履修

受入交換留学生は、原則としてすべての共通科目（CLA コア科目、語学科目）及び専門科目を履修できます。不明な点は、教務課に問い合わせてください。

(1) GPA 制度及び履修登録科目の取り消し制度

受入交換留学生は、この制度は適用されません。

(2) 履修者数制限科目

通常科目の登録期間より早い時期に設定された受付期間に手続きを行う必要があります。許可された科目の変更及び取り消しはできません。p.22、26を参照してください。

(3) 語学科目

履修相談で履修する科目・クラスの指定を受けてください。ただし、英語科目は、原則として「英語 e 科目」に限るものとします。

(4) 学科選抜科目

履修を希望する場合は、教務課まで相談に来てください。

(5) 日本語科目（「留学生日本語Ⅰ・Ⅱ」）及び日本事情に関する科目（「日本事情 A, B」）

受入交換留学生にも配慮して開講されているので、開講科目表を参照の上、積極的に履修してください。履修を希望する場合、必ず日本語プレイスメント・テストを受験してください。

日本語科目のクラス編成

日本語プレイスメント・テストの結果に基づいて、習熟度別のクラス編成となります。

日本語プレイスメント・テストは、私費留学生及び受入交換留学生それぞれを対象に受け入れ学期開始前に実施します。

文学部

英語英米文学科

日本語日本文学科

コミュニケーション学科

文学部

文学部の人材養成目的

人文科学の領域に関する高度の教育研究を行い、多様化する社会で他者と共生し、主体的に表現できる豊かな素養を身に付けた人材を養成する。

英語英米文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

英米および英語圏の言語・文学・文化などを多角的な視点で学び、それらの知的遺産を引き継ぎ、また海外での学びを通して語学力を身に付け、さらに情報を収集、整理、分析できる実務能力を備えた、国際社会に貢献する有為な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、英語英米文学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士（文学）」の学位を授与する。

- (1) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する専門的知識を主体的な学習・研究を通じて修得している。また上記領域を中心とする幅広い人文・社会系の教養が身に付いている。
- (2) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏における研究・就業および長期の生活に必要な英語運用能力が身に付いている。また、日本の社会において主導的・指導的な役割をはたすのに必要な日本語運用能力が身に付いている。
- (3) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想の専門的理解に基づく多角的な視点および幅広い視野・思考をもって、国際社会・地域社会に生ずる様々な課題を発見し、その解決に貢献することができる。
- (4) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する諸問題について自らの視点で考え、それを他者に伝える能力（言語運用能力を含む）、および他者と共同でおこなう作業・活動に必要な人間性・社会性が身に付いている。
- (5) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏のものを中心に、多様な文化・価値観に対する専門的な理解が身に付いている。また、国際社会・地域社会において他者と協働・共生する能力が身に付いている。
- (6) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する学習・研究経験をもとに、新たな人文・社会系の価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

英語英米文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する高度な知識の修得のため「英語圏の文化と社会」、「英語圏の文学と芸術」、「英語学」の各科目群を設け、系統的な学修ができるよう講義・演習科目を配置する。これらは、(a)少人数クラスによる演習科目、(b)各専門領域の基礎知識を修得するための科目、(c)各領域の専門科目、(d)分野を横断する複合領域的な科目、から構成されており、カリキュラムマップが示すようにこれらを段階的に履修することにより、英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができる。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語（フランス語・ドイツ語・スペイン語・中国語・朝鮮語）科目20単位以上の必修により、専門分野の学修および英語圏における研究・就業・生活に必要な英語運用能力を身に付ける。外国語履修は2コース（英語インテンシブ、2か国語履修）から選択できる。外国語科

目に加えて専門科目にも配置された英語運用能力を発展させるための科目の履修を通じて、また海外語学研修科目・プログラムにより、英語圏における情報収集・発信能力を養う。

- (3) 1年から4年まですべての年次において少人数による演習科目（ゼミ）を設置することにより、イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する調査・研究に必要な知識および課題発見・解決能力を養う。その成果を示すものとして卒業論文を必修とする。
- (4) 少人数クラスの講義・演習科目（英語によるものも含む）を設置し、イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想を扱いながら、研究・就業・生活など社会の様々な場面で求められる言語（英語）コミュニケーション能力を養う。
- (5) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する学習・研究を通じて、多様な文化・価値観をもつ他者に対する専門的な理解を養う。また英語圏における就学や英語のみでおこなわれる授業内の諸活動など、英語による学習および情報収集発信の経験を通じて、国際社会・地域社会において他者と積極的に関わり、協働・共生する能力を養う。
- (6) イギリス・アメリカをはじめとする英語圏の言語・文学・文化・歴史・社会・思想に関する主体的かつ多角的な学習・研究を実現すべく多種多様な講義・演習科目を設置し、現代・過去の社会を批判的に比較検証する力、および新たな人文・社会系の価値を見出す力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

英語英米文学科 カリキュラムマップ

学科が想定するレベル(難易度)を示しており、数字はナンバリングコードの「レベルコード」に対応しています。
レベルの数字は履修年次とは異なり、履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。



(1) 実習科目

みずから調査・研究をする力を養う。

(2) 英語圏の文化と社会

イギリス・アメリカなど英語圏の政治、歴史、思想、宗教に関する社会科学分野な学識を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

(3) 英語圏の文学と芸術

イギリス、アメリカなど英語圏の文学、視覚芸術、映画に関する人文系の学識を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

イギリス史1	イギリス史2 イギリスの思想・宗教 イギリスの文化	イギリス史3 イギリスの政治と社会1	現代イギリス論 イギリスの政治と社会2
アメリカ研究入門1・2	アメリカ史1 現代アメリカ論1	アメリカ史2	現代アメリカ論2
		アメリカの政治と社会1 アメリカの文化1	アメリカの政治と社会2 アメリカの文化2 アメリカの思想と宗教
		オーストラリアの社会と文化1	カナダの政治と社会
イギリス研究入門2	イギリス文学史1(詩) イギリス詩論	イギリス詩3	英米文化特論1
イギリス研究入門5	イギリス文学史2(劇) イギリス演劇1・2 イギリス文学史3(小説) イギリス小説1・2	イギリス演劇3 イギリス小説3	
イギリス研究入門4			
イギリス研究入門3	イギリス伝承文学1・2	イギリス伝承文学3	イギリス伝承文学4
イギリス研究入門1	イギリス文化史 英米芸術史	イギリスの文化と芸術1	イギリスの文化と芸術2
アメリカ研究入門4	アメリカ文学史 アメリカ詩1・2 アメリカ小説1・2	アメリカ演劇1・2	英米文化特論2 英米文化特論3
アメリカ研究入門3		英語圏の映画と映像1・3 キリスト教と英米文学1	英語圏の映画と映像2・4 キリスト教と英米文学2

(4) 英語学

英語の歴史や構文に関する専門的な学識を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

英語学研究入門1・2

英語学1・2
英語の歴史1・2
英語の発音1・2

英語と社会・文化1
English Linguistics 1
英語学特論1
日英語の発想と表現

英語と社会・文化2
English Linguistics 2
英語学特論2

英米文化専門講義10
英米文化専門講義11

(5) English Skills/
Advanced English

Focus on Listening and Reading 1・2
Academic Skills 1・2
英語集中ゼミナー1・2

高度な英語運用能力及び深い思考力を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

翻訳技法1
通訳技法1
同時通訳技法1
Writing Workshop 1

翻訳技法2
通訳技法2
同時通訳技法2
Writing Workshop 2

Academic Writing 1・2
Global Issues 1・2
Business Communication 1・2
Literature and Culture 1・2
English for Children 1・2

(6) 文学・文化理論

文学部とキャリア

イギリス、アメリカ、英語の秋をこえる人文系・社会系の調査・研究に資する文学・文化理論を学ぶ。

DP 1 2 3 4 5 6

カルチュラル・スタディーズA・B
古典と重疊文化A・B
テクニカル・ライフと批評A・B
ポピュラーカルチャーA・B

東西の文化と文学の文化A・B
ジャンル
児童文学論A・B
児童文学論A・B
キリスト教と文学

(7) 現地実習

イギリス、アメリカの大学における語学研修や、文化的・社会的に重要な地への訪問により、英語および英語圏文化に関するより深い学識を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

Summer Abroad(UK)
Summer Abroad(US)
Spring Abroad
Field Study 1
Field Study 2

DP:ディプロマ・ポリシー

- 1 専門的知識と人文・社会系の幅広い教養
- 2 英語および日本語運用能力
- 3 専門的知識に基づき課題発見・解決能力
- 4 言語運用能力に基づく他者とのコミュニケーション能力
- 5 国際社会・地域社会において他者と協働・共生する力
- 6 英語圏の学習・研究経験を通して新たな価値を創出する力

学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針、DP[1]0.92参照)で示す身に付けるべき知識・能力と科目との対応を表します。網掛けされた数字のDPと当該科目が関係します。

卒業に必要な単位数

英語英米文学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Bのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2017年度以降入学者

科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	CLACOA	キリスト教科目	2 「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	なし
			2 「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	
		上記以外	4	
	語学 (履修コースによる)		①22 ①英語インテンシブ・コース選択者	32
			②20 ②2か国語履修コース選択者	
学科専門	選択必修	I	2	なし
		Ⅱ-A	12	
		Ⅱ-B	6	
		Ⅲ	20	
		Ⅳ	4	
	選択			なし
	卒業論文		6	なし
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	語学の履修コース による： ①44 ②46	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
	合 計		124	

【表B】2015～2016年度以降入学者						
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	基礎教養		2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修		
	総合課題		2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	なし	
	語学 (履修コースによる)		①22	①英語インテンシブ・コース選択者	32	
			②20	②2か国語履修コース選択者		
学科専門	選択必修	I	2	合計 44	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ-A	12		〈各研究入門〉	なし
		Ⅱ-B	6		〈高度な英語科目、「英米文化専門講義」〉	なし
		Ⅲ	20			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1] 「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	選択			「海外短期研修」		
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	語学の履修コース による： ①48 ②50	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」		8	
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学 科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修 得したもの			
	合 計		124			

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）。
- ・3年次編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.125～126を参照してください。

カリキュラムの説明

英語英米文学科では、イギリスとアメリカなど英語圏について、また英語という言語そのものについて、あらゆることがらを学ぶことができます。

・専門科目各部門（カリキュラム・マップを参照してください）

英語英米文学科の専門科目は、以下の七部門に分かれています。

- (1) みずから調査・研究をする力を養う科目（少人数クラスによる演習）
- (2) イギリス・アメリカなど英語圏の政治、歴史、思想、宗教に関する科目
- (3) イギリス・アメリカなど英語圏の文学、視覚芸術、映画に関する科目
- (4) 英語の歴史や構造を扱う英語学系の科目
- (5) 高度な英語運用能力および深い思考を養う科目
- (6) (イギリス・アメリカ・英語の枠をこえる) 文学・文化理論に関する科目
- (7) イギリス・アメリカ・カナダでおこなわれる現地実習科目

(1) の演習科目は、各学年に設置されています。1年前期の演習科目は「R&R（入門ゼミ）」（必修）です。（「R&R」とは「Research & Report」の略です。）この科目で、大学における学習・調査・研究の基礎——学術資料の探し方、発表資料（レジュメ）の作りかた、小論文（いわゆる「レポート」）や論文の書きかた、など——を学びます。また、1-2年次には、この「R&R」担当教員が「アカデミック・アドバイザー」（AA）として、みなさんの相談を受け、必要なアドバイスをします。

1年後期の演習科目は「英米文化基礎ゼミ」（必修）、2年前期の演習科目は「英米文化発展ゼミ」です。それぞれ、関心のあるクラスをみずから選び、各専門分野の調査・研究の基礎を学びます。

3年次の演習科目は「英米文化専門ゼミ」（必修）です。1-2年次の演習科目よりもさらに少人数のクラス（ゼミ）に分かれ、担当教員の指導を受けながら、各自特に関心のある分野・テーマについての調査・研究をおこないます。4年次の演習科目は「英米文化卒論ゼミ」（必修）です。3年次のゼミから継続して研究してきた成果を「卒業論文」（必修）にまとめる作業をします。

(2) - (4) 各領域については、特に1-2年次にさまざまな科目を履修して関心を広げるとともに、少しずつ自分の専門とする分野・テーマを選んでいってください。(5) については、「英語インテンシブ」あるいは「2か国語履修」という共通語学コースの各科目に加えて履修することにより、さらに高度な英語運用能力を修得してください。(6) は文学部三学科共通の科目です。関心にしたがって自由に履修できます。

(7) は、休暇期間中に実施される科目で、イギリス・アメリカの社会・文化に直接ふれることを目的とする「Field Study」と、イギリス・アメリカ・カナダで短期語学研修をおこなう「Summer Abroad」、「Spring Abroad」があります。本学の「認定・交換留学」制度による留学や、英語英米文学科対象留学プログラム「セメスター・アブロード」への準備などとして、ぜひ履修してください。

・4年間の履修の指針

「選択必修Ⅱ-A」の「イギリス研究入門」、「アメリカ研究入門」、「英語学研究入門」のなかから12単位が必修です。各専門分野の基礎を扱う科目ですので、1-2年次に履修してください。(3-4年次でも履修でき、卒業単位に含まれますので、必修12単位修得後も各自の関心にしたがって履修をつづけてください。)

「選択必修Ⅱ-B」の各科目は3-4年次対象の高度な英語科目です。3科目(6単位)を必ず履修してください。語学科目の英語インテンシブ・コースは3年前期で、2か国語履修コースは2年後期で、修了します。それ以降の英語力維持・発展のために、これらの科目を活用してください。

「選択必修Ⅲ」の各科目は1年次または2年次から4年次まで履修できる講義科目で、そのなかから20単位が必修です。

開講科目表、カリキュラム・マップおよび「卒業に必要な単位数」表を参照し、各自の関心にそって履修を進めてください。(卒業単位に含まれますので、必修単位修得後も各自の関心にしたがって履修をつづけてください。)

「選択必修Ⅱ-A」の「研究入門」および「選択必修Ⅲ」各科目の履修においては、特定の分野・テーマにかたよらない履修を推奨します。フェリスの英語英米文学科で学び、社会・世界に出ていく者としてふさわしい、広く深い学識を身につけることを心がけてください。

2014年度以前入学者

2014年度学生要覧を参照してください。

・セメスター・アブロード

英語英米文学科2-4年次生を対象とした「英語教育」のための留学プログラムです。前期(3~6月)にニュージーランドのビクトリア大学で英語4技能(listening, speaking, reading, writing)をレベル別のクラスで学びます。

2年次生は交換・認定留学へのステップとして、3・4年次生は英語インテンシブ・コース修了後の英語学習継続プログラム(「選択必修Ⅱ-B」)を補完するプログラムとして活用してください。

留学制度の詳細については、p.43

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.23～29)及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

2014年度以前入学者は2014年度学生要覧を参照してください。

1. 共通科目 (CLA コア科目／基礎教養・総合課題、語学) の履修

pp.48～67を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修

- ① 選考: クラスは学科が決定します。
- ② 再履修: 「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「英米文化基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.190) の指示を受けてください。

(2) 「英米文化基礎ゼミ」: 1年次後期に履修

- ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。
- ② 再履修: 「英米文化基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 「英米文化発展ゼミ」: 2年次前期に履修

クラスは、学生の希望に基づき、定員等にあわせて学科が決定します。

(4) 「英米文化専門ゼミ」: 3年次に履修

- ① 選考: 所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修: 「英米文化専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「英米文化卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【履修条件】「R&R (入門ゼミ)」または「英米文化基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであること

(5) 「英米文化卒論ゼミ」: 4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「英米文化専門ゼミ」と同一担当者のものとし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
- ② 再履修: 「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(6) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学、セメスター・アプロード及び国内交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「英米文化専門ゼミ」「英米文化卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、派遣・交換留学の学期には卒業できません。

(7) 「卒業論文」

・提出時期

卒業論文は4年次に執筆し提出します。ただし、休学をした学生は、原則として、選択必修Ⅳの合計単位 (履修中単位を含む) が4単位になる学期以降に卒業論文を提出することとします。

・履修手続き、提出方法

「卒業論文」(通年科目) は、4年次に大学が履修登録を行います。休学をした学生の「卒業論文」の履修時期については、学科の教務委員に確認してください。提出方法等については、pp.37～38を参照してください。

日本語日本文学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

日本語・日本文学・日本文化に関する学びを通して、調査・研究・創作に関する能力を身に付け、ことばと表現に関する豊かな感性と知性を育み、歴史性・社会性を伴う幅広い視点を持ち、社会に貢献する有為な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、日本語日本文学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士（文学）」の学位を授与する。

- (1) 日本語・日本文学・日本文化の領域に関する専門的知識、すなわち各分野の資料論と方法論を十分に修得し、それに基づいて実践的に研究する力がある。また日本語日本文学を中心とする人文系の分野について幅広い教養がある。
- (2) 外国語については、日本文化を伝え外国文化を理解するに十分な程度の運用能力を身に付け、日本語については、古典から近現代のあらゆる文献の読解能力をもち、単語選択の文体的差異を理解し、適切な日本語文章作成能力が身に付いている。
- (3) 日本語日文学分野において自ら発見した問題点に関し、先行する研究を網羅的に把握し、主要なものについては学術的に論理的に批判し、よりよい調査結果・解釈を記述し研究発表会や卒業論文という形で公に問うことができる。
- (4) 他者に意図が理解されるような分かりやすい資料作りと、口頭発表およびその質疑応答が充分にできる。すなわち文書においても口頭においても洗練された日本語で自己表現できるコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 日本語日文学研究において、一つの対象・方法に固執せず、様々な研究方法・着眼点から人間社会の現象の多様性を観察し、理解して、個々の立場の尊重と所属社会内でのバランスを考えることができる。
- (6) 日本語・日文学の領域に関するオーソドックスな学問体系を理解した上で、新しい研究の動向を学び、対象を最新の文学、言語、文化理論によって再解釈し、文化事象の新たな捉え方の可能性を示すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

日本語日本文学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

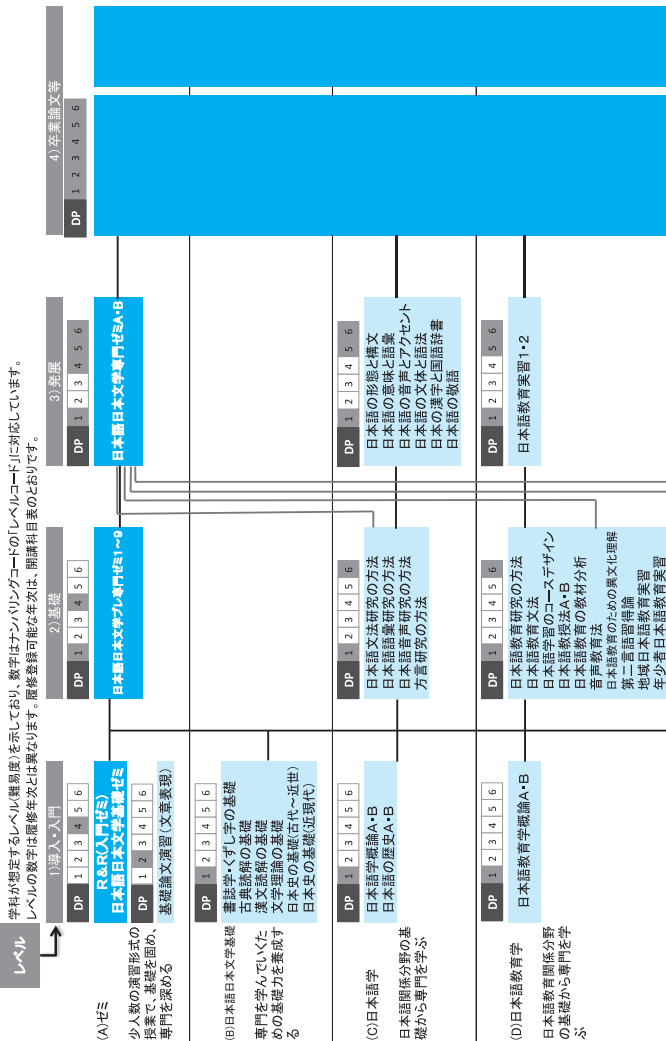
- (1) 科目体制は日本語学・日本文学を柱として体系的に構成されている。日本語学は、日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学に専門・細分化される。その授業科目は、(a) 少人数の演習形式の科目、(b) 専門を学んでいくための基礎力を養成する科目、(c) 各専門分野の学問体系に沿った科目、(d) 分野を横断した学習や実習によって視野を広げる科目、から構成されており、これらを、カリキュラムマップが示すように段階的に履修することにより、日本語日文学に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができる。特に (b) として1,2年次に必修単位を設け、(c) に各分野の研究法を据えることで主体的・実践的な研究力を養成する。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。

- (2) 日本の言語文化を多角的に捉えて世界に発信し、また日本語教育の現場で貢献できるよう、基本的な外国語運用能力を身に付けさせる。英語、中国語、ドイツ語、スペイン語、フランス語、朝鮮語のいずれかの言語を中心に履修するスタンダード・コースとインテンシブ・コースがあり、英語と初習外国語を均等に学ぶ2か国語履修コースも選択できる。また日本語表現能力向上のため、専門科目で1年次後期に論文作成方法の実践的授業を開講し、クラス指定で履修させる。
- (3) 1年から4年のすべての学期にゼミを配置し、日本語日本文学分野特有の調査・研究を進めるための実践的な基礎力を修得させる。専門分野の知識、理解を基にした課題発見と調査報告を繰り返すことにより、一般的・客観的な議論の能力を身に付ける。
- (4) 毎学期のゼミは少人数クラスの演習形式で、口頭発表と質疑応答に十分な時間をかける。他者に理解されるような資料作りと口頭説明を心掛け、自己表現を洗練していくことでコミュニケーション能力が磨かれるようにしている。
- (5) 様々な時代とジャンルからなる日本語・日本文学の研究対象と研究のスタンスとが、個別に排他的に存在するのではなく、周辺領域たる別分野との有機的連関を意識してこそ成果が上がることを科目体制やゼミ履修方法などから認識させる。
- (6) 日本語・日本文学の領域に関するオーソドックスな学問体系を理解した上で、ジャンル・分野ごとの各論履修に進み、専門の教員から新しい研究の動向を学ぶ。低学年から古典などの資料性について段階的に修得させ、先入観なく一次資料に臨めるよう養成する。

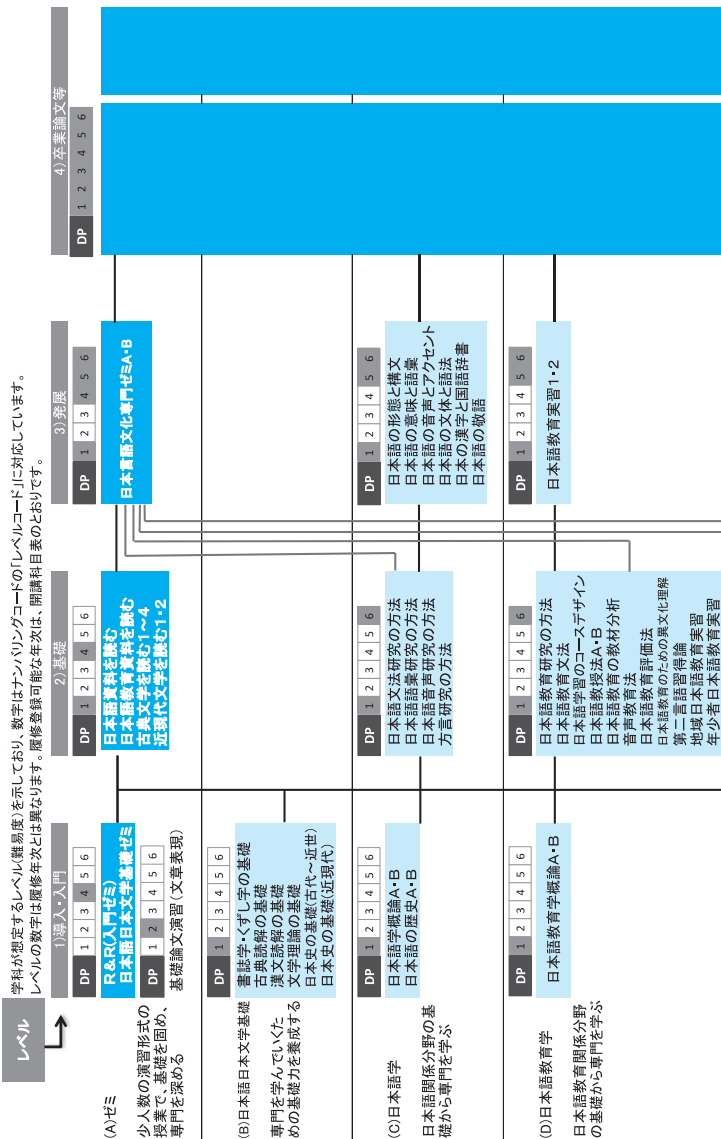
各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

日本語日本文学科 カリキュラムマップ(2016年度以降入学者)



日本語日本文学科 カリキュラムマップ (2015年度以前入学者)



(E)日本文学 日本古典文学Ⅰ～Ⅳ 日本近代文学史A・B 日本文学関係分野の基礎から専門を学ぶ	漢文学概説A・B 漢文学研究の方法 上代文学研究の方法 中古文学研究の方法 中世文学研究の方法 近世文学研究の方法 近現代文学研究の方法 神話の世界 古代和歌の世界 物語の世界 日記の世界 随筆の世界 書簡の世界 説話の世界 中世和歌の世界 近世小説の世界 俳諧の世界 近代小説の世界 現代小説の世界 近現代詩歌の世界 同時代文学の世界 能・狂言の世界 歌舞伎の世界 新選組の世界 落語の世界 児童文学の世界 少女小説の世界 近現代演劇の世界 漢字の世界 漢詩文の世界 日中比較言語・文学の世界 書道芸術の世界	(F)日本の言語・文化・文学 分野を横断した学習や要習によって、視野を広げる キリスト教と日本文学 言語学概説 日本伝統文化を学ぶ 小説創作を学ぶ 現代詩創作を学ぶ 短歌・俳句創作を学ぶ 報道文を学ぶ 編集を学ぶ 朗読・アナウンスを学ぶ 世界の中の日本文学を学ぶ 方言と社会言語学 コンピュータと言語学 言語と文化 文学と言語学 文学と子ども 文学と都市空間 地域文化を読み解く 民俗文化を読み解く 終極・絵巻を読み解く 映画・映像を読み解く マンガ・アニメ文化を読み解く 書道A・B	(G)文学部共通科目 日本語日本文学に關連する理論や文化を多角的に学ぶ 文学部とキャリア カルチュラルスタディーズA・B 古典と表象文化A・B テクスト生成と批評A・B ホビュラーカルチャーA・B 声の文化と文学の文化A・B ジェンダー・フェミニズム批評A・B 原典文学論A・B キリスト教と文学 DP 1 2 3 4 5 6 1 専門的知識と幅広い教養 2 外国語および日本語運用能力 3 先行研究の把握・批判と自律的な調査・研究能力 4 的確な資料作成と日本語によるプレゼンテーション能力 5 柔軟な思考による多様な方法論の理解 6 新しい研究動向への関心と可能性の探究 学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針、DP(p.101参照）で示す身に付けるべき資質・能力と科目との対応を表します。 網掛けされた数字のDPと当該科目が関係します。
--	---	--	---

卒業に必要な単位数

日本語日本文学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Dのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2018年度入学者						
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	C L A コア	キリスト教科目	2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	なし	
			2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修		
		上記以外	4		なし	
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者	32	
			②16	②2か国語履修コース選択者		
		③22	③インテンシブ・コース選択者			
学科専門	選択必修	I	2	合計 37	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ-A	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ-B	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ-C	2		「ブレ専門ゼミ1～9」[各2]	4
		Ⅲ	14			なし
	Ⅳ	4	「専門ゼミA,B」[1,1]「卒論ゼミA,B」[1,1]			
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による：	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8	
	他学科専門科目など		①63 ②57 ③51	他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文 学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に 修得したもの		
	合 計		124			

【表B】2017年度入学者						
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	C L A コア	キリスト教科目	2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	なし	
			2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修		
		上記以外	4		なし	
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者 ①2か国語履修コース選択者	32	
	②22	②インテンシブ・コース選択者				
学科専門	選択必修	I	2	合計 37	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ-A	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ-B	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ-C	2		「ブレ専門ゼミ1~9」[各2]	4
		Ⅲ	14			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミ A, B」[1, 1] 「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
	卒業論文	6				
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	語学の履修コース による：	①63	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8	
	他学科専門科目など		②51	他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文 学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に 修得したもの		
合 計			124			

【表C】2016年度入学者						
科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養		2		「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
	総合課題		2		「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	なし
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者		32
			②22	②1か国語履修コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者		
学科専門	選択必修	I	2	合計 37	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ-A	12		〈各分野概論〉	なし
		Ⅱ-B	3		〈基礎科目群、「基礎論文演習」〉	なし
		Ⅱ-C	2		「ブレ専門ゼミ1~9」[各2]	4
		Ⅲ	14			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミA,B」[1.1]「卒論ゼミA,B」[1.1]	
	卒業論文		6			
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による： ①67 ②55		「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」
他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文 学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に 修得したもの				
合 計		124				

【表D】2015年度以前入学者							
科目区分		科目群		単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	基礎教養				2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
	総合課題				2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	なし
	語学 (履修コースによる)			①10 ②22	①スタンダード・コース選択者	32	
					②2か国語コース選択者		
学科専門	選択必修	I	2	合計 36	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]		
		Ⅱ	12		(各分野概論)	なし	
		Ⅲ	18			なし	
		Ⅳ	4		「専門ゼミA B」[1,1]「卒論ゼミA B」[1,1]		
	卒業論文				6		
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース により		①※教育原理」、「※教育思想」 ②※教育社会学」、「※教育心理学」	8
他学科専門科目など		①68 ②56		他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文 学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に 修得したもの			
合 計				124			

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）。
- ・3年次編入学者の「卒業に必要な単位数」はpp.125～126を参照してください。

カリキュラムの説明

日本語日本文学科のカリキュラムは、日本語学・日本文学を柱として組み立てられています。日本語学は、日本語学と日本語教育学に、日本文学は上代文学・中古文学・中世文学・近世文学・近現代文学・漢文学に専門・細分化されます。その授業科目は、

- ・少人数の演習形式の科目
- ・専門を学んでいくための基礎力を養成する科目
- ・各専門分野の学問体系に沿った科目
- ・分野を横断した学習や実習によって視野を広げる科目

から構成されています。これらを段階的に（カリキュラムマップのレベル1から順に）履修することにより、日本語日本文学に関する幅広い知識を得ながら、徐々に専門性を深めていくことができます。

学科専門科目のいくつかは、同時に教職課程（国語）や日本語教員養成講座の必修科目でもあります（学生要覧「別冊」の当該ページ参照）。

●4年間の履修の指針

【1年次】に履修が指定されている科目は選択必修Ⅰ群の「R&R（入門ゼミ）」と「日本語日本文学基礎ゼミ」*1です。前期の「R&R」は Research & Report の略で、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなど、大学ならではの研究方法を全員が身につけられるようトレーニングをします。このクラスの担当教員が、原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー（AA）」としてみなさん方に種々のアドバイスをします。後期の「日本語日本文学基礎ゼミ」は、学科の各専門分野における研究の初歩を学ぶ科目で、前期の終わりに希望調査を行った上でクラス分けをします。これら2つの演習により、日本語日本文学科で調査・研究発表をしていくための実践的な基礎力を身に付けます。

同時に、1,2年次には選択必修Ⅱ A 群*2の〈概論・文学史〉の講義科目を履修することによって、各専門分野の全体的知識を学びます。幅広く学ぶことが大切な時期です。

また、選択必修Ⅱ B 群*3〈日本語日本文学の基礎〉の科目群は、専門分野の理解を助ける基礎的な知識をつけるためのものです。1,2年次のうちにできるだけ多くの科目を履修するようにしてください。なかでも「基礎論文演習（文章表現）」は、専門分野についてのレポートや卒業論文を書いていくために必ず必要となる技能を養成するための科目ですので、1年次の後期にクラス分けをして全員が履修します。

【2年次】選択必修Ⅱ C 群の「日本語日本文学プレ専門ゼミ」*4は「基礎ゼミ」同様、前後期とも希望調査を行った上でクラス分けを行う演習科目で、週2回の授業により一気に実践力を高め、3年次の「専門ゼミ」につなげます。2年次以降は選択必修Ⅲ群の科目が多く履修できるようになります。講義内容や研究方法論の専門性が増し、調査・整理・分析・発表という主体的な受講が求められるものもあります。また、それらゼミに直結する専門的な科目の他に、日本文化に関する視野を広げる科目も開かれています。これらの科目を選択することで、専門についてもより深い探究、より広い展望を獲得できます。2年次の12月までには「ゼミ分け」が完了し、進むべき専門の分野が決まります。

【3年次】は選択必修Ⅳ群の「日本語日本文学専門ゼミ」*5を履修し、各自の研究テーマを本格的に学ぶことになります。さらに、【4年次】には同じⅣ群の「日本語日本文学卒論ゼミ」*6を履修し、卒業論文作成に向けて研鑽を積むことになります。卒業論文のテーマは、平生の履修の中で常に考え、早めに見つけるような心がけてください。

*1 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化基礎ゼミ」。

*2 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅡ群。

*3 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅢ群。

*4 2015年度以前入学者用カリキュラムではⅢ群の学科選抜「～を読む」科目。

*5 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化専門ゼミ」。

*6 2015年度以前入学者用カリキュラムでは「日本言語文化卒論ゼミ」。

●教職（国語）資格、日本語教員

日本語日本文学科の専門科目を履修しつつ、教職課程の規定科目の単位修得をすることで、国語の教員免許状が取得できます。「教職入門」「国語科教育法」などの〈教職に関する科目〉は卒業要件124単位に算入されませんが、学期ごとの登録単位数（上限24単位）には含まれるので、教育実習に行く前までの3年間で〈教科に関する科目〉の最低修得単位数（中学28、高校36）は満たせるよう、1年次から科目を選んで計画的に履修しましょう。また、国語学、国文学、漢文学をバランスよく修得することも大切です。

日本語教員養成講座は、講座カリキュラムの主要部分が日本語日本文学科の専門科目（日本語教育学、日本語学）で構成されているので、学科の卒業要件を満たしつつ効率的に講座を修了することができます。

それぞれのカリキュラム表（学生要覧別冊）をよく読み、専門科目の履修を資格取得に生かしてください。

●その他

選択必修Ⅲ群には、文学部3学科に共通の科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を自身の研究に生かしましょう。他学科の開放科目も、日本語日本文学科の「卒業に必要な単位数」の「その他」の区分としてカウントされます。まずは必修の共通科目と本学科専門科目で時間割を組むのが基本ですが、興味をひくものがあれば、他学科の専門科目を（シラバスを熟読した上で）受講してみるものよいでしょう。卒業要件の124単位を、4年間（8学期）かけてどのように修得していくのか―必要最小限の単位修得ということだけ考えれば、次のように配分することが可能です：

※1年（前19+後19）+2年（前19+後19）+3年（前20+後20）+4年（ゼミ2+卒論6）+ α =124+ α

しかし、教職履修・語学留学・進学等々により必要単位数や適切な配分は変わってきますし、そもそも、修練を重ねてきてもっとも理解力・実践力の高まった4年次こそ、専門講義科目の教員の示す学術的ディテールまで判るので、より楽しく、充実した受講になるのです。8学期を存分に利用して、専門を広く、深く、学んでください。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.23～29) 及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目 (CLA コア科目／基礎教養・総合課題、語学) の履修

pp.48～65、68～71を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。

2. 専門科目の履修

カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。

(1) 「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修

- ① 選考: クラスは学科が決定します。
- ② 再履修: 「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「日本言語文化基礎ゼミ／日本語日本文学基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.190) の指示を受けてください。

(2) 「日本言語文化基礎ゼミ／日本語日本文学基礎ゼミ」: 1年次後期に履修

- ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。なお、「R&R (入門ゼミ)」担当者とは、異なる担当者のもとで履修することとします。
- ② 再履修: 「日本言語文化基礎ゼミ／日本語日本文学基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 「基礎論文演習 (文章表現)」: 1年次後期に履修【2012年度以降入学者】

1年次の後期に1単位を履修することとします。クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

(4) 選択必修Ⅲ「～を読む」について【2015年度以前入学者】

2年次に、選択必修Ⅲのつぎの科目群 (2年次ゼミ) の中から前期後期それぞれ1科目4単位ずつ、合計8単位を履修してください。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

「日本語資料を読む」「日本語教育資料を読む」
「古典文学を読む1」「古典文学を読む2」「古典文学を読む3」「古典文学を読む4」
「近現代文学を読む1」「近現代文学を読む2」
「中国文学を読む」

(5) 選択必修Ⅱ-C「日本語日本文学プレ専門ゼミ」: 2年次に履修【2016年度以降入学者】

2年次に、選択必修Ⅱ-Cの中から前期後期それぞれ1科目2単位ずつ、合計4単位を履修してください。クラスは学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。

(6) 「日本語言語文化専門ゼミ／日本語日本文学専門ゼミ」：3年次に履修

- ① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示及び学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。
- ② 再履修：「日本語言語文化専門ゼミ／日本語日本文学専門ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「日本語言語文化卒論ゼミ／日本語日本文学卒論ゼミ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

【履修条件】：2016年度以降入学者

(A) 「R&R（入門ゼミ）」または「日本語日本文学基礎ゼミ」のいずれか1単位が修得済みであること

(B) 「日本語日本文学プレ専門ゼミ」1科目2単位を含む、合計28単位を2年次後期終了時点で修得済みであること

*「交換留学」「認定留学」「国内留学」によって2年次前期・後期ともに「日本語日本文学プレ専門ゼミ」の履修ができなかった学生については、「日本語日本文学専門ゼミ」の履修を認め、あわせて3年次前期に「日本語日本文学プレ専門ゼミ」を履修することを必修とします。なお、留学先において修得した演習科目が「日本語日本文学プレ専門ゼミ」の単位として認定される場合があります。

2015年度以前入学者

「R&R（入門ゼミ）」または「日本語言語文化基礎ゼミ／日本語日本文学基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであること

(7) 「日本語言語文化卒論ゼミ／日本語日本文学卒論ゼミ」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「日本語言語文化専門ゼミ／日本語日本文学専門ゼミ」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業論文指導を受けることとします。
- ② 再履修：「卒論ゼミ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「卒論ゼミ B」を重複して履修し、「卒論ゼミ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(8) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「日本語言語文化専門ゼミ」と「日本語言語文化卒論ゼミ」、あるいは「日本語日本文学専門ゼミ」と「日本語日本文学卒論ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学の学期には卒業できません。

(9) 「卒業論文」

・提出時期

卒業論文は4年次に執筆提出します。ただし、休学をした学生は、原則として、選択必修Ⅳの合計単位（履修中単位を含む）が4単位になる学期以降に卒業論文を提出することとします。

・履修手続き、提出方法

「卒業論文」（通年科目）は、4年次に大学が履修登録を行います。休学をした学生の「卒業論文」の履修時期については、学科の教務委員に確認してください。提出方法等については、pp.37～38を参照してください。

・量的条件

提出する「卒業論文」本文（注を含む）の量的条件は、A4判1200字詰めで20枚以上（ただし、創作ゼミナールについては、指導教員の指示による。）です。書式等に関する詳細は学科による卒論オリエンテーションの配付資料を見てください。

コミュニケーション学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域における科学的アプローチによる学びを通して、科学的論理に基づく理解と実践力をもち、多文化共生社会の構築に貢献する有為な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、コミュニケーション学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士（文学）」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアの領域に関する専門的知識が身に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要な英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの多様な専門分野を研究することにより、多角的かつ幅広い視点・視野をもち、データに基づいた理論分析・批判的思考を通して社会において生ずる様々な課題を発見し、それを解決する能力が身に付いている。
- (4) 現場へ出て実社会の人々と出会い、様々な意思疎通のスキルを獲得することにより、社会に貢献できるコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 学びを通して社会や人間の多様性および他者との連帯の重要性を理解し、他者と協働・共生することができる能力が身に付いている。
- (6) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの切り口から、多様化する現代社会と人間関係を社会科学的・文化的にとらえ、考察することにより、文学・芸術・社会・人間に関する新しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

コミュニケーション学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 1年次には導入ゼミを置き、2年次には専門性を加味したゼミを置き、そして、3年次と4年次には専門を深めるための専門ゼミを配置し、すべての学生が少人数のゼミに所属して連続性のある指導を受けられるようにしている。専門分野の科目については、コミュニケーションの「全体像を知る」、「研究方法に取り組む」、「専門と出会う」の科目群を通して学ぶ。「専門と出会う」においては「多文化理解」、「共生コミュニケーション」、「表現とメディア」の3領域を柱として、理論と実践の観点から、さらには調査・研究方法の習得をも重視して学ぶことにより、コミュニケーション研究に関する専門知識の修得を図る。その他、幅広い教養を身に付けるために全学共通の教養教育を選択必修として課し、また自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は5つの語学コース（英語インテンシブ・コース、英語スタンダード・コース、初習外国語インテンシブ・コース、初習外国語スタンダード・コースおよび2か国語履修コース）から選択することができる。加えて、言語コミュニケーションに関する専門科目も開設している。また、日本の社会において主導的・指導的な役割をはたすのに必要な日本語運用能力を身に付けさせる。
- (3) 1年次から4年次まですべての学科生が所属する少人数編成の演習科目（R&R（入門ゼミ））、コミュニケー

ション基礎ゼミ、コミュニケーション学探求ゼミ、コミュニケーション専門ゼミⅠおよびコミュニケーション専門ゼミⅡ等を通して、課題発見・解決能力の向上を図る。

- (4) 各演習科目およびアクティブ・ラーニング型の授業など、インタラクティブな授業や意見交換を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (5) 多文化理解、共生コミュニケーション、表現とメディアなどの切り口からコミュニケーション学の領域に関して広く学ぶ（研究する）ことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、他者との協働・共生能力の向上を図る。その際、国・民族だけでなく、性別・世代・セクシャルマイノリティ等の問題も多文化として捉え、これらの問題の理解と改善とに取り組んでいく力を養う。
- (6) コミュニケーション学の領域に関する知識を身に付け、演習科目などによる教員や他の学生との討論などを通して、新たな価値を見出す能力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

[illegible]

卒業に必要な単位数

コミュニケーション学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Cのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2018年度入学者

科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学 共通	C L A コア	キリスト教科 科目	2	合計 36	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
			2		「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	なし
		上記以外	4			なし
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者	32	
			②16	②2か国語履修コース選択者		
		③22	③インテンシブ・コース選択者			
学科 専門	選択必修	I	2	合計 36	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1]	
		Ⅱ	12		〈各分野概論、研究方法〉	なし
		Ⅲ	18			なし
		Ⅳ	4		「専門ゼミⅠ A、Ⅰ B」[1, 1] 「専門ゼミⅡ A、Ⅱ B」[1, 1]	
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による：		「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		①64 ②58 ③52		他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数 以上に修得したもの	
	合 計		124			

【表B】2017年度入学者

科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	C L A コア	キリスト教科目	2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修		
			2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[2] ※選択必修	なし	
		上記以外	4		なし	
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者 ①②か国語履修コース選択者	32	
			②22	②インテンシブ・コース選択者		
学科専門	選択必修	I	2	合計 36	「R&R（入門ゼミ）」[1]、「基礎ゼミ」[1] (各分野概論、研究方法)	
		Ⅱ	12			なし
		Ⅲ	18			なし
		Ⅳ	4			
	卒業論文		6			
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による：	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
他学科専門科目など		①64 ②52	他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの			
合 計		124				

【表C】2016年度以前入学者					
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養		2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
	総合課題		2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ※選択必修	なし
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②22	②1か国語コース選択者 ②インテンシブ・コース選択者	
学科専門	選択必修	I	2	「R&R(入門ゼミ)」[1]、「基礎ゼミ」[1] 〈各分野概論、研究方法〉	
		Ⅱ	12		なし
		Ⅲ	18		なし
		Ⅳ	4	「専門ゼミⅠA、ⅠB」[1,1] 「専門ゼミⅡA、ⅡB」[1,1]	4
	卒業論文		6		
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による：	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」
他学科専門科目など		①68 ②56	他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数 以上に修得したもの		
合 計		124			

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）。
- ・3年次編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.125～126を参照してください。

カリキュラムの説明

コミュニケーション学科の目指すもの

コミュニケーション学科は、みなさん方が21世紀の多文化・共生時代を生きるため、多様化する社会や人間、文化などを総合的にとらえた上で、社会関係をスムーズにし、対人スキルを身につけ、豊かな表現能力が獲得できるよう、現状把握・調査・分析・理論、そして実習・実践などを重視する学科として2004年度に新しく開設されました。

人は、動物とは異なり一人で生きてゆけず、「社会」を構成してしか生きられません。その際、人は「ことば」で思考し、書きことば・話しことば・しぐさ・音・画像などの記号を駆使し、情報の乗り物であるメディアという道具を用いて自己表現や他者とのコミュニケーションを行っています。その複雑さと「個」というエゴのため、ときとして人間は他の動物よりもはるかに非合理的な争いを生じさせも、身近なところでは誤解や「いじめ」、他者の人権や生命の侵害、グローバルにみれば差別や貧困、大量殺戮や戦争などの悲しくかつ憂慮すべき事態を繰り返してきました。人間がもっと賢くなり、「憎しみ」の連鎖を断ち切り、多様な人びとと平和的に暮らせるようになる世界を構築するためには、私たち全員がもっともって人間の心や社会のシステム、様々な文化、表現のしかたなどについて学び、むしろ「違い」を楽しむような実践が求められます。そのときのキーワードが「コミュニケーション」にほかなりません。

カリキュラムの構成

本学のコミュニケーション学科は、以上のような問題意識の上に立って、カリキュラム構成に他大の同じような学科にはない数多くの特徴をそなえています。

まずカリキュラムの構造（pp.116～117のカリキュラムマップ参照）ですが、(1)入学したての大学生としてトレーニングを少人数のゼミで積む「基礎を学ぶ」、(2)コミュニケーション研究の入門編として「全体像を知る」、(3)実証的研究方法編としての「研究方法に取り組む」、(4)各論の基礎編である「コミュニケーションの基礎を学ぶ」、そして(5)各論の専門科目である「多文化理解・共生コミュニケーション・表現とメディア」の3領域からなる「専門と出会う」が、階梯性をもって配置され、(1)「専門を深める」科目として、2年次生全員が履修しなければならない、ゼミ風の「コミュニケーション学探求」も用意されています。また(6)コミュニケーション研究の解釈実践ともいえる「現代文化を読み解く」が加わり、最後に卒業論文・卒業制作に結実するゼミナールとしての「専門を深める」「専門を極める」((1)参照)でしめくられるよう組み立てられています。

カリキュラムのハイライトである(5)は、さらにそれぞれ「知と出会う」と「フィールドへ出る」とで構成されており、前者は主として現状や先行研究について理論的に学び、後者は主として学内外でのワークショップや実習によって実践的に学びます。

4年間の履修の指針

コミュニケーションに関連する授業内容は多岐にわたっており、どれもまんべんなく履修することをお勧めします。最低限の取得単位で卒業するのは、もったいないことです。しかし、「あれもこれも」と欲張りすぎても、「コミュニケーション学科でどんな勉強をしたの?」と他人や就職面接で訊かれて答えられないことになりかねません。自分の興味や研究テーマ、進路などにそって、自分なりのカリキュラムを構造化する必要があります。また、基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科の開放科目、語学などでもできるだけ関連させて履修したいものです。そのかわり、かなりハードな学生・学習生活になることを覚悟する必要があります。4年間・8セメスターの計画（履修計画のみならず留学や就職活動の予定）や、長期の夏休み・春休みなどの計画（資格や免許の取得など）をしっかりと立てておくことが肝要です。

1年目に全員必修で履修する選択必修Ⅰ「基礎を学ぶ」は、「R&R（入門ゼミ）」と「コミュニケーション基礎ゼミ」からなっています。前期の「R&R（入門ゼミ）」は、Research & Reportの略で、文学部共通のゼミナールとして設置されています。大学ならではの、学術資料の調べ方やレジュメの書き方、発表のしかた、討論のしかたなどを全員が身につけることによって大学での学習が実りあるものになるよう、トレーニング

をします。少人数制のこのクラスは、担当の先生が原則として2年次まで「アカデミック・アドバイザー(AA)」として、みなさん方に種々のアドバイスを行います。続く1年後期の「コミュニケーション基礎ゼミ」では、様々な領域にわたるコミュニケーション研究のいずれかひとつの“入り口”を経験してもらいます。どちらも単位を取得しないと卒業できない必修科目です。配当された1年次生のうちに修得するようにしてください。

選択必修Ⅱ **全体像を知る** としては、1、2年次に、コミュニケーションの概念や諸相に関する入門編である「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」のうちのいくつかと、多様な広がりを持つコミュニケーションに関する研究方法の入門編である「コミュニケーション研究方法の全体像」がおかれています。この6科目について学年指定はありませんが、1、2年次のうちに履修しておくことを推奨します。また **研究方法に取り組む** の8科目のうちいくつかを、やはり2年次までに履修してください。今後4年間の授業で、なかでもゼミと卒業論文・制作の場では、これらの授業で得た知識が「身につけていることを前提」として授業が進みます。これらⅡ群の単位は、合計12単位以上満たしていないと卒業できません。「研究方法に取り組む」の8科目のうちのいくつかは「社会調査士」の資格科目ともなりますので、詳細は学科からの説明をよく聞いてください。

選択必修Ⅲ **専門と出会う** では、まず **コミュニケーションの基礎を学ぶ** で、コミュニケーション研究における各論の専門的知識が講じられます。心理学や社会学、言語学などの専門的な研究領域において、コミュニケーションという概念がどうとらえられ、どのように研究されてきたのかについての基礎を学んでいきます。

また2年次生は、前期に、この中の **コミュニケーション学探求** から、必ず1科目を履修してください。学科の専任教員が、それぞれの専門性をゼミ形式で鍛えます。

選択必修Ⅲのメイン科目は、**多文化理解 共生コミュニケーション 表現とメディア**の3ジャンルで、現状や先行研究について理論的に学ぶ **知と出会う** くくりと、主に学内外におけるワークショップや実習によって実践的に学ぶ **フィールドへ出る** くくりがそれぞれラインナップされています。3ジャンルまんべんなく履修することをお勧めしますが、自分なりの専攻・ピークを作ってもいいでしょう。科目によっては現地実習などで参加費が必要な場合やパスポートが必要な場合などがあり、授業時間外の参加が求められることも少なくありませんので、初回授業時には必ず出席して担当教員の説明や指示をよく聞いてください。また、多くの科目で毎回のようにレポートや制作物の提出が課題とされ、グループワークやホームワークが求められるでしょう。

これらの選択必修Ⅲは、**現代文化を読み解く** と合わせて18単位以上履修すれば卒業要件を満たしますが、できるだけ多くの科目を学ぶに越したことはありません。

選択必修Ⅳ **専門を深める** の「コミュニケーション専門ゼミⅠA,ⅠB」は、コミュニケーション学科全専任教員がそれぞれ研究テーマを掲げてゼミナール生を募集し、3年次に学生全員がいずれかのゼミナールに所属して、発表や討論や文献講読、フィールドワーク、調査などをしながら少人数で研究を行います。それは、4年次の「コミュニケーション専門ゼミⅡA,ⅡB」に橋渡しされ、最終的な「卒業論文・卒業制作」をまとめます。これらⅣ群はいずれも必修です。3年次からはゼミ担当の教員が「アカデミック・アドバイザー」となります。

4年間・8セメスターの履修は、次のモデル図をよく参考にして組み立ててください。また、2年次後期に募集され3年次から始まるゼミナールは、次頁のような研究内容のゼミが予定されています。早い学年のうちに履修計画を立てておくようにしてください。

4年間の履修モデル

科目群／セメスター	1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期	
語 学	磨く／訓練する		実践力をつける		語学力を維持する／発展させる				
「全体像を知る」 基礎編	「言語コミュニケーション概論」 「社会コミュニケーション概論」 「文化コミュニケーション概論」 「心理コミュニケーション概論」 「コミュニケーション概論」 「コミュニケーション研究法の全体像」の履修								
プレゼミ	R&R	基礎ゼミ	コミュニケーション学探求						
「研究方法に取り組む」	「研究方法」科目群の履修（上記を含む12単位以上）								
「コミュニケーションの基礎を学ぶ」	「基礎を学ぶ」科目群の履修（なるべくまんべんなく）								
コミュニケーション科目 専門	「多文化理解」「共生コミュニケーション」「表現とメディア」科目群の履修 （まんべんなく又は分野をしばって履修）								
その他の履修					留学、インターンシップ、ボランティア実習				
ゼミ・卒論・卒制					ゼミ選び	研究テーマづくり	研究テーマ決定	調査、フィールドワーク	執筆・制作

＊履修にあたっては、web上のシラバスおよび学生要覧を必ず熟読して登録・授業に参加してください。またシラバス上で使用されているテクニカルタームについては、各自で調べて履修に臨むほか、R＆Rテキストの「用語集」なども熟読してください。

ゼミナール担当（指導可能）分野

教 員 名	相澤 一	井上恵美子	小ヶ谷千穂	斎藤孝滋	潮村公弘	高田明典	高橋京子	藤巻光浩	諸橋泰樹	山崎 浩一
専 攻	異文化コミュ	教育学	多文化共生	社会言語学	文化心理	メディア文化論	身体論	カルチュラル・スタディーズ	マスコミ社会学	心理学
指 導 専 攻	心理・社会心理			○	○	○			○	○
	異文化・多文化	○	○	○	○			○		
	言 語	○		○				○		○
	身 体			○			○			
専 攻 分 野	家族・教育	○	○							○
	ジェンダー	○	○		○				○	
	思想・社会	○	○	○		○	○	○		
履 修 可 能 な 専 攻	メディア				○	○		○	○	○
	コンピューター・情報					○				
最低限履修しておくべき研究手法科目 (2科目のうちどちらかは履修しておくこと)	アンケート・社会調査の方法	インタビュー・面接のスキル	フィールドワークとエスノグラフィ	話しことばを分析する	データを数量から読み解く	文献・情報の集め方	フィールドワークとエスノグラフィ	フィールドワークとエスノグラフィ	アンケート・社会調査の方法	実験の研究計画をたてる
	文献・情報の集め方	アンケート・社会調査の方法	フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ	データを数量から読み解く	アンケート・社会調査の方法	マルチメディア制作IA	文献・情報の集め方	文献・情報の集め方	データを数量から読み解く	データを数量から読み解く
履修しておくことが望ましい科目	異文化のコミュニケーション	子どもの発達とこれからの教育問題	グローバル化する人の移動の社会学	ことばのフィールドワーク	文化の心理学	テキスト分析と物語構造分析を学ぶ	身体表現論	批評理論	ジェンダー問題と男女共同参画社会	対人コミュニケーションの心理学
	多文化・多言語社会を考える	これからの家族問題A,B	多文化・多言語社会を考える	言語コミュニケーション概論	コンピュータによる調査データの解析A	アンケート・社会調査の方法	身体と心身の心理学	多文化時代の人間学	メディアリテラシーを身につける	コンピュータによる調査データの解析A、B
	アジアとの出会いと異文化体験	ジェンダー問題と男女共同参画社会	共生のフィールドワーク	日本語文法対人コミュニケーション	対人コミュニケーションの心理学	文化コミュニケーション概論	スポーツ文化	共生社会論	マスコミュニケーションと情報社会	教育心理学

＊表の見方…教員ごとに、指導可能分野に丸印がついています（○は「かなり専門的に指導可」、○は「指導可」）。表をヨコに見ると分野ごとのゼミが浮かび上がります。たとえば、「言語」関係のゼミ志望でしたら、第1希望斎藤先生、第2希望相澤先生などのように希望することができます。もちろん、第1希望高橋ゼミ、第2希望高田ゼミ、第3希望小ヶ谷ゼミなどのように、一貫しない志望でもかまいませんが、その分事前の最低限履修しておくべき研究手法科目履修しておくことが望ましい科目が増えることになります。

その他

Ⅲ群には、**文学・文化理論を学ぶ**として、文学部の全学生を対象にした共通科目が用意されています。最新の文学理論や文化理論を、コミュニケーション研究に大いに活かしてください。

科目名には、これまでみなさんが聞いたことのない、横文字や最新用語が使われているものがあります。履修前・登録前に、必ずシラバスをよく読んで授業に臨んでください。

なお本学科には、設備の関係や学習効果を上げるため、受講者数を少人数に絞っている科目が少なからずあります。履修申し込みを学生本人が「履修者数制限科目希望受付期間」に行うか、授業の第1回目出席して当該教員による選抜を受けなければなりません。卒業要件や入ゼミ条件にかかわる科目であるにもかかわらず、申し込みを怠ったり1回目の授業を休んだりとすると、履修できず本人の不利になりますので、充分注意してください。

履修の進め方

「履修上の注意」(pp.23～29) 及び以下の指示にしたがって履修を進めてください。

1. 共通科目 (CLA コア科目／基礎教養・総合課題、語学) の履修
pp.48～65、68～71を読み、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。
2. 専門科目の履修
カリキュラムマップ、別冊の開講科目表の「履修年次」、「備考」及び「履修方法」欄の記載に注意して履修してください。また、次のとおり履修方法が定められています。
 - (1) 「R&R (入門ゼミ)」: 1年次前期に履修
 - ① 選考: クラスは学科が決定します。履修登録は学科で行います。
 - ② 再履修: 「R&R (入門ゼミ)」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の前期に再履修することになります。卒業年度の後期まで未修得の場合に限り、「コミュニケーション基礎ゼミ」を重複して履修し、「R&R (入門ゼミ)」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員 (p.190) の指示を受けてください。
 - (2) 「コミュニケーション基礎ゼミ」: 1年次後期に履修
 - ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。前期末に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。
 - ② 再履修: 「コミュニケーション基礎ゼミ」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度の後期に再履修することになります。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。
 - (3) 「コミュニケーション学探求」: 2年次前期に履修
 - ① 選考: クラスは、学生の希望に基づき定員等を勘案して学科が決定します。
 - ② 2年前期のオリエンテーション時に希望票提出・選考を行う予定です。詳細は掲示で知らせます。履修登録は学科で行います。

【履修条件】「R&R (入門ゼミ)」または「コミュニケーション基礎ゼミ」のいずれか1単位を修得済みであること

 - (4) 選択必修Ⅱについて
 - ① 1年次または2年次に、選択必修Ⅱ「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」と「コミュニケーション研究方法の全体像」および「実験の研究計画をたてる」「アンケート・社会調査の方法」「インタビュー・面接のスキル」「話しことばを分析する」「文献・情報の集め方」「データを数量から読み解く」「フィールドワークとエスノグラフィー」「フィールドワークとライフヒストリー分析を学ぶ」の中から12単位以上を修得すること。
 - ② 上記のうち「言語コミュニケーション概論」「社会コミュニケーション概論」「文化コミュニケーション概論」「心理コミュニケーション概論」「コミュニケーション研究方法の全体像」は必修指定にはなっていますが、重要な基礎科目です。各「概論」は1つ以上、「研究方法の全体像」は是非履修するようにしてください。
 - (5) 「コミュニケーション専門ゼミⅠA、ⅠB」: 3年次に履修
 - ① 選考: 所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考し、決定します。2年次後期に説明会・書類提出・選抜がおこなわれますので、掲示および学科発行の「履修の手引き」の指示に従ってください。

- ② 再履修：「コミュニケーション専門ゼミⅠ A,Ⅰ B」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「コミュニケーション専門ゼミⅡ A,Ⅱ B」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員（p.190）の指示を受けてください。

(6)「コミュニケーション専門ゼミⅡ A,Ⅱ B」：4年次に履修

- ① 所属ゼミは原則として3年次の「コミュニケーション専門ゼミⅠ A,Ⅰ B」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業論文・卒業制作の指導を受けることとします。
- ② 再履修：「コミュニケーション専門ゼミⅡ A」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「コミュニケーション専門ゼミⅡ B」を重複して履修し、「コミュニケーション専門ゼミⅡ A」の代替科目とすることが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(7) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学・認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に上記ゼミを履修することができない学生については、「コミュニケーション専門ゼミⅠ A,Ⅰ B」と「コミュニケーション専門ゼミⅡ A,Ⅱ B」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学の学期には卒業できません。

(8)「卒業論文・卒業制作」

・提出時期

卒業論文・卒業制作は4年次に執筆・制作し提出します。ただし、休学をした学生は、原則として、選択必修Ⅳの合計単位（履修中単位を含む）が4単位になる学期以降に卒業論文・卒業制作を提出することとします。

・履修手続き、提出方法

「卒業論文・卒業制作」（通年科目）は、4年次に大学が履修登録を行います。休学をした学生の「卒業論文・卒業制作」の履修時期については、学科の教務委員に確認してください。提出方法等については、pp.37～38を参照してください。

・卒業論文・卒業制作の選択

「卒業論文・卒業制作」の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が設定されています。要件などの詳細に関しては4年次前期に開催される「卒業論文・卒業制作オリエンテーション」において説明されるので、揭示等に留意してください。

社会調査士資格認定について

「社会調査士」とは、日本教育社会学会・日本行動計量学会・日本社会学会の三学会が連携協力して設立した「社会調査士認定機構」を前身とする一般社団法人社会調査協会が認定する資格で、社会調査の知識や技術を用いて、世論や市場動向、社会事象等をとらえることのできる能力を有する「調査の専門家」のことを指します。所定の科目群の履修を通して社会調査に関する基礎的な知識と技能および応用力と倫理観を身につけた者に対して認定されます。コミュニケーション学科では、この「社会調査士」の資格取得のために必要となる科目の認定を受けています。ただし、資格認定のためには、所属するゼミナールや、履修する科目に関して、条件があります。社会調査士資格の取得を希望する人は、学科から配布される資料や、文学部共同研究室的の掲示に注意するようにしてください。社会調査士資格の詳細に関しては、一般社団法人社会調査協会のホームページで見ることができます。（<http://jasr.or.jp>）

編入学生の卒業に必要な単位数

3年次編入学生は、編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得することが、卒業の条件です。

学科及び入学年度によってカリキュラムは異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認してください。科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に記載されています。

英語英米文学科 3年次編入学生				
科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（*：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(2)	
	総合課題			
	語学	—		32
学科専門	選択必修	Ⅰ	—	
		Ⅱ－A	—	
		Ⅱ－B	6	なし
		Ⅲ	—	なし
		Ⅳ	4	「専門ゼミ A, B」[1, 1] 「卒論ゼミ A, B」[1, 1]
	選択	—	「海外短期研修」	
その他	卒業論文	6		
	教職に関する科目	42	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」 他学科の開放科目のほか、共通科目、英語英米文学科 専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得し たもの	8
	選択必修Ⅱ			
合 計		62		

日本語日本文学科 3年次編入学生【表A】2018年度入学生				
科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（*：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(2)	
	総合課題			
	語学	—		32
学科専門	選択必修	Ⅰ	—	
		Ⅱ－A	—	
		Ⅱ－B	—	なし
		Ⅱ－C	—	なし
		Ⅲ	—	なし
	卒業論文	4	「専門ゼミ A, B」[1, 1] 「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
その他	卒業論文	6		
	教職に関する科目	48	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」 他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日本文学 科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得 したもの	8
	選択必修Ⅱ			
合 計		62		

日本語日本文学科 3年次編入学者【表B】2017年度以前入学者				
科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(2)	
	総合課題			
	語学	—		32
学科専門	選択必修	I	—	
		Ⅱ	—	なし
		Ⅲ	—	なし
		Ⅳ	4「専門ゼミ A, B」[1, 1]「卒論ゼミ A, B」[1, 1]	
その他	卒業論文	6		
	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	48	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、日本語日文学 科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得 したもの	
合 計		62		

コミュニケーション学科 3年次編入学者				
科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」(2)	
	総合課題			
	語学	—		32
学科専門	選択必修	I	—	
		Ⅱ	—	なし
		Ⅲ	—	なし
		Ⅳ	4「専門ゼミⅠ A、Ⅰ B」[1, 1] 「専門ゼミⅡ A、Ⅱ B」[1, 1]	4
その他	卒業論文	6		
	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	48	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、コミュニケーション 学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に 修得したもの	
合 計		62		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です。(p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP 制）」参照)
- ・（「キリスト教Ⅰ～Ⅳ」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。(p.57「キリスト教関連科目」参照)

国際交流学部

国際交流学科

国際交流学部の人材養成目的

国際交流の領域に関する学際的かつ高度の教育研究を行い、総合的知識を身に付けた人材を養成する。

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

国際交流の領域に関する高度の教育研究を行い、グローバル化の時代にふさわしい、専門分野の枠を越えた総合的知識を身に付けた人材、すなわちこれからの社会に貢献できる知性と行動力をもった人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、国際交流学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力を身に付けた者に「学士（国際交流学）」の学位を授与する。

- (1) グローバルな視点で発想・行動するための基礎となる幅広い教養と国際交流の領域に関する十分な専門的知識が身に付いている。
- (2) 国際交流に必要な言語運用能力が身に付いている。
- (3) グローバル化した現代社会・文化に関する専門知識を修得し、それを批判的に研究することにより、多角的かつ幅広い視点・視野をもち、課題発見・解決能力が身に付いている。
- (4) 多様化する環境の中で国境や文化の違いを越えて人々と結びつき、国際的に活躍するために必要な行動力やコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 世界や諸地域の現状を探り、文化・思想・言語が異なる人々を理解し、他者と協働・共生する能力が身に付いている。
- (6) 国際交流に関わる専門知識や専門分野の枠を越えた総合的知識を得てグローバルな視点から考え、自由な発想力から新しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

国際交流学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

- (1) 全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また、専門教育は、学際的な広い分野を体系的に学べるよう「プログラム制」で専門科目を編成する。プログラム所属前となる1年次対象に、幅広い専門分野を学ぶための指針を得させるための学科専任教員全員によるコラボレート科目「研究入門（国際交流学部での学び）」を前期の必修科目として置く。またプログラムに共通する専門基礎知識を学ぶ科目を1、2年次対象に配置する（基幹科目群）。2年次以降学生が専門分野を系統的に学ぶことによって国際交流に関する十分な知識を修得できるよう「国際協力」、「文化交流」、「人間環境」の3プログラムを展開し、各プログラムの学修目標に沿った科目を編成する。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 全学共通の英語および初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース（インテンシブ・コース、2か国語履修コース、スタンダード・コース）から選択することができる。また、本学科の目的である国際交流、多文化理解のために、外国語で専門分野を学ぶ科目や海外での現地実習を行う科目を専門科目の「実践科目」および各プログラム科目として設定し、国際交流の領域で通用する言語運用能力の向上につなげる。
- (3) 1年次から4年次まですべての学科生が所属する少人数編成の演習科目（導入演習、基礎演習、専門演習等）を段階的に配置し、さらにPBL科目を個別に専門科目に設けることにより、アカデミック・ス

キルの修得から専門知識の深化、とりわけ、課題発見・解決能力を習得させる。

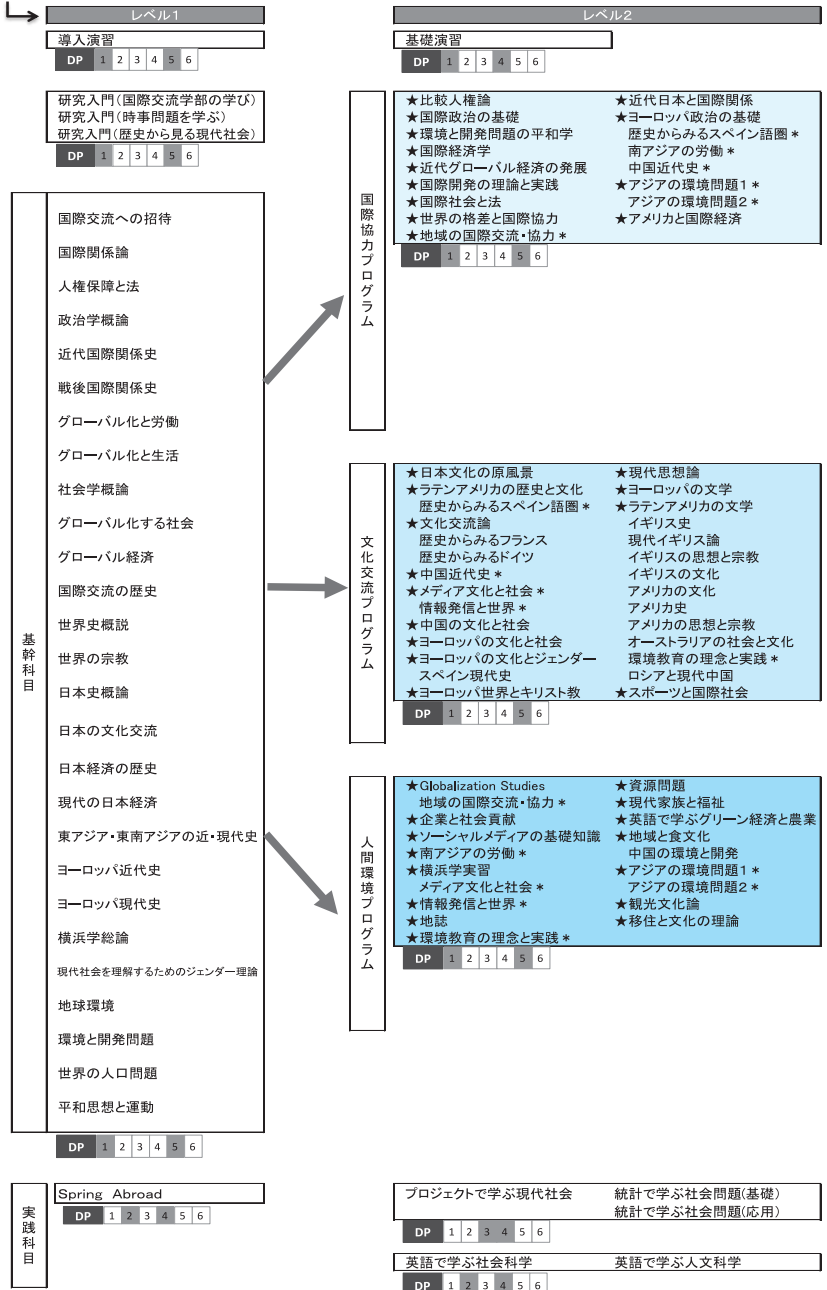
- (4) 各演習科目およびアクティブ・ラーニング型の授業など、インタラクティブな授業や意見交換を通して、コミュニケーション能力の向上を図る。
- (5) 各国の歴史・文化・思想・宗教などについて広く学ぶことを通して、異なる価値観をもつ他者を理解し、他者との協働・共生能力の向上を図る。
- (6) 学際的な知見を広め、演習科目などによる教員や他の学生との討論などを通して、新たな価値を見出す能力を養う。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

レベル

学科が想定するレベル(難易度)を示しており、数字はナンバリングコードの「レベルコード」に対応しています。
レベルの数字は履修年次とは異なります。履修登録可能な年次は、開講科目表のとおりです。



カリキュラムマップ

★: 推奨科目 * : 他のプログラムと重複する科目

レベル3

比較政治制度論	フランスの政治
国際政治の考え方	中国現代史 *
国際機構と国際平和	韓国現代史 *
国際機構とグローバル・イシューズ	北朝鮮現代史 *
途上国と開発経済学	アジアの国際関係
現代グローバル経済の発展	東南アジアと日本の国際協力
開発援助論	アジア現地実習
戦争と平和の学説史	ユーラシアの国際関係 *
国際経済と法	北ヨーロッパの歴史 *
法でみる世界	イギリスの政治と社会
地域統合	アメリカの政治と社会
日米関係史	現代アメリカ論
ヨーロッパ政治思想史 *	カナダの政治と社会
グローバル・ビジネス	アフリカを学ぶ
★市民社会の国際協力	中東を学ぶ
現代日本と国際関係	平和構築
南アジアの経済	★人権と世界政治
★ヨーロッパ統合論	安全保障

DP 1 2 3 4 5 6

ヨーロッパ政治思想史 *	仏教と世界
日本政治思想史	イスラームと世界
現代社会に見る日本文化	中国の近現代文学
儒教と世界	中国の文化と芸術
前近代の中国思想	中国の文化と社会
フランス現代史	韓国社会の現状を考える
比較文化論から見た芸術	韓国の文化と社会
翻訳と文化	ヨーロッパ地域論
中国現代史 *	ユーラシアの国際関係 *
韓国現代史 *	北ヨーロッパの歴史 *
北朝鮮現代史 *	思想文化論
アジア共同体研究	ヨーロッパ世界の芸術
若者の文化と社会 *	近現代中国思想と日本
	比較スポーツ論

DP 1 2 3 4 5 6

市民参加の社会形成	北ヨーロッパの福祉社会
国際交通ビジネス	格差社会とアイデンティティ
プログラミング入門	若者の労働環境
情報で世界を変える	英語で学ぶグリーン経済とエネルギー
情報とシステムのセキュリティ	地域ブランドの育て方
若者の文化と社会 *	農環境体験実習
地方分権と市民社会	海外環境フィールド実習
人文地理学	海外エコツーリズム実習
自然地理学	グローバル化する仕事と家族
都市生活の空間デザイン	在日外国人
住空間デザイン	余暇と旅行
環境共生型ライフスタイル	民族問題から見た世界情勢
ジェンダーと持続可能な開発	国際ブランド・ビジネス
身体と生命の社会学	

DP 1 2 3 4 5 6

Current Global Affairs	ヨーロッパ現地実習
Japan Studies	オーストラリア現地実習
英語で学ぶグローバル問題	

DP 1 2 3 4 5 6

レベル4

DP: ディプロマ・ポリシー

- 1 幅広い教養と専門的知識
- 2 言語運用能力
- 3 専門知識に基づく課題発見・解決能力
- 4 多様化する国際社会でのコミュニケーション力
- 5 他者と協働・共生する能力
- 6 総合的知識を取得し新しい価値を見出す力

学科のディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針、DP)(p. 10 ●参照)で示す身に付けるべき資質・能力と科目との対応を表します。網掛けされた数字のDPと当該科目が関係します。

国際協力プログラム
国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献するために必要な能力を身につけます。

文化交流プログラム
日本および世界の文化、歴史、思想／宗教と、それらの相互的係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。

人間環境プログラム
自然と社会の環境について学び、コミュニティや生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件などを理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。

専門演習

卒業論文

DP 1 2 3 4 5 6

卒業に必要な単位数

国際交流学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Bのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2017年度以降入学者					
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	CL Aコア	キリスト教科目	2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
			2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ※選択必修	なし
		上記以外	4		なし
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②2か国語履修コース選択者	
			③22	③インテンシブ・コース選択者	
学科専門	必修		10	「導入演習」[1]、「研究入門（国際交流学部での学び）」[2]、「基礎演習」[3]、「専門演習」[4]	
	選択必修	基幹科目	12		なし
		所属するプログラムの推奨科目	6 } 合計で 20単位以上	国際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	なし
		所属するプログラムの科目			なし
	卒業論文		6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コースによる：	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		①58 ②52 ③46	他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
	合 計		124		

【表B】2014～2016年度入学者					
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養		2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
	総合課題		2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ※選択必修	なし
	語学 (履修コースによる)		①10	①スタンダード・コース選択者	32
			②16	②2か国語履修コース選択者	
③22			③インテンシブ・コース選択者		
学科専門	必修		10	「導入演習」[1]、「研究入門（国際交流学部での学び）」 [2]、「基礎演習」[3]、「専門演習」[4]	
	選択必修	基幹科目	12		なし
		所属する プログラムの 推奨科目	6	合計で 20単位 以上	なし
		所属する プログラムの 科目			なし
	卒業論文		6		
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		語学の履修コース による：	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」
他学科専門科目など		①62	他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科 専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得 したもの		
		②56 ③50			
合 計			124		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・「卒業論文」に代えて、国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。アカデミック・アドバイザーと相談の上、所定の手続きが必要です。（p.143「「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修方法について」参照）
- ・「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、「専門演習」の卒業に必要な単位数が2単位となります。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）
- ・編入学者の「卒業に必要な単位数」は pp.132～133を参照してください。

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は、次のとおりです。編入学年及び入学年度によってカリキュラム及び条件が異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認してください。

2年次編入学者	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること
3年次編入学者	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に記載されています。

2年次編入学者【表A】2018年度入学者						
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」〔単位数〕 その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	CLACコア	キリスト教科目	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」（各2）		
		上記以外	2			なし
	語学		6		32	
学科専門	基礎演習		2			
	選択必修	基幹科目	8		なし	
		所属するプログラムの推奨科目	6	合計で20単位以上	国際協力、文化交流、人間環境プログラムのうち、所属するプログラムの推奨科目最低6単位を含む合計20単位以上を修得	なし
		所属するプログラムの科目				なし
	専門演習		4			
	卒業論文		6			
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	44	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8		
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの			
合 計			94			

2年次編入学者【表B】2015～2017年度入学者				
科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」（各2）	
	総合課題			
	語学	6		32
学科専門	基礎演習	2		
	選択必修	基幹科目	8	なし
		所属するプログラムの推奨科目	合計で 20単位 以上	なし
		所属するプログラムの科目		なし
	専門演習	4		
	卒業論文	6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	44	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合 計		94		

3年次編入学者				
科目区分		単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学 共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」（各2）	
	総合課題			
	語学	—		32
学科 専門	選択必修	—		なし
	専門演習	4		
	卒業論文	6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	48	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、国際交流学科 専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得 したもの	
合 計		62		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です。（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）
- ・3年次編入学者のみ「キリスト教Ⅰ～Ⅳ」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。（p.57「キリスト教関連科目」参照）
- ・「卒業論文」に代えて、国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。アカデミック・アドバイザーと相談の上、所定の手続きが必要です。（p.143「「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修方法について」参照）
- ・「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合、「専門演習」の卒業に必要な単位数が2単位となります。

カリキュラムの説明

国際交流学部での学びとねらい

問題はなにか

われわれは日々、新聞やテレビ、インターネットなどによって多くの情報に接しています。しかしその中で見聞きする世界の出来事がどのような意味を持ち、どのような背景をもっているのかを理解することは容易ではありません。メディアを通して世界の様々な地域の様子も伝えられますが、それぞれの地域で人々はどうのような生活を送り、どのようなことを考え、どのような文化をはぐくみ、どのような社会を形づくっているのでしょうか。現在、世界は数々の深刻な問題を抱えています。それらに対してどのような取り組みがなされ、対策が講じられているのでしょうか。世界の問題は、いまやわれわれの生活とも密接に結びついています。そして、世界の人々とふれあい、理解し合うためには何が必要なのかを考えることが求められています。

グローバルな視点、発想、行動力を修得

グローバル化の流れがより本格化した21世紀の社会では、世界各地との交流を深め、文化・思想・言語が異なる人々と“共生”することが大きなテーマです。しかし現実には、環境・社会問題や民族紛争、経済格差など多くの課題に直面しており、理想と現実の落差はきわめて深刻です。それゆえ世界や諸地域の現状を探り、過去にさかのぼり、未来のあり方を考察し、とりわけ、国境や文化の違いを超えた、人と人の結びつきについて学び、考えるのが国際交流学部での学修です。

国際交流学部では、世界で日々起こっている問題を地球市民としてとらえ、グローバルな視点から考え、国境にとらわれない視点・発想を学び、世界で活躍できるコミュニケーション能力と行動力を身につけます。

3つのプログラム制

本プログラム制では、「国際協力」、「文化交流」、「人間環境」の3つのテーマを軸に国際交流について学びます。初年次には、「研究入門」「導入演習」などの科目によって大学での学び方と現代世界に関する問題意識を身につけながら、「基幹科目」で国際交流について理解するために必要な基本的知識を学びます。そこから、各自の関心に従ってプログラムを選択し、それぞれに適切に配置された科目群の系統的な履修を通じて専門科目を学びます。基礎から専門へ、プログラム制でわかりやすく、しっかり階段を上るように学びます。

履修の指針

大学ではさまざまな分野の学修に関心をもち、視野と思考の幅を広げてください。重要なことは、できるだけ早いうちに自分が何を学びたいかを見つけ、自分が研究したいテーマが何かを明確にすることです。そのためにも必修科目に留意しながら、自分が学びたいことを4年間に配分し、有機的かつ総合的に学習することが大切です。

国際交流学科では、国際交流における総合的知識を自らの特性や志向に合わせて体系的に学べるよう、プログラム制を導入しています。

1年次は基幹科目群を中心に、各専門分野の基礎を学びます。2年次以降は3つのプログラムのいずれかを選択し、各プログラムの学修目標にそって知識を深めます。各プログラムの学びの特徴は下記のとおりです。

プログラム	概 要
国際協力	国際的な政治・経済・法のしくみを学び、国際協力のあり方を理解し、国際的な関係を有する内外の場で社会貢献をするために必要な能力を身につけます。 グローバル化する現代社会において、国際協力は普通の市民にとっても遠い存在ではありません。私たちの何気ない日々の生活や行動が、遠くの国・地域で暮らす人々の生活とさまざまな形でつながっています。しかし、多様な国・地域からなり複雑化した現代世界では、わたしたちと国際問題の関わりを発見・理解するのが容易でないのも事実です。そこでこのプログラムでは、平和、貧困、格差、人権、開発など、国境を越えて複雑に絡み合う政治・経済・社会問題に多角的に切り込み、その原因と構造を探索して問題解決の能力を養います。また、現実に展開されているさまざまな国際協力の実態を学ぶことで、国際協力の意味と難しさについて知見を深め、それを国際協力の実践へとつなぐことを目指します。
文化交流	日本および世界の文化、歴史、思想／宗教と、それらの相互の係わりを学び、現代世界の多様性と複合性を理解し、文化的観点から国際交流に貢献できる能力を身につけます。 古来より、世界各地域の文明間、あるいは国家間ではさまざまな手段で文化交流がおこなわれてきました。しかし現代の情報や交通手段の飛躍的発展は、国境を越えた交流をさらに容易にただけでなく、世界の均一化を加速させてきたといえます。そこでこのプログラムでは、世界を国家中心に捉える見方を乗り越え、世界各地域の文化の多様かつ複合的なあり方を学ぶことで、文化交流について理解を深めることを目指します。まず、個別的な地域（日本、アジア、ヨーロッパ、ラテンアメリカ）に注目し、これらの地域の歴史や文化、宗教等を学び理解します。その上で各地域間の交流、つまり文化の多様性を尊重しつつ世界と共存していくための文化交流の歴史と現在について知識を広げ、洞察力を高めていきます。
人間環境	自然と社会の環境について学び、コミュニティや生活者の視点から、私たちの暮らしのあり方、調和のための条件などを理解し、他者との共生に貢献する能力を身につけます。 現代の人間を取り巻くさまざまな環境は、次第に画一的で均一なものになりつつあります。それは、自然環境の破壊、地球温暖化、食の安全性の軽視、インターネットやメディアの社会的影響の拡大、少子高齢化などの問題として、私たちの生活に深く影響を及ぼしています。このプログラムでは、暮らしと地球環境、食の地産地消やブランド化、観光の促進、ソーシャルビジネス、メディアの多様化、福祉・格差問題など、私たちにとって身近な課題を、ローカルとグローバルの2つの視点で捉え考えます。つまり、各テーマについての国際動向も学びつつ、私たちの環境や暮らしを見直し、社会の諸問題の解決策や改善策を新たな切り口で再考し、他者と共生できる社会を実現するための思考力と実践力を養います。

プログラム制により学びたい領域を選び、3年次からの「専門演習」でテーマを深めていきます。履修の際には以下の5点に注意してください。

1. 語学の選択（インテンシブ・コースかスタンダード・コースかを含む）

語学は専門科目の履修と密接な関係があります。1年次前期・後期の語学の履修は、慎重に考えましょう（『履修のてびき』を熟読してください）。

2. 「導入演習」「研究入門（国際交流学部での学び）」

1年次前期に履修する国際交流学部の学びの基礎を習得する科目です。「導入演習」では、資料の探し方、レポートの書き方、口頭発表の仕方などのアカデミック・スキルを学びます。「研究入門（国際交流学部での学び）」では国際交流学科の学びの多様性を知ることができます。

3. 「基礎演習」

自分自身が関心をもつ研究テーマについて、基礎的な知識や思考を深めるための演習科目です。少人数のゼミ形式で、議論や発表など自主的な学修を進めます。1年次後期から2年次後期まで各学期1単位、合わせて3単位を履修します。関心のあるテーマの科目を選んでください。

4. 「専門演習」

3年次前期から履修が始まります。関心のある研究テーマを深め、4年間の学習の成果を「卒業論文」にまとめることを目指します。専門演習一覧（p.142）や学科が配布する「専門演習履修の手引き」を熟読し、各教員の研究テーマを参考に自分の研究にはどの「専門演習」が適切であるかをあらかじめ検討しておくことが望まれます。

5. 上記以外の専門科目の履修

自分の学習計画を十分に踏まえて目的に応じた選択をする必要があります。次の（1）から（3）に注意して履修しましょう。

（1）基幹科目

1年次から2年次の間に学ぶ学科全体に共通する基礎知識を身につける科目で、合計12単位以上を修得しなければなりません。

（2）プログラム科目

2年次前期から3つのプログラムのうち希望のプログラムに所属します。各プログラムの科目には推奨科目があり、推奨科目6単位以上を含む合計20単位以上を修得しなければなりません。

（3）実践科目

上記（1）（2）の他に、専門分野を英語で学ぶ科目、研究のための調査方法を学ぶ科目、海外実習を通して国際交流の理解を深める科目など、知識を社会で活用するために必要なスキルを身につける科目もあります。

1 年次生の皆さんへ

新入生が語学や専門分野を決めることは難しいかもしれません。そのような場合には、アカデミック・アドバイザー（1年次前期は「導入演習」、1年次後期および2年次は「基礎演習」担当者）に相談することができます。オリエンテーション時に配布される「くっきり、しっかり学びのレシピ～国際交流学部学修便覧～」も参考にして、体系的な履修になるよう心がけましょう。

4年間の国際交流学部での学生生活をととして、主体的に学習に励み、幅広い知識を蓄え、地球上で日々生起するさまざまな問題を地球市民の一員として考え、世界と未来に向けて平和と共生のメッセージを発信する力を身につけてください。それが国際交流の原点であるからです。

また、資格取得を目指している人は、早めに計画を立ててください。学科専門科目と資格関連科目の時間割が重複し、思うように履修できなくなる可能性があるので、1年次より計画的に履修しましょう。

なお、学生生活や学びに必要な情報は FerrisPassport で確認することができます。また、登校時と下校時には必ず掲示板を見て、自分にとって必要な情報をしっかりと収集してください。

履修の進め方

専門科目の履修

国際交流学科では、2年次から国際協力、文化交流、人間環境の3つのプログラムから1つを選択し、選択したプログラムに沿って履修を進めていきますが、他の2つのプログラムの科目も履修することができます。

必修科目の「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」については、次のとおり履修方法が定められています。

	必修科目	アカデミック・アドバイザー
--	------	---------------

1年次

前期	「導入演習」 「研究入門（国際交流学部での学び）」	1単位必修 クラス指定	「導入演習」
後期	「基礎演習」	2単位必修 クラス指定 1科目を選択	「基礎演習」 担当者

2年次

前期	「基礎演習」	1単位必修 1科目を選択	「基礎演習」
後期	「基礎演習」	1単位必修 1科目を選択	担当者

後期「基礎演習」担当者が「3年次「専門演習」」の選択・決定の指導を行います。

3年次

前期	「専門演習」	1単位必修 1科目を選択	「専門演習」
後期	「専門演習」	1単位必修 1科目を選択	担当者

「基礎演習」を2単位以上修得していることが「専門演習」履修の条件となります。

同一教員が学生のアカデミック・アドバイザーとなり、授業科目履修及び研究の指導を行います。

4年次

前期	「専門演習」	1単位必修	「卒業論文」 ^{*1} (通年科目)	「専門演習」 担当者
後期	「専門演習」	1単位必修	6単位必修	

*1「卒業論文」のかわりにアカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合、4年次の「専門演習」は選択となります。詳細は、p.143を確認してください。

後期「基礎演習」担当者が 3年次「専門演習」の選択・決定の指導を行います。

「基礎演習」を2単位以上修得していることが「専門演習」履修の条件となります。

同一教員が学生のアカデミック・アドバイザーとなり、授業科目履修及び研究の指導を行います。

*1「卒業論文」のかわりにアカデミック・アドバイザーの指定する国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合、4年次の「専門演習」は選択となります。詳細は、p.143を確認してください。

必修科目及びプログラム選択の手続き及び履修

必修科目の手続きに関する案内、クラス指定、選考はすべて学科が行います。窓口は全て国際交流学部共同研究室です。

学科からの情報発信は FerrisPassport の掲示、8号館掲示板で行うので、各自で確認してください。

1. 手続き

手続き、履修登録については次のとおりです。

「基礎演習」「専門演習」は、提出された志望票に基づき学科が選考、調整を行います。

	申込み等手続	履修登録	提出先	選考
導入演習	指定されたクラスを履修するため、手続きは必要ありません。	自動登録	—	なし
研究入門 (国際交流学部での学び)	手続きは必要ありません。	自動登録	—	なし
基礎演習	各学期に定められた期日までに志望票を提出 注意：同一担当者のクラスは1回のみ履修可	許可されたクラス が自動登録される	国際研*	あり
専門演習	定められた期日までに志望票を提出	許可されたクラス が自動登録される	国際研*	あり
プログラム選択	定められた期日までに所定用紙を提出	—	国際研*	なし

* 国際研：国際交流学部共同研究室

「基礎演習」及び「専門演習」の志望票未提出の場合

「基礎演習」：原則として次学期の履修は認められません。

「専門演習」：原則として3年次の履修は認められません。

なお、第1次選考で未決定となった学生を対象に第2次選考を行います。

正規の手続き期間内に志望票を提出しなかった者は対象外です。

2. 留学等の理由による「基礎演習」及び「専門演習」の規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び国内交流（同志社女子大学での国内留学）により、規定された履修年次・学期に履修することができない場合のルールは次のとおりです。

	ルール
基礎演習	(1) 1学期に2つ並行して履修することが認められます。 (2) 留学が決定した場合、留学の前の学期に「基礎演習」を2つ履修することも認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。
専門演習	(1) 3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。 (2) 3年次後期から4年次前期までの2学期にわたる留学等については、3年次前期分の「専門演習」と3年次後期分の「専門演習」を並行して履修すること等が認められます。該当者は教務主任に申し出て指示を受けること。なお、派遣・交換留学学期には卒業できません。

3. 再履修

必修科目の再履修の手続きは、学科の定めた期日に行います。詳細は国際交流学部共同研究室的で確認してください。

(1) 導入演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

	ルール
導入演習 (前期のみ)	各クラス3名を上限に受付を行います。 語学科目、他の必修科目と時間割が重複しないように選択してください。

(2) 研究入門（国際交流学部での学び）

再履修は、国際交流学部共同研究室での手続きが必要です。

(3) 基礎演習、専門演習

再履修は、国際交流学部共同研究室への手続きが必要です。

なお、再履修すべきクラスが複数ある場合、認められるルールは次のとおりです。

	ルール
基礎演習	2年次・3年次生：1学期のみ2つ並行して履修することが認められます。 4年次生：前期、後期とも2つ並行して履修することが認められます。
専門演習	3年次履修分の「専門演習」を4年次に履修する者は、4年次前期または後期のいずれか1学期に限り、4年次履修分の「専門演習」と3年次履修分の「専門演習」を並行して履修することが認められます。

4. 「専門演習」の履修条件

(1) 前提

「基礎演習」を2単位以上修得していない者は、「専門演習」を履修することができません。

ただし、このルールは2年次編入学生には適用されません。

(2) 担当者

3年次の「専門演習」は、前期・後期とも同一担当者のものを履修しなければなりません。

5. 「専門演習」のテーマ一覧

国際交流学科には、次の「専門演習」が設けられます。オリエンテーション時に配布する「専門演習履修の手引き」と併せて、4年間の履修計画を立てる上での参考としてください。

教 員 名	2018年度テーマ
朝 倉 三 枝	近現代ヨーロッパの服飾文化
荒 井 真 (2018年度休講)	(2017年度テーマ：リーガルマインドを身に付ける (法的議論の方法と法的知識を学ぶ))
泉 谷 陽 子	中国の歴史と文化 (近現代を中心に日本と比較しながら)
上 原 良 子	ヨーロッパ国際関係とフランス
大 西 比呂志	横浜をフィールドとした地域学 (歴史のほか、国際交流、都市計画や町おこし、政治行政や生活環境、教育や芸術など 地域と関連する様々な分野が可能です)
大 野 英二郎	外国に行った日本人・日本に来た外国人
寛 雅 博	日本文化 (現代日本社会のさまざまな状況もカバーします)
木 曾 順 子	開発途上国の社会と発展
金 香 男	韓国の社会と文化
齊 藤 直	日本の経済と経営：歴史と現状
佐 藤 輝	地球環境問題
新 城 道 彦	東アジアの歴史と文化 —— 時事問題の起源を探る ——
杉之原 真 子	グローバル化と政治・経済・社会 —— 日米を中心に
高 雄 綾 子 (2018年度休講)	(2017年度テーマ：開発と環境の文化とメンタリティ)
高 柳 彰 夫	SDGs 時代の国際開発協力と市民社会
田 丸 理 砂	ドイツ語圏の社会と文化 (ジェンダーの視点から)
知 足 章 宏	アジアの開発と環境問題
常岡 (乗本) せつ子	比較憲法、人権、民主主義、平和主義
寺 尾 隆 吉	スペイン語圏の芸術と文化
中 塚 次 郎	スペインならびに地中海世界の歴史と文化
野 田 寛 達	言葉と人 —— 中国語から知る中国人
原 口 尚 彰	地球市民とキリスト教
春 木 良 且	技術の進歩と社会の変化を探り、レジリエントな近未来を考える
ヒガ, マルセーロ	現代社会と移民 / ラテンアメリカを中心とした文化交流
福 島 仁	近現代中国の社会と文化
古 内 洋 平	現代の国際関係を学ぶ
ベンヤミンミドルトン	現代社会の社会学
矢 野 久美子	ドイツ政治文化論・思想史
和 田 浩 一	スポーツ・遊び・文化から見える国際社会

「卒業論文」又は「卒業論文」に代わる国際交流学科専門科目6単位の履修方法について

4年次には卒業論文を執筆します。

ただし、卒業論文に代えて国際交流学科専門科目6単位の履修が認められる場合があります。この場合は3年次後期の所定の期日（1月中旬）までに、3年次アカデミック・アドバイザー（「専門演習」担当者）と相談の上決定し、手続きを行ってください。なお、手続きの詳細については国際交流学部共同研究室の掲示板で確認してください。

1. 卒業論文を執筆する場合

(1) 専門演習の履修

「卒業論文」を提出しようとする者は、4年次に「専門演習」を履修しなければなりません。

(2) 履修手続き、提出方法

「卒業論文」（通年科目）は4年次に、大学で登録されるので、自分で登録する必要はありません。提出方法等については、pp.37～38を参照してください。

2. 卒業論文に代えて国際交流学科専門科目6単位の履修が認められた場合の手続き

(1) 科目の指定、指定対象除外科目

4月アカデミック・アドバイザー面談で指定する国際交流学科専門科目6単位を、4年次の前期・後期にわたって履修しなければなりません。

ただし、「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」、現地実習科目、集中講義科目、履修者数制限科目、初回授業時選抜科目は指定対象除外科目ですので指定できません。

(2) 科目指定手続き、履修登録方法

(1) で指定された科目の履修登録は各自で行います。ただし、その前に国際交流学部共同研究室に指定科目を提出する必要があります。

(3) 指定科目未修得時の再指定

4年次前期に指定科目の単位修得ができなかった場合は、9月アドバイザー面談でアカデミック・アドバイザーから再指定を受ける必要があります。再指定後の手続き等は(2)のとおりです。

(4) 「卒業論文」から「学科専門科目6単位の履修」への変更

4年次前期、後期開始前に変更が可能です。変更を希望する場合には学科（国際交流学部共同研究室）に申し出て必要な手続きをとってください。

履修上の注意（卒業延期者対象）

卒業延期が確定した学生のうち、次に該当する者は、卒業予定学期開始時に教務主任（p.190）に申し出て指示を受けてください。追加登録または再指定が認められる場合があります。

- ① 卒業論文選択において「基礎演習」・「専門演習」の志望票未提出等の理由により履修登録が完了していない。
- ② 「学科専門科目6単位の履修」において成績評価が不合格となった等の理由により指定科目が未修得。

「現地実習」科目

現地実習科目には、「アジア現地実習（2）」「ヨーロッパ現地実習」、「オーストラリア現地実習」、「Spring Abroad」、「海外環境フィールド実習」、「海外エコツーリズム実習」があります。履修の流れ、手続き等はp.40「海外短期研修」または国際課が発行する冊子「STUDY ABROAD」（当該年度発行）も参照してください。

音楽学部

音楽芸術学科

演奏学科

音楽学部の人材養成目的

音楽の領域に関する高度の教育研究を行い、専門的な知識・能力・技術を身に付けた人材、また音楽界を文化的、社会的な側面から多様に支える人材を養成する。

音楽芸術学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

音楽創造・音楽表現・音楽文化の領域における総合的な理解とともに、音楽で人と社会を結ぶための知識やスキルの修得を主眼とし、音楽のジャンルを越えた多彩な学びの中で、幅広く社会で活躍する人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、音楽芸術学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力・技能を身に付けた者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と音楽創造、音楽表現、音楽理論、音楽の歴史、音楽文化に関する専門知識が身に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要となる英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 歴史、社会、文化、宗教、表現、教育といった多様な側面から音楽を理解し、現代社会において音楽に求められるニーズを発見・分析する能力が身に付いている。
- (4) 社会との懸け橋として音楽をとらえ、それを実践するために必要な行動力やコミュニケーション能力が身に付いている。
- (5) 地域社会の中での演奏活動、作品発表、演奏会の企画・制作・運営といった実践活動を通して、他者と協働・共生する能力が身に付いている。
- (6) 多様な音楽シーンで必要となる知識やスキルおよびコミュニケーション力により音楽と社会を結びつけ、新しい価値を見出す能力が身に付いている。

◆カリキュラム・ポリシー

音楽芸術学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・能力・技能を修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

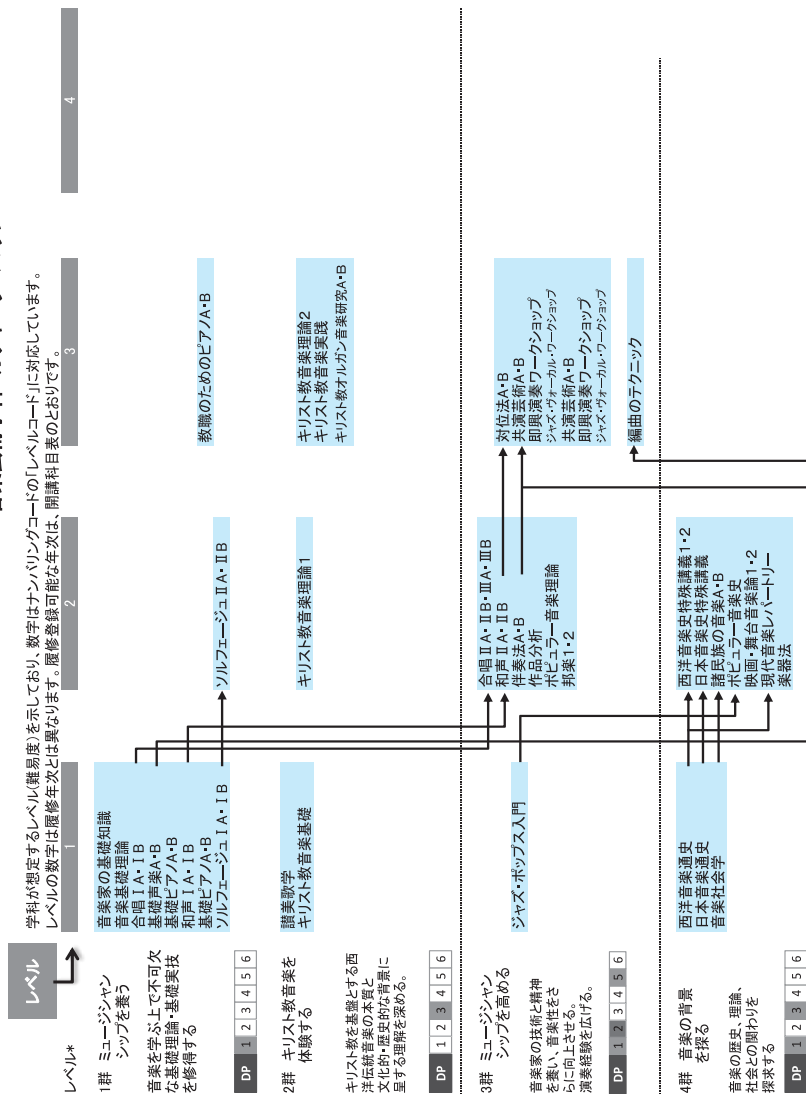
- (1) 全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また専門教育については、1年次にアカデミック・スキルを身に付ける「基礎演習」、2年次に「応用演習」を履修し、3～4年次には「専門ゼミ」に所属することにより専門性を追及する。さらに、これらに並行して音楽の基礎知識に関する科目、実技の基礎スキルを身に付ける科目を1、2年次で修得できるよう編成する。加えて2年次から4年次にかけては専門分野を幅広く学ぶために「ミュージシャンシップを高める」、「音楽の背景を探る」、「社会実践コミュニケーション」の科目群を置く。また併せて音楽指導者に求められる実技スキルを身に付けるための科目を3、4年次対象に開講する。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 幅広いジャンルの音楽に対する理解を深め、国内にとどまらない制作および企画運営への参加を実現するため、全学共通の英語および初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）科目により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース（スタンダード・コース、英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コース）から選択することができる。
- (3) 少人数演習形式によるアカデミック・スキルを身に付ける「基礎演習」（1年次）、「応用演習」（2年次）、専門を高める3、4年次「専門ゼミ」を必修として課し、専門知識・スキルによる課題発見・解決力の向上を図る。
- (4) 音楽表現で必須となる共演、集団表現、集団制作に関連する科目を編成し実社会とつながる機会を設け、コミュニケーション能力の向上を図る。

- (5) 異なる文化的、社会的価値観をもつ他者を理解し、ともに創造・制作活動を行うことにより、他者との協働・共生能力の向上を図る。このためにワークショップ科目や学外で作品発表、演奏といったアウトリーチ活動を行う科目（「海外音楽研修」、「学外公開発表」）を置く。
- (6) 音楽を中心とした様々な表現（演奏、演劇、映像など）を教室内外・学内外で実践することにより、外部とのインタラクティブな応答を経験し、新たな価値を発見・創造することができるような授業科目を開講する。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

音楽芸術科カリキュラムマップ



学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針、DP）（p.147参照）で示す身に付け
るべき資質・能力と科目との対応を表します。
網掛けされた数字のDPと当該科目が関係しま
す。

5群 社会実践コミュニティ
ニケーション

キャリア設計を視野に入れる

DP 1 2 3 4 5 6

医療と音楽
心と音楽
音楽情報論
メディア・アート

音楽療法1・2
スーパーリーダーワークショップA・B
台奏
指揮法A・B

コンピュータ音楽制作1
作曲・編曲法
音楽ジャーナリズム
訳語の世界
アート・マネジメント
環境音楽デザイン
舞台製作ワークショップ
身体表現ワークショップ1・2
映像音楽制作ワークショップ
楽器制作ワークショップ
音響機器ワークショップ
録音技術ワークショップ
アナウンス・朗読
ミュージカル・ナンバーを歌う
日本歌曲・童謡を歌う
作曲をしようA・B
ポップスを奏しよう
バンドを奏しよう
アンサンブルを奏しよう

コンピュータ音楽制作2
アニメ・ゲーム音楽制作

6群 専門を深める

D 1 2 3 4 5 6

アカデミック・スキルを身に付ける

基礎学習

応用演習

海外音楽研修

専門ゼミⅠ・Ⅱ

学外公開発表Ⅰ

①作曲・編曲、②ミュージアム音楽、③ヴォーカル・コミュニケーション、
④音楽コミュニケーション、⑤音環境デザイン、音のユニバーサルデザイン、
⑥メディアテクノロジー、⑦ジャーナリズムの分野で研究業績を深める。

専門ゼミⅢ・Ⅳ

学外公開発表Ⅱ

7群 専門を極める

修得した技術を用いて、音楽創造作品や演
奏表現によって伝えたいことを表現できる。

D 1 2 3 4 5 6

卒業プロジェクト

卒業に必要な単位数

音楽芸術学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Bのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2017年度以降入学者						
科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	CLACコア	キリスト教科目	2		「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
			2		「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ※選択必修	なし
		上記以外	4			なし
	語学	8		英語科目2単位必修	32	
学科専門	選択必修	1群	4	かつ 合計 34単位 以上	4単位以上	なし
		2群	2		2単位以上	なし
		3群	1			なし
		4群	2		2単位以上	なし
		5群	2		2単位以上	なし
		6群	4		「専門ゼミⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各1]	
	卒業プロジェクト		6			
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ		68	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	
他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門 科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの				
合 計			124			

【表B】2016年度以前入学者							
科目区分		科目群		単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数	
全学 共通	基礎教養				2	「キリスト教Ⅰ」[2] ※必修	
	総合課題				2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ※選択必修	なし
	語学				8		32
学科 専門	選択必修	1群	4	かつ 合計 34単位 以上	4単位以上	なし	
		2群	2		2単位以上	なし	
		3群	一			なし	
		4群	2		2単位以上	なし	
		5群	2		2単位以上	なし	
		6群	4		「専門ゼミⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各1]		
	卒業プロジェクト				6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ				72	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など					他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門 科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合 計					124		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）
- ・3年次編入学者の「卒業に必要な単位数」は以下を参照してください。

3年次編入学者の卒業に必要な単位数

3年次編入学者は、編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得することが卒業の条件となります。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に記載されています。

科目区分	科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」[各2] *選択必修	なし
	総合課題			
	語学	—		32
学科専門	選択必修	1群	—	なし
		2群	—	なし
		3群	—	なし
		4群	—	なし
		5群	—	なし
		6群	4「専門ゼミⅠ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅳ」[各1]	
	卒業プロジェクト	6		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	48	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、音楽芸術学科専門 科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
	合 計	62		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です。（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）
- ・（「キリスト教Ⅰ～Ⅳ」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。（p.57「キリスト教関連科目」参照）

カリキュラムの説明

音楽芸術学科が目指すこと

2005年に創設された音楽芸術学科は、多様化する21世紀のニーズに合わせ「社会とつながる」視点で音楽を学び実践し、これを広く文化や社会の文脈で捉えながら研究をする学科です。そして、現代社会における様々な音楽シーンで活躍できる人材の育成を目指しています。

音楽芸術学科に学ぶ学生は、1) 新時代の音楽文化を切り拓く表現者、2) 音楽文化を支える企業人、3) 音楽愛好者の裾野を広げる音楽指導者など、各人の将来像を描きつつ、幅広い選択肢の中から3年次以降に所属するゼミを見据え、その基礎となる科目を選択していきます。

カリキュラムの構成及び特徴

音楽芸術学科は多様な分野に対応して2年次から学科特有の科目を多く準備しています。それらは3年次から始まる専門ゼミの準備科目として学生が選択できるようにもなっています。そしてカリキュラム全体は学習分野に応じて7つのグループ（群）に分かれています。

第1群「ミュージシャンシップを養う」

音楽を学ぶ上で不可欠な基礎理論・基礎実技を学びます。

第2群「キリスト教音楽を体験する」

本学建学の理念であるキリスト教についての理解を、音楽を通して深めます。

第3群「ミュージシャンシップを高める」

第1群で養った音楽性をさらにスキルアップ。音楽家としてより高度な実践と応用の技術を身につけます。

第4群「音楽の背景を探る」

音楽の背景を、歴史・理論などの観点から深く学ぶための科目です。

第5群「社会実践コミュニケーション」

キャリア設計を視野に入れた、現代的な内容の多彩な科目から構成されます。

第6群「専門を深める」

「基礎演習」から「応用演習」を経て「専門ゼミⅠ～Ⅳ」へとつながります。1, 2年次で自分の興味を絞ってゆき3, 4年次で所属ゼミへと進みます。

第7群「専門を極める」

卒業プロジェクトを仕上げます。卒業プロジェクトには「卒業論文」または「卒業制作及び副論文」の2タイプがあります。どちらの形で発表することにしても、専門ゼミでの学びと連動して自分のプロジェクトを完成させていきます。

4年間の履修の指針

自由度の高いカリキュラムが学科の特徴なので、そのメリットを生かすように履修計画を立ててください。1年次では1群の科目を中心に音楽的基礎力をまず身につけ、2年次では3～5群を中心に、幅広い分野の専門科目を履修しましょう。将来入りたいと思っているゼミに関連した科目にチャレンジしてみるのもよいでしょう。そのほか1～2年次では、フェリスでの学びの基礎とも言えるキリスト教科目や語学科目を履修します。「語学」の中でも、特に英語は将来どのような分野でも不可欠であり、英語教育に優れている本学で英語を学べることは、大きなメリットです。さらに共通科目「CLA コア科目／基礎教養・総合課題科目群」には、「情報リテラシー」や「キャリア・デザイン」「女性学」に関する科目があり、これらを通して就職時にも役立つ知識を得ることができます。また、他学部への授業が少なからず音楽学部にも開放されており、それらを履修することもできます。こうした他学部との接点を持っていることも、「音楽大学」とは違う、総

合大学としてのフェリスの強みといえるでしょう。

3～4年次は学生それぞれが希望する専門ゼミに所属し、1～2年次に培った専門性をさらに深めます。音楽芸術学科の専門ゼミは、7つの多様な分野で構成されており、音楽理論を学んで創作にチャレンジする「作曲・編曲ゼミ」、声によるコミュニケーションの可能性を探索する「ヴォーカル・コミュニケーション・ゼミ」、音楽の情報発信に必要な実践的能力を高める「音楽ジャーナリズム・ゼミ」、実際の作品制作を通じて映像と音楽の組み合わせの可能性について学ぶ「映像と音楽による表現ゼミ」、ポピュラー音楽を理論と実践の双方から学ぶ「ポピュラー音楽・ゼミ」、様々な活動をととしてコンサートマネージメントを実践的に学ぶ「共演コミュニケーション・ゼミ」、新しいメディア・テクノロジーの可能性を探索する「音とメディアテクノロジー・ゼミ」の中から選択します。

卒業に必要な124単位を大学に在籍する4年の間にバランスよく振り分けるように履修計画を立てて下さい。また、入学したばかりで専門ゼミの分野がよくわからないという人は1～2年次に多様な科目にチャレンジして自分の専門分野を探してみてください。選り好みをせずチャレンジしてみると意外と自分では気づかなかった得意分野が見つかるかもしれません。心を自由にして挑戦してみてください。もちろん心に決めたゼミがあってその分野の周辺科目を極める、というのも悪くはありません。そして何よりも大切なのは4年間という時間を無駄にせず、貪欲に勉強することです。

未来は自分の中にあります。チャレンジャーとして「音楽で社会とつながる」にはどうすればいいのか、また大学で音楽を学ぶことの意味は何なのかを考えつつ、楽しく一生懸命勉強してください。音楽を学ぶことで得る様々な技術や能力は、みなさんが思っている以上の力となり、将来様々な場面で発揮されることになるでしょう。

履修の進め方

専門科目の履修

1. 「基礎演習」「応用演習」

「基礎演習」は1年次、「応用演習」は2年次に全員が履修する科目です。

履修する学期については、学科が決定します。原則として変更は認められません。

「基礎演習」「応用演習」の成績評価が不合格となった学生は、翌年度に再履修することになります。各自、学期始めの履修相談で学科教務委員の指示を受けてください。

2. 「専門ゼミⅠ～Ⅳ」について

(1) 「専門ゼミⅠ・Ⅱ」：3年次に履修

① 選考：所属ゼミは学生の希望に基づき、学科が選考、決定します。選考の詳細は2年次後期開始後に発表します。

② 再履修：「専門ゼミⅠ・Ⅱ」の成績評価が不合格となった学生は、4年次に「専門ゼミⅢ・Ⅳ」と並行して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(2) 「専門ゼミⅢ・Ⅳ」：4年次に履修

① 所属ゼミは原則として3年次の「専門ゼミⅠ・Ⅱ」と同一担当者とし、その担当者のもとで卒業プロジェクトのための指導を受けることとします。

② 再履修：「専門ゼミⅢ」の成績評価が不合格となった学生は、後期に「専門ゼミⅣ」と重複して履修することが認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

(3) 留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、規定された履修年次・学期に「専門ゼミ」を履修することができない学生については、3年次履修分の「専門ゼミ」と4年次履修分の「専門ゼミ」を並行して履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

3. 海外・学外における演奏活動に対して単位が与えられる授業科目

海外・学外における演奏活動、論文や作品の発表、音楽療法、演奏会等の企画・制作・運営等の実習に対して単位が与えられる科目は次のとおりです。

履修する学生はシラバスを参照の上、手続を行うこと。

授業科目名	内 容	履修年次
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会、公開レッスン参加等	2～4年次生
「学外公開発表Ⅰ・Ⅱ」	学外におけるプロジェクト（作品・論文・演奏）の発表	3・4年次生

4. 卒業プロジェクト

卒業プロジェクトは、4年次に提出することとします。卒業論文等の題目提出時に、卒業論文もしくは卒業制作のうちいずれか一方を選択しなければなりません。また、原則として題目提出後の変更は認められません。卒業論文および卒業制作として認められるものには、それぞれ必要となる要件が定められています。要件などの詳細に関しては、掲示等に留意してください。

なお、「卒業プロジェクト」（通年科目）の履修登録は大学が行います。提出方法等については、pp.37～38を参照してください。

演奏学科

人材養成目的、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー

◆人材養成目的

西洋伝統音楽の型を学び、その本質と文化的・歴史的な背景に対する理解を深め、確かな演奏技術と豊かな表現力を修得させ、その過程で養われる人間力によって、広く社会に貢献する実践的な人材を養成する。

◆ディプロマ・ポリシー

学科の教育課程で定める授業科目を履修し、基準となる単位数を取得し、演奏学科の人材養成目的を踏まえた以下の知識・能力・技能を身に付けた者に「学士（音楽）」の学位を授与する。

- (1) 幅広い教養と音楽の本質と文化的・歴史的な背景に関する専門知識と、演奏技術、表現力が身に付いている。
- (2) 国際化の時代に必要となる英語およびその他の諸言語の運用能力が身に付いている。
- (3) 芸術作品と向き合い、そこに込められた意図を正しく読み取り、解釈することができる。また作品解釈を演奏表現する過程の経験において、演奏における課題の発見と、それを解決する表現能力が身に付いている。
- (4) 演奏活動を通して、他者・社会とコミュニケーションできる能力が身に付いている。
- (5) 学内・学外における様々な作品の発表及び演奏活動を通して、他者と協働・共生することができる能力が身に付いている。
- (6) 芸術作品及び演奏技術を多面的に学び、創造力を醸成することにより、新しい価値を見出すことができる。

◆カリキュラム・ポリシー

演奏学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた知識・技能などを修得させるために、次のような方針でカリキュラムを編成している。

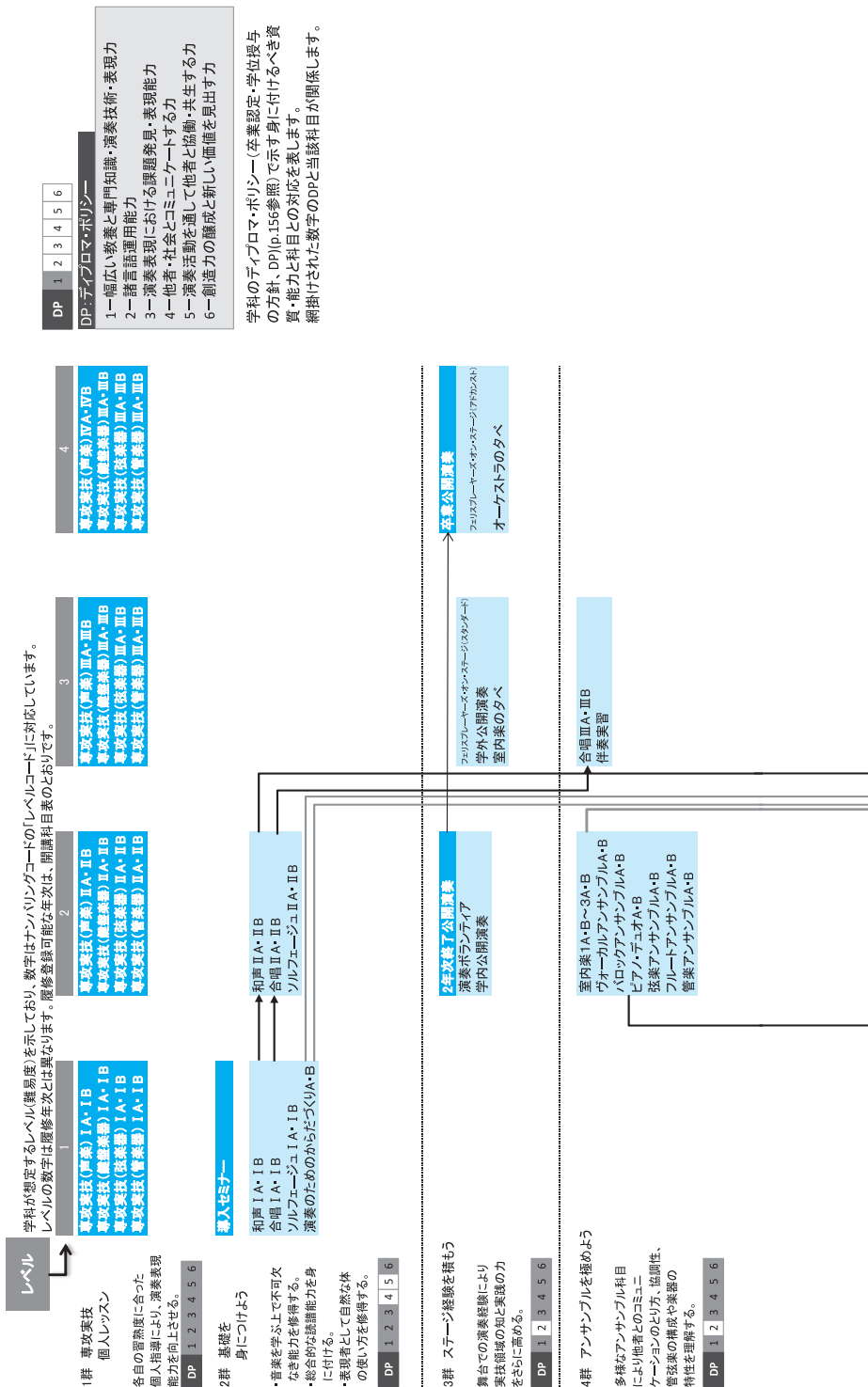
- (1) 全学共通の教養教育における多彩な科目を通して、幅広い教養を身に付ける。また、専門教育については、4年間を通じて週1回の専攻実技レッスンを中心として構成しており、レッスンと補完しあう科目として、まず初年次には演奏学科での学びの方向性を示す「導入セミナー」をはじめとする科目群「基礎を身に付けよう」が置かれ、続いて「ステージ経験を積もう」「アンサンブルを極めよう」「レパートリーを築こう」「知識を深めよう」「教える技術を身につけよう」「PA科目（表現の幅を拡げよう）」の各科目群が設置されている。各科目群から選択して学ぶシステムの採用により、過不足のない専門知識の修得を図るとともに、演奏技術や表現力を身に付けることが容易になる。また、自由選択科目として他学部・他学科科目を広く履修することもできる。
- (2) 英語を中心とした外国語運用能力は音楽作品を研究する際に必須であり、国際的な演奏表現の場における共演を実現可能にするための重要な能力である。そのため、全学共通の英語、初習外国語（フランス語、ドイツ語、スペイン語、中国語、朝鮮語）科目およびイタリア語により、基本的な言語運用能力を身に付けさせる。その際、学生は3つの語学コース（スタンダード・コース、英語インテンシブ・コース、初習外国語インテンシブ・コース）から選択することができる。
- (3) すべての学科生が4年間を通じて受ける週1回の専攻実技レッスンや小編成のアンサンブルの授業科目等により、課題発見・解決能力の向上を図る。

- (4) 学内・学外での数多くの演奏・ステージ経験を積むことにより、音楽を通じて社会とコミュニケーションし、よりよい社会の創造に貢献する。
- (5) 複数の教員による多面的な指導を通して幅広い視野をもつことや、アンサンブルの授業によるさまざまな楽器との共演において協調性を身に付けることにより、他者との協働・共生能力の向上を図る。
- (6) 実技能力向上のための努力の過程を通して、学習前とは違う視点および価値観によって自らの演奏表現、作品解釈を俯瞰し、芸術的な創造の意識を得ることができる。新たな価値を産み出すことができるよう、4年間の一貫した専攻実技レッスン科目を置く。その一方で新たな視角での気づきを得るために、多面的な指導を可能とする複数教員による実技指導ができる科目編成とする。

各授業のシラバスには、受講生に求める課題や学習内容を記載するとともに、評価方法・評価基準についても明記している。また、成績評価については、厳正な評価を行うことを目的としてガイドラインを設けている。

なお、本学では、全学部を対象とした学修行動調査や授業アンケートなどを実施することにより、本学の教育の現状を定量的・定性的に把握し、学修の成果を測定する。

演奏学科 カリキュラムマップ



5群 レパートリーを築こう
時代や分野等、様々な角度から分類されるレパートリー科目により、自分の埋野を拓げ、様々な時代の楽曲を演奏する能力を身につける。

DP 1 2 3 4 5 6

6群 知識を深めよう
音楽のルーツをとり環路を深めるとともに、作品に込められた意図を正しく理解するために必要な理論や知識を修得する。

DP 1 2 3 4 5 6

7群 教える技術を身につけよう
音楽の学びを体系的に考え、客観的に捉えることで、将来教える立場に立った時に必要となる知識、技術を身につける。

DP 1 2 3 4 5 6

8群 PA科目
表現の幅を広げよう
専攻以外の実技を学び、より豊かな表現力を養うことを目指す。

DP 1 2 3 4 5 6

ピアノレパートリーA・B
声楽レパートリー1A・B
声楽レパートリー1A・1B～2A・2B
弦楽レパートリーA・B
管楽レパートリーA・B
パロツク指導音楽レパートリーA・B
キリスト教オルガン音楽実践A・B

演奏アドヴァンストIIA・IIB

演奏アドヴァンストIA・IB

教員教授特別講義
オペラ演習A・B
オラトリオ演習A・B

組民様の音楽A・B
キリスト教音楽理論1
現代音楽レパートリー
演奏スペシャル講義1A・B
演奏スペシャル講義2A・B

キリスト教音楽理論2
対位法A・B
楽曲分析A・B
共演芸術A・B
キリスト教オルガン音楽研究A・B
アーティストのための身体表現A・B

国内音楽研修
海外音楽研修

作曲法
キーボードハーモニーA・B
邦楽1・2
伴奏法A・B

ピアノ指導ワークショップA・B
幼児リトミック指導ワークショップA・B
コースリーダーワークショップA・B
指揮法A・B
編曲のテクニク

PA副科目 人実技A・B

PA第2専攻個人実技A・B
PA教職副科個人実技A・B

PA副科グループ実技(ハルエ)A・B

PA第2専攻グループ実技(ハルエ基礎)A・B

PA第2専攻グループ実技(ハルエ応用)A・B

卒業に必要な単位数

演奏学科では、以下の表の「科目区分」ごとの科目の単位を修得し、それぞれの「単位数」を満たすことが、卒業の条件です。入学年度によってカリキュラムは異なりますので、表A～Bのうち自分が該当する1つの表だけを確認してください。

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に掲載されています。

【表A】2017年度以降入学者						
科目区分		科目群	単位数		「該当科目名」〔単位数〕 その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	CLACOA	キリスト教科目	2		「キリスト教Ⅰ」〔2〕※必修	
			2		「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」〔各2〕※選択必修	なし
		上記以外	4			なし
	語学		8		英語科目2単位必修	32
学科専門	必修			1	「導入セミナー」〔1〕	
				2	「2年次修了公開演奏」〔2〕	
				4	「卒業公開演奏」〔4〕	
	選択必修	1群	24	合計 39		なし
		2群	6		「導入セミナー」を除く2群科目から6単位以上	なし
		3群	1		「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く3群科目から1単位以上	なし
		4群	2			なし
		5群	2			なし
		6群	2			なし
		7群	2			なし
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	62		「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、演奏学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの				
合 計			124			

【表B】2016年度以前入学者						
科目区分		科目群		単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（＊：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学共通	基礎教養			2	「キリスト教Ⅰ」[2] ＊必修	
	総合課題			2	「キリスト教Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2] ＊選択必修	なし
	語学			8		32
学科専門	必修			1	「導入セミナー」[1]	
				2	「2年次修了公開演奏」[2]	
				4	「卒業公開演奏」[4]	
	選択必修	1群	24	合計 39		なし
		2群	6		「導入セミナー」を除く2群科目から6単位以上	なし
		3群	1		「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く3群科目から1単位以上	なし
		4群	2			なし
		5群	2			なし
		6群	2			なし
		7群	2			なし
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ			66	※教育原理、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など				他学科の開放科目のほか、共通科目、演奏学科専門科目のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
合 計				124		

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です（p.19「履修登録できる単位数の上限（CAP制）」参照）。
- ・外国人留学生は、この表（A～B）にかかわらず、「日本語科目」及び「日本事情に関する科目」について必修科目が定められています（p.84「外国人留学生の履修」参照）
- ・2年次編入学者、3年次編入学者の「卒業に必要な単位数」は p.162を参照してください。

編入学者の卒業に必要な単位数

編入学者の卒業の条件は、次のとおりです。編入学年または入学年度によって条件が異なりますので、自分が該当する1つの表だけを確認してください。

2年次編入学学生	編入学後3年の間に以下の表に定める科目・単位を含む94単位を修得すること
3年次編入学学生	編入学後2年の間に以下の表に定める科目・単位を含む62単位を修得すること

科目区分ごとの全ての科目は「学生要覧別冊 開講科目表」に記載されています。

2年次編入学学生						
科目区分		科目群	単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考〈*：種別〉	卒業要件算入 の上限単位数	
全学共通	C L A コア	キリスト教科目	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2]	なし	
		上記以外	2			
	語学		6		32	
学科専門	必修		2	「2年次修了公開演奏」[2]		
			4	「卒業公開演奏」[4]		
	選択必修	1群	18	合計 33	「専攻実技科目」から18単位： 「専攻実技Ⅱ A、Ⅱ B、Ⅲ A、Ⅲ B、Ⅳ A、Ⅳ B」[各3]	なし
		2群	6		「導入セミナー」を除く2群科目から6単位以上	なし
		3群	1		「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」を除く3群科目 から1単位以上	なし
		4群	2			なし
		5群	2			なし
		6群	2			なし
		7群	2			なし
	その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	43		「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、演奏学科専門科目 のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの				
合 計			94			

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です。(p.19「履修登録できる単位数の上限 (CAP 制)」参照)

3年次編入学者				
科目区分		単位数	「該当科目名」[単位数] その他備考（※：種別）	卒業要件算入 の上限単位数
全学 共通	基礎教養	4	「キリスト教Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」[各2]	なし
	総合課題			
	語学	—		32
学科 専門	選択必修	12	「専攻実技科目」から12単位： 「専攻実技Ⅲ A、Ⅲ B、Ⅳ A、Ⅳ B」[各3]	なし
	卒業公開演奏	4		
その他	教職に関する科目 選択必修Ⅱ	42	「※教育原理」、「※教育思想」 「※教育社会学」、「※教育心理学」	8
	他学科専門科目など		他学科の開放科目のほか、共通科目、演奏学科専門科目 のうち、上記区分ごとの必要数以上に修得したもの	
	合 計		62	

〈履修関連事項〉

- ・学期ごとの履修登録上限は24単位です。(p.19「履修登録できる単位数の上限 (CAP 制)」参照)
- ・(「キリスト教Ⅰ～Ⅳ」に代えて「キリスト教関連科目」を履修することが認められます。(p.57「キリスト教関連科目」参照)

カリキュラムの説明

演奏学科がめざすこと

数ある学問の中で、芸術は特殊な位置づけと役割を持ちます。特に演奏は、行為と同時に音が消えてしまう「再現芸術」です。なぜこのような、一見すると実生活では何の役にも立たないようなことを、わざわざ時間をかけて学ぶ必要があるのでしょうか。

人は芸術がなくても最低限の生活を営むことができます。しかし、人間が自己の利益を追求するだけでなく、他者への思いやりで満ちた潤いのある社会を構成するためには、自らの精神に常に豊かな栄養を与え、他者と高次元でコミュニケーションできてこそ、真の人間らしさや生きがいを持つこともできるのです。

古今の名作曲家たちが残してくれた楽譜を通して全人類の財産ともいえる芸術作品と向き合い、そこに込められた意図を正しく読み取るためには、幅広い教養や豊かな想像力が必要であり、また、解釈したことをイメージ通りの音楽にするには、高度な演奏技術や創造力が不可欠です。このような修業は4年では全く足りないのですが、4年間のなかで、演奏を意識的に、かつ集中して学ぶことにより、まずは自己を高めていくための方法を見つけていきましょう。将来的にも自分に栄養を与え続け、学びの成果を活かした社会貢献を実現する人に成長してほしいというのが、演奏学科の願いです。

カリキュラムの特徴および構成

演奏学科のカリキュラムは、まず1・2年次で基礎を学び、3・4年次ではその学びを応用しつつ、さらに学習を発展させることができるように組まれています。また、カリキュラムの全体を見通せるよう、内容と目的に即した8つの群に分けられています。

第1群 専攻実技個人レッスンは、演奏学科生が1年次前期から4年次後期までの4年間をととして履修する科目です。それぞれの担当教員が、学生のレベルに合った個人指導を行います。各学期末に行われる実技試験では、複数の学科教員から演奏についてのコメントや学習へのアドバイスを受け取ることができます。試験の課題についても、各自の成長段階に応じた曲が選べるように配慮されています。

第2群 基礎を身につけようでは、演奏に必要な不可欠な基礎能力の習得を目指します。1年次の前期に行われる「導入セミナー」では、図書館や情報センターの利用方法を始め、楽器との付き合い方、楽譜の読み方、身に着けるべきステージマナー等、本学科での学びの方向性を一望することができます。「和声」と「ソルフェージュ」は、一言でいえば音楽家の耳を鍛える科目です。ソルフェージュではプレイスメントテストによる能力別で、少人数クラスに分かれて授業が行われます。意識して訓練することによって、音楽的能力を上げていきましょう。「演奏のためのからだづくり」では、演奏する際に心身をリラックスさせておけるよう、脱力のテクニックや呼吸法を身につけます。「合唱」はアンサンブルの基礎中の基礎です。

第3群 ステージ経験を積もうでは、必修科目の公開演奏と自由参加の演奏会があります。「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」は必修科目の公開演奏で、各学期の実技試験期間に行います。「2年次修了公開演奏」は中間地点での学修成果、4年間の学習の総括として「卒業公開演奏」を行います。必修科目の他にも、実技試験で良い成績を修めたり、各種オーディションに合格することで、さまざまなステージの経験を積む機会が広がります。本番での経験は、そのチャンスを得るべく努力することを含めて、上達へのジャンプ台のようなものです。ぜひ最大限に利用してください。

第4群 アンサンブルを極めようでは、専攻と目的に応じて参加できる小編成アンサンブル科目が複数設けられています。他者と息を合わせて何かを成し遂げる作業は、自分の出している音や音楽の表情を客観的に聴く能力の向上に非常に役立つものであり、演奏の醍醐味を味わうための早道であると同時に、フェリスの教育理念である共生の意識を体現・体感できる大切な機会です。

第5群 レパートリーを築こうでは、自分の視野とレパートリーを拡げ、様々な時代の楽曲に接することができるよう、声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロック鍵盤音楽の各レパートリー、「オペラ演習」「オラトリオ演習」「キリスト教オルガン音楽実践」が開講されており、専攻楽器（声楽・ピアノ・弦楽・管楽・バロ

ク鍵盤音楽)、時代や種目等、様々な角度から分類されています。また、試験にて特に優れた成績を修めた学生に対しては、演奏能力をさらに高めるために、希望する複数の教員から特別個人レッスンを受けることができる「演奏アドヴァンスト」があります。第5群までは、実践・演習中心の科目群で構成されています。

第6群 **知識を深めよう**群では、理論や知識の修得を目指します。重要な科目が網羅されていますが、中でも「キリスト教音楽概論」「キリスト教オルガン音楽研究」は、ヨーロッパの音楽のルーツを知り、理解を深める科目であり、フェリスの特質をいかに発揮できる科目と言えます。

第7群 **教える技術を身につけよう**では、学ぶ立場から、教える立場へ移行した時に必要となる知識や技術を身につけるための授業が用意されています。教える仕事を選択しない場合でも、すべての演奏家は自分自身の最良のコーチとなる必要があります。音楽の学びを体系的に考えてみることで、客観的な切り口から音楽の学びをとらえることとなり、結果として自身の演奏の上達に繋がります。

第8群 **PA科目**では、専攻外の多岐にわたる楽器を副科として、個人、またはグループサイズで学ぶことができます。ただし、8群の科目はすべて実技料が別途発生します。

4年間の履修の指針

緑園校舎で過ごす1・2年次では、カリキュラムに沿って音楽的な基礎能力を高めましょう。演奏学科の専門科目はレベル別ではなく、科目の性質別に群分けがされています。第2群 基礎を身につけようから履修する6単位は、この2年間のうちに修得することが望ましいです。第3～7群からは、専攻楽器や各自の目的に合わせて、1・2年次はレベル1～2、3・4年次はレベル3～4の科目を中心に履修してください。なお、3年次以上の学年を対象とした専門科目は、基本的に山手で展開されています。校舎の移動が負担にならないように、緑園で開講されるキリスト教科目、語学、専門科目、教職科目（希望者）等の履修については、1年次から履修計画を立てておくことをお勧めします。

また、総合大学で学べることの利点を生かして、学修の興味の対象を広げましょう。社会人として身につけておきたい基礎教養・総合課題科目、他学部・他学科が開放している多様な科目を、自身のニーズに合わせて履修することができます。語学の学びが大層充実していることも本学の特徴です。言語には、その言葉を使う人々の歴史が凝縮されています。外国語を深く学ぶことは、留学や遊学に役立つだけでなく、他者への理解を深めること、つまり、音楽家としては作曲家との距離を縮めることに繋がります。

在学期間の後半である3年次から4年次にかけては、有無を言わず人生設計の判断を迫られます。入学当初から心置きなく時間をかけて学修に励み、健全な精神と判断力、そして十分な体力を養ってください。

履修の進め方

専門科目の履修

1. 実技レッスンについて

音楽学部演奏学科で開講されている実技レッスン科目は以下のとおりです。

(1) 必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
専攻実技Ⅰ A～Ⅳ B	45分×15回※	なし	申込時期：履修登録期間 各自 FerrisPassport で履修登録。

※ 授業回数15回の中に、実技試験も含まれます。

再履修の方法について

「専攻実技Ⅰ A～Ⅳ B」の成績評価が不合格となった学生は、再履修が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。

なお、再履修料として1科目につき100,000円を納入しなければなりません。

留学等の理由による規定学期以外の履修

交換留学、認定留学及び学生交流により、「専攻実技」を規定された履修年次・学期に履修することができない学生については、1学期に複数の「専攻実技」を並行履修すること等が認められます。該当者は学科教務委員の指示を受けてください。なお、交換・認定留学の学期には卒業できません。

(2) 選択必修

科目名	時間数	実技料	履修手続
演奏アドヴァンストⅠ A,B	15分×15回※	なし	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。
演奏アドヴァンストⅡ A,B	15分×15回※	なし	履修登録は大学が行います。

(3) 選択

科目名	時間数	実技料	履修手続
PA 初習副科個人実技 A, B	15分×15回	50,000円	申込時期：(前期)履修登録期間 (後期)履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
PA 副科個人実技 A, B	30分×15回	100,000円	申込時期：履修学期の前学期 受付場所：音楽学部共同研究室 詳細は掲示を確認してください。
PA 教職副科個人実技 A, B	15分×15回	50,000円	履修登録は大学が行います。
PA 第2専攻個人実技 A,B	45分×15回※	150,000円	申込時期：2年次後期 後期実技試験期間にオーディションを実施。詳細は掲示を確認してください。 履修登録は大学が行います。
PA 副科グループ実技 A,B(バレエ)	90分×15回	30,000円	申込時期：履修学期の前学期 ※新入生を除く
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ基礎)A,B	90分×30回	60,000円	詳細は掲示を確認してください。
PA 第2専攻グループ実技 (バレエ応用)A,B	90分×45回	90,000円	履修登録は大学が行います。

実技レッスンの出欠席について

① レッスン受講時

「レッスン受講票」の学生サイン欄には、必ず毎回のレッスン受講ごとに日付を確認してサインを記入してください。

② レッスンをやむを得ず欠席する場合

必ず事前にレッスンの開講されている校舎の音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に連絡し、同時に担当教員にも連絡してください。

③ レッスンの休講

FerrisPassport に掲示されます。直接担当教員から連絡を受けた場合は、休講掲示を確認し、掲示がない場合は音楽学部共同研究室（山手8号館）、音楽学部副手室（緑園5号館）又は教務課で確認してください。

2. 「導入セミナー」

1年次前期に全員が履修する必修科目です。

「導入セミナー」の成績評価が不合格となった場合は、翌年度の前期に再履修することになります。

3. 「2年次修了公開演奏」

2年次後期に全員が履修する必修科目です。

(1) 実施期間

後期の実技試験期間中に公開演奏会として行います。日程等詳細は掲示により通知します。

(2) 注意事項

- ・「実技試験受験上の注意」に準じます。(p.168「実技試験」参照)
- ・履修登録は大学が行います。

(3) 再履修

修得できなかった場合には、再履修の方法について、学科教務委員の指示を受けてください。

4. ステージ経験を積もう

「ステージ経験を積もう」の科目は以下のとおりです。履修する学生はシラバスを参照の上、手続きを行ってください。

科目名	単位	対 象	履修年次
「室内楽のタベ」	2	オーディションで選抜された者※	34
「オーケストラ協演のタベ」	3	オーディションで選抜された者※	4
「学内公開演奏」	1	履修希望者	234
「学外公開演奏」	1	履修希望者	34
「演奏ボランティア」	1	履修希望者	234
「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [スタンダード]」	2	「演奏アドヴァンスト I A,B」「演奏アドヴァンスト II A,B」履修者のうち、学科で定める条件を満たした者	34
「フェリスプレーヤーズ・オン・ステージ [アドヴァンスト]」	3		4

※オーディションの詳細は要項（音楽学部共同研究室備付）を参照してください。

5. 「伴奏実習」

声楽・器楽の専攻実技レッスン（専攻実技 IA～IV B）に通算14回伴奏者として同伴し、学期末の専攻実技試験またはオーディションでの伴奏において評価を受ける科目です。具体的な伴奏の進め方、履修方法についてはシラバスの指示に従うこと。

6. 学外での研修の成果に対して単位が与えられる授業科目

国内・海外の音楽コンクールや音楽講習会等の研修の場への参加およびその成果を、単位として認定するものです。履修を希望する学生はシラバスを参照のうえ、必要な手続を行ってください。

科目名	内 容	履修年次
「国内音楽研修」	国内における音楽コンクールや講習会への参加	1234
「海外音楽研修」	海外における音楽コンクールや講習会への参加	1234

7. 専攻楽器等変更について

専攻楽器等の変更を希望する場合は、「演奏学科専攻楽器等変更願」（教務課備付）をもって、所定の期日までに願い出なければなりません。学科の判断により、変更が認められることがあります。ただし、願い出が可能な対象は次のとおりです。

選択楽器等	願い出提出時
ヴァイオリン→ヴィオラ ヴィオラ →ヴァイオリン	原則として1年次生または2年次生に限る
その他の選択楽器等変更	原則として2年次生に限る

→スケジュール、手続窓口はp.5

8. 「卒業公開演奏」

(1) 履修登録

「卒業公開演奏」は、通年科目です。履修登録は大学が行います。

(2) 実施形態

卒業公開演奏は、「卒業試験公開演奏会」として行います。

(3) 注意事項

卒業公開演奏に関する諸事項は、「実技試験受験上の注意」に準じます（p.168「実技試験」参照）。ただし、担当教員が認めた場合、副手を伴奏者とすることができます。

→スケジュール、手続窓口はp.5

→日程については学事日程(pp.1～3)

(4) 2018年度9月卒業を希望する者の「卒業公開演奏」は前期実技試験期間中に行います。

→スケジュール、手続窓口はp.5

→日程については学事日程(pp.1～3)

実技試験等

1. 実技試験

実技試験の課題曲発表、試験順番発表等は掲示により行います。

(1) 実技試験該当科目

実技試験期間中に学期末試験を行う科目は、以下のとおりです。

科 目 名
専攻実技Ⅰ A・B、Ⅱ A、Ⅲ A・B、Ⅳ A 2年次修了公開演奏、卒業公開演奏 副科声楽クラス A,B 演奏アドヴァンストⅠ A,B、演奏アドヴァンストⅡ A,B PA 第2専攻個人実技 A,B

(2) 実技試験に関わる手続き

実技試験実施までに①から⑥の手順を経ること。これらの日程は、前期5月下旬・後期11月下旬に掲示により通知します。

- ① 実技試験課題曲発表
- ② 「曲目提出届」用紙配布
- ③ 実技試験時間割発表
- ④ 実技試験演奏順番発表
- ⑤ 「実技試験曲目提出届」の提出（提出方法、提出先は掲示により確認すること）
- ⑥ 実技試験実施

→日程については学事日程(pp.1～3)

(3) 演奏曲目提出

① 実技試験の演奏曲目

「実技試験曲目提出届」（以下「曲目提出届」）に記入の上、「レッスン受講票」とともに担当教員のサインを受け、必ず指定された期日までに提出すること。

なお、「専攻実技Ⅱ B」「専攻実技Ⅳ B」では、レポート提出が課されます。

レポートの提出方法等については、掲示等による学科の指示に従ってください。

- ② 指定された期日までに曲目提出がなかった場合、又は記載に不備があった場合は受験を不許可とすることがあります。
- ③ 「曲目提出届」記載内容の変更
原則として認めません。

(4) 実技試験受験上の注意

① 実技試験の当日、演奏順番に遅れた場合

当日の受験は認めません。ただし、特別な事情により遅刻した者について、学科主任又は学科主任に委任された主査教員が遅刻理由を正当と認めた場合、当日の受験を許可することがあります。

- ② 追試験許可理由（p.32「追試験許可理由」参照）に準ずる理由により実技試験を欠席する場合は、必ず事前に教務課に連絡すること。
- ③ 実技試験は山手校舎で行います。
- ④ 試験時間が他の試験科目と重複している場合
事前に音楽学部副手室（緑園5号館）または音楽学部共同研究室（山手8号館）に申し出て、指示を受けること。
- ⑤ 試験において伴奏者を必要とする場合

学生が担当教員の了解の上で交渉し、決定するものとします。原則として本学学生に依頼することとしますが、事情により外部生に依頼する場合には、所定用紙（音楽学部共同研究室（山手8号館）、音楽学部副手室（緑園5号館）備付）に記入し、担当教員のサインを得た上で、「実技試験曲目提出届」

提出期限までに音楽学部共同研究室（山手8号館）に提出すること。ただし、本学教員及び副手を伴奏者とすることはできません。

やむを得ない理由により伴奏者を変更する場合は、事前に必ず書面で、音楽学部共同研究室（山手8号館）または音楽学部副手室（緑園5号館）に届け出ること。

(5) 受験保留者

レッスン回数が規定の回数を満たしていない場合、受験を保留とすることがあります。

2. 実技追試験

病気、その他やむを得ない理由により実技試験を受けられなかった学生は、追試験許可理由のいずれかに該当し、受験資格があると認められた場合に限り、願い出によって追試験を受けることができます。（実技以外の科目の追試験については、pp.31～32「追試験」参照。）

なお、提出書類は、当該科目試験日に受験できなかったことを証明するものでなければなりません。

(1) 実技追試験許可理由

p.32「追試験許可理由」①～⑧参照。

⑨ 国内外の音楽講習会への参加（当該講習会のプログラム、参加を証明する書類及び関係教員の承諾書を提出）。

(2) 受験手続

実技追試験受験を希望する場合は、次の期日までに「追試験許可願」（教務課、山手事務室備付）を記入の上、証明書類及び受験料（証紙購入）を添えて、提出しなければなりません。代理人による手続も認めるので、必ずこの期日までに手続を行ってください。この期日を過ぎた場合、一切受け付けることができません。実技追試験時間割発表日は、手続期限の翌日となります。

なお、追試験の許可が得られなかった場合や担当者が追試験を実施しないと判断した場合には、実技追試験許可者発表日以降に受験料を返還します。

受験料：1科目につき1,000円（p.32「追試験許可理由」②⑥の場合は受験料は不要です。）

(3) 追試験日程等

→スケジュール、手続窓口はp.5

① 実技科目追試験の詳細は、追試験許可者発表時に掲示します。

② 追試験の成績評価は2割減点とします。（p.32「追試験許可理由」②⑥の場合は減点はありません。）

③ 追試験の実施は、定められた期日1回限りとします。なお、4年次生後期の追試験は、1～3年次の後期実技試験期間に実施します。

→日程については学事日程(pp.1～3)

3. 実技再試験

音楽学部専門科目のうち、実技試験期間中に実施する必修・選択必修レッスン科目の試験を受けて不合格（評価「F」）とされた学生は、願い出で認められた場合に、改めて試験を受けることができます。

(1) 再試験実施要領

① 評価は「C」を超えない。

② 再試験の不合格者に対する再試験は行わない。また、再試験について追試験は行わない。

③ 追試験については、再試験を行わない。

(2) 受験手続

再試験受験資格者は、「再試験許可願」（教務課、山手事務室備付）を記入の上、受験料（証紙購入）を添えて、提出しなければなりません。実技再試験許可者発表は、手続期限の翌日となります。4年次生後期の再試験は、1～3年次の後期実技試験期間に実施します。詳細は、「実技試験に関わる日程」発表時に確認してください。

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 受験料

1科目につき3,000円です。

→日程については学事日程(pp.1～3)

単位認定・単位互換

単位の認定

本学への入学以前・入学後在籍中に他大学等で修得した単位及び「実用英語技能検定」等の技能審査に合格した場合、以下の所定の手続きにて申請されたものを、教授会で審議の上、一定の基準に基づき本学において修得した卒業に必要な単位として認定します。

認定される単位の上限

学 部 等	単 位 認 定 の 上 限
文学部・国際交流学部・音楽学部 (編入者を除く)	下記の①・②を合わせて60単位まで ①入学前：他大学等で修得した単位＋技能審査 ②入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査
2年次編入学者	編入学時の一括認定30単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査
3年次編入学者	編入学時の一括認定62単位とは別に①を30単位まで ①編入学後：他大学等で修得した単位（含む単位互換、留学）＋技能審査

なお、認定する科目区分が語学科目と教職に関する科目の場合、卒業要件として認められる単位数に次のとおり上限があることに留意してください。

語学科目：32単位

教職に関する科目：8単位

他大学等で修得した単位の認定基準

他大学等で修得した科目の内容を勘案し、これと同等とみなされる科目区分の単位として認定されます。ただし、単位認定の種類によって認定除外科目があるので、十分確認してください。

入学後に他の大学等で修得した単位の認定

1. 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり（p.178参照）
申請先	教務課
申請方法	「単位認定（技能審査等）申請書」（教務課備付）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：「合格証書」または「スコア・レコード」
注 意	① 公開テストで取得したスコアに限りです。（TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは認定対象外です。） ② 取得時期は、入学後かつ申請日からさかのぼって1年以内のものに限りです。 ③ 一度認定された言語について、あらためて同じ級（又は同レベルのスコア）を取得しても、再び認定はされません。ただし、上位の級（又は上位のスコア）を取得した場合には、すでに認定された分を除いた単位が認定されます。

→スケジュール、手続窓口はp.6

2. 海外の大学への留学等によって修得した単位の認定

(1) 交換・認定留学

認定除外科目	CLA コア科目／基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	CLA コア科目／総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必修相当としての単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」「日本語日本文学プレ専門ゼミ」の単位
	国際交流学部専門科目	「導入演習」「研究入門」「基礎演習」「専門演習」「卒業論文」「基幹科目」「所属するプログラムの推奨科目」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」の単位
インテンシブ・コース	交換・認定留学によって語学科目として単位認定された場合は、履修状況により、英語または初習インテンシブ・コースの修了要件単位としてみなすことができます。詳細は p.61「語学科目」で確認してください。 修了要件への算入は大学が行うため、別途申請の必要はありません。	
日本語教員養成講座	日本語教員養成講座受講生が、日本語教員の視点から、日本語教授法を学ぶ機会として外国人対象の日本語科目の単位を修得し、本学における専門科目として単位認定された場合は、日本語教員養成講座において修得した単位としてみなすことができます。別途申請が必要です。	
申請先	教務課	
申請方法	「単位認定申請書」（教務課備付）に必要書類＊を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 ＊必要書類等については、留学前に教務課から説明します。	
	【日本語教員養成講座としての単位認定】 上記「単位認定申請書」に加え、『日本語教員養成講座』単位認定申請書（教務課備付）の提出が必要です。提出後に日本語教員養成講座委員長と面談を行います。	

(2) セメスター・アプロード

認定内容	認定区分：語学科目（英語）※1	単位数：10単位（一括）※2
申請先	教務課	
申請方法	教務課に問い合わせてください。	

※1 履修状況により、英語インテンシブ・コース修了要件としてみなすことができます。詳細はp.61「語学科目」で確認してください。修了要件への算入は大学が行うため、別途申請の必要はありません。

※2 語学科目としての卒業要件単位数に上限があるため、単位修得状況により、単位認定される単位数が異なることがあります。（p.172「認定される単位の上限」参照）

(3) 休学をして海外の大学等で履修した場合

事前に申請のうえ履修許可を得た場合に限り、本学において修得した単位とみなすことができます。
※休学をせず、休業期間中など通常の授業期間外に海外の大学等のプログラムに参加し、単位認定を希望する場合は、p.176の「4.その他」を参照してください。

認定除外科目	CLA コア科目／基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	CLA コア科目／総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必修相当としての単位
	文学部専門科目	必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修前 「他大学等における科目等履修願」（教務課備付）に次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類：留学する予定の大学等の履修要項 留学先で履修する授業・プログラム内容を示す書類 ② 履修後 「単位認定申請書」（教務課備付）に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 *必要書類等については、留学前に教務課窓口にて説明します。	
手続期限	①	原則として履修開始の1か月前まで ※授業実施期間外（夏季・春季休業期間中など）は教務委員との面談が設定できない場合があるため、余裕をもって申請してください。
	②	履修が終了し帰国後1か月以内

3. 単位互換制度によって修得した単位の認定

次の単位互換制度により修得した単位は、本学以外で修得したその他の単位等の認定とあわせて本学において修得した卒業に必要な単位とみなすことができます。

なお、単位互換制度を利用して履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。

(1) 同志社女子大学において修得した単位の認定

国内留学協定に基づき交流学生として同志社女子大学において修得した単位は、本学において修得した単位とみなすことができます。

認定除外科目	CLA コア科目／基礎教養・総合課題科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必修相当としての単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」の単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」の単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請方法・期限	「単位認定申請書」（教務課備付）に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類：成績証明書、シラバス等授業内容を示す書類のコピー	
申請期間	教務課に問い合わせてください。	

(2) 放送大学において修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、放送大学の特別聴講学生として履修することができます。

履修可能学期	以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。 ①入学（編入学）学期 ②卒業予定学期（修業年限を満たす学期） ③休学期間 ④交換・認定留学期間
注意事項	- 卒業予定学期に、放送大学が実施する「再試験」制度を利用して合格しても、単位認定対象から除外されます。 - 申請の際、本学に納入する授業料とは別に、放送大学での授業料（1科目（2単位）：11,000円、1科目（1単位）：5,500円）が必要です。 - 協定に基づき、本制度を利用して修得できる単位数は、在籍期間を通じて30単位以内とします。
履修申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ①「放送大学科目履修・単位認定申請書」(教務課備付)を教務課に提出してください。大学側で認定科目の事前審査を行います。 ↓ ②上記①の事前審査により履修許可を受けた科目について、次の2点を教務課に提出してください。 「放送大学特別聴講学生出願票」(教務課備付) - 放送大学での授業料（1科目（2単位）：11,000円、1科目（1単位）：5,500円）

→スケジュール、手続窓口はp.5

(3) 横浜市内単位互換制度履修申請方法及び修得した単位の認定

単位互換に関する協定に基づき、横浜市内単位互換制度参加大学の「単位互換履修生」として履修することができます。

履修可能学期	以下の学期は単位認定希望の有無に関わらず、一切履修できません。 ①卒業予定学期（修業年限を満たす学期） ②休学期間 ③交換・認定留学期間
履修申請単位数の上限	協定に基づき、1年間（前期・後期合わせて）に履修申請できる単位数は8単位を上限とします。
申請	前期および通年開講科目は4月に、後期開講科目は7月にそれぞれ履修申請を受け付けます。
単位認定	教授会で審議の上、認定の可否を決定します。（単位認定についての申請は必要ありません）
単位認定区分	すべて「専門科目（選択）」として認定されます。
参加大学	神奈川大学、関東学院大学、國學院大學、鶴見大学、桐蔭横浜大学、東洋英和女学院大学、フェリス女学院大学、東京都市大学、明治学院大学、横浜国立大学、横浜商科大学、横浜国立大学

→スケジュール、手続窓口はp.6

4. その他

1～3に該当しない他大学等における科目等履修（通信教育、夏季・春季休業中の海外の大学等のプログラムへの参加等を含む）により修得した単位は、事前に申請のうえ履修許可を得た場合に限り、本学において修得した単位としてみなすことができます。

なお、この制度を利用して本学の授業期間中に履修する単位数は、各自定められた履修登録単位数の上限に含まれます。ただし、本学の休業期間中など、通常の授業期間外に履修する場合は上限に含みません。

認定除外科目	CLA コア科目／基礎教養科目	「キリスト教Ⅰ」の単位
	CLA コア科目／総合課題科目	「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」必修相当としての単位
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「卒業公開演奏」「2年次修了公開演奏」の単位
申請先	教務課	
申請方法	次の①→②の順序で手続が必要です。 ① 履修前 「他大学等での科目等履修願」（教務課備付）に次の書類を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 添付書類：履修予定の大学等の履修要項 履修する授業・プログラム内容を示す書類 ② 履修後 「単位認定申請書」（教務課備付）に必要書類*を添付して提出してください。提出後に教務委員との面談を行います。 *必要書類等については、履修前に教務課窓口にて説明します。	
手続期限	①	2018年度後期履修：6月末まで 2019年度履修：1月末まで ※期限までに必要書類が整わない場合も、期限内に必ず教務課に相談に来てください。
	②	履修終了後1か月以内

入学前に他大学等で修得した単位の認定

1年次対象

本学への入学以前に他大学等で修得した単位及び技能審査の合格について、単位認定を希望する者は、所定の手続にて申請してください。教授会で審議の上、認定の可否を決定します。

(1) 技能審査の合格による単位認定

認定基準	別表のとおり (p.178参照)
申請方法	「単位認定(技能審査等)申請書」(教務課備付)に記入し、次の書類を添付して提出してください。 添付書類:「合格証書」または「スコア・レコード」
注 意	公開テストで取得したスコアに限ります。(TOEFL-ITP 及び TOEIC-IP テストは対象外です。)

→スケジュール、手続窓口はp.6

(2) 他大学等における履修による単位認定

認定除外科目	CLA コア科目	「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」
	文学部専門科目	「卒業論文」「卒業論文・卒業制作」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	国際交流学部専門科目	「卒業論文」、必修科目及び卒業のために必要な選択必修科目分としての単位
	音楽学部専門科目	「卒業プロジェクト」「2年次修了公開演奏」「卒業公開演奏」の単位

→スケジュール、手続窓口はp.6

2年次編入・3年次編入学者対象

(1) 技能審査の合格による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の技能審査の合格による単位認定の対象外です。

(2) 他大学における履修による単位認定

2年次編入・3年次編入学者は、編入学前の修得単位は一括して認定されるので、申請の必要はありません。

キリスト教科目の単位認定

2年次編入・3年次編入学者が本学入学以前に他大学等において修得した「キリスト教」関連科目は、本学における必修相当としては認められません。「選択」相当の認定対象として扱われます。

キリスト教科目関連科目の履修

3年次編入学者は、「キリスト教Ⅰ」「キリスト教Ⅱ」「キリスト教Ⅲ」「キリスト教Ⅳ」に代えて、本学が指定する「キリスト教」関連科目を履修することが認められます (p.57参照)。

2年次編入学者にこの措置はありません。

技能審査の合格による単位認定

言語	検定等の種類		相当する単位				
			10単位	9単位	8単位	6単位	4単位
英語	実用英語技能検定（日本英語検定協会）				1級	準1級	
	TOEFL (国際教育交換協議会)	Paper-based Test			580点以上	550～579点	500～549点
		Internet-based Test			92点以上	80～91点	61～79点
	TOEIC (国際ビジネスコミュニケーション協会)				900点以上	730～899点	650～729点
フランス語	実用フランス語技能検定試験 (フランス語教育振興協会)		1級	準1級	2級	準2級	3級
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験 (ドイツ語文学振興会)		1級		準1級	2級	3級
スペイン語	スペイン語技能検定 (日本スペイン協会)		1級		2級		3級
中国語	中国語検定試験 (日本中国語検定協会)		1級		準1級	2級	3級
朝鮮語	「ハングル」能力検定試験 (ハングル能力検定協会)		1級		2級	準2級	3級

「教職課程」「日本語教員養成講座」としての単位認定

本学への入学前または入学後在籍中に他大学等で修得した単位は、教育職員免許状の取得または日本語教員養成講座の修了のための単位として認定されることがあります。この場合の単位認定については、別冊の「教職課程 日本語教員養成講座」を参照してください。

学籍

学 籍

修業年限及び在学期間

修業年限

学部教育課程修了に必要な期間のこと。休学期間を除き4年（8学期）です。

在学期間

学生として在籍できる期間のこと。休学期間を除き8年を超えることはできません。

2年次編入学者の修業年限

~~休学期間を除き3年（6学期）です。~~

在学期間は休学期間を除き6年を超えることはできません。

→大学HP 大学学則第9条・第9条の2

3年次編入学者の修業年限

~~休学期間を除き2年（4学期）です。~~

在学期間は休学期間を除き4年を超えることはできません。

休 学

病気その他やむを得ない理由により修学することができない場合は、次の期日までに「休学願」（教務課備付）の提出をもって休学を願い出ることができます。

→大学HP 大学学則第29条・第29条の2

休学期間

前期もしくは後期の1学期、または1年を区分とします。

休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、休学期間を修業年限及び在学期間に算入することはできません。

連続して休学できる期間は、1年を超えることはできません。ただし、特別の事情がある者は、学長の許可を得て、なお1年以内の休学を認められる場合があります。

進級・年次の扱い

前期または後期の1学期間のみ休学した学生は、翌年4月に1学年進級します。

1年間継続して休学した場合は、年次が原級にとどまります。

在籍料、授業料等学納金の扱い

休学者は、学期ごとに所定の在籍料を大学学則の規定に従って納入しなければなりません。

また、施設設備費については、休学中も大学学則の規定に従って納入しなければなりません。

→大学HP 大学学則第36条の4

→大学HP 大学学則第36条の2第2項

→スケジュール、手続窓口はp.6

復 学

復学の時期

届け出た休学期間を過ぎると、自動的に復学となります。

ただし、健康上の理由で休学した場合は、復学後の学生生活が支障なく再開可能かの確認を含めて、校医との面談を行います。

さらに続けて休学を希望する場合または退学を希望する場合は別途手続きが必要です。休学期間終了前に教務課に問い合わせてください。

退 学

退学を希望する場合は、次の期日までに「退学願」（教務課備付）の提出をもって願い出なければなりません。この場合、退学する日を含む学期の授業料等学納金を納入していなければ、退学は認められません。

→大学H P 大学学則第33条

→スケジュール、手続窓口はp.6

除 籍

学生が次のいずれかに該当する場合には、除籍されることがあります。

- (1) 在学期間を超えて卒業資格を得られない場合
- (2) 授業料等学納金の納入を怠った場合
- (3) 通算4年の休学期間を超えて、なお復学できない場合
- (4) 死亡した場合
- (5) 長期間にわたり行方不明の場合

なお、除籍日以降の履修・成績等はすべて無効となります。

→大学H P 大学学則第34条

留 学

交換留学又は認定留学の許可を受けた学生は、1年を限度としてその留学期間を、大学学則第9条に定める在学期間として扱います。

ただし、本学の規定の適用を受けず、休学して留学した場合はこの限りではありません。

→大学H P 大学学則第28条の2

→pp.40～46 海外短期研修・留学・国内留学

転学部・転学科

転学部・転学科を志願する場合は、次の期日までに「転学部・転学科願」（教務課備付）の提出をもって願い出なければなりません。選考の上、転学部・転学科を認めることがあります。

転学部・転学科した学生の在学期間は、転学部・転学科以前の在学期間と合わせて8年（2年次編入学生は6年、3年次編入学生は4年）を超えることはできません。

→大学HP 大学学則第31条

→大学HP 転学部・転学科内規

→スケジュール、手続窓口はp.6

再入学

本学を退学した者または除籍を受けた者が、在籍していた学科への再入学を志願する場合は、原則として退学または除籍日を含む年度の末日から2年以内に、所定の手続きによって願い出なければなりません。教授会の議を経て、再入学を許可することがあります。

なお、再入学の時期は、学年または学期の始めとします。

→大学HP 大学学則第34条の2

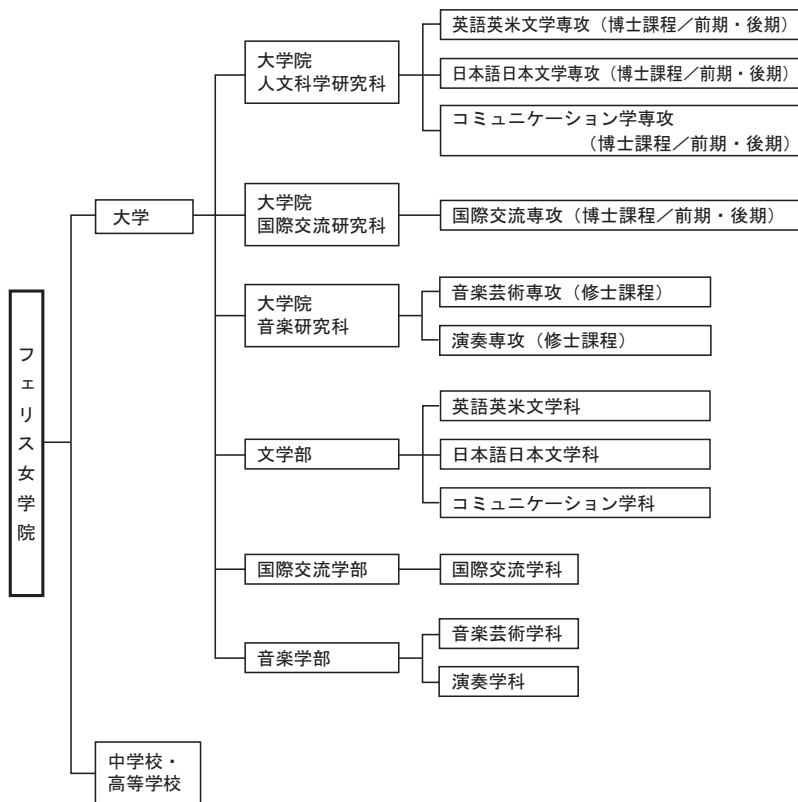
→大学HP 再入学に関する内規

【再入学願の提出期限・提出先】

前期から再入学する場合	1月末
後期から再入学する場合	7月末
提出先	教務課

資料編

組織



フェリス女学院大学の沿革

本学の源流は、1870（明治3）年に米国改革教会の宣教師、メアリー・E・キダーが始めた私塾にさかのぼります。これは、ローマ字や医療事業等で知られる長老教会宣教師ヘボン博士のクララ夫人が、1863（文久3）年に開いた家塾を引き継いだもので、キダーは1871年にこれを女子だけの学校としました。そして、1875年、山手の外国人居留地に校舎を建て、校名をフェリス・セミナリーとして寄宿学校を開校するに至りました。「フェリス」の名は、キダーを派遣し、その教育を支えた改革教会伝道局主事フェリス博士父子を記念するものです。

本学は、敬虔な人格と優れた教養によって、創造的に人類社会に貢献する女性の育成を求め続けて、今日に至っています。

- 1870（明治 3）年 メアリー・E・キダー、ヘボン施療所で授業開始。〈フェリス女学院の発祥〉
- 1875（ 8）年 山手178番に校舎落成。この頃「フェリス・セミナリー」と名づける。
- 1887（ 20）年 高等科設置。校舎拡張。
- 1889（ 22）年 校名を「フェリス和英女学校」とする。講堂「ヴァン・スカイック・ホール」完成。
- 1899（ 32）年 私立学校令により認可。特別科（高等科に替えて）設置。
- 1903（ 36）年 特別科を文学科・聖書研究科の2科（18～21歳）とする。英語師範科（16～19歳）設置。
- 1908（ 41）年 特別科を高等科（英文学部・神学部）に改める。
- 1919（大正 8）年 東京女子大学創立に協力し高等科廃止。
- 1923（ 12）年 関東大震災により校舎倒壊焼失。カイパー校長殉職。
- 1927（昭和 2）年 「専門学校入学者検定規定」による指定認可。
- 1929（ 4）年 新校舎・カイパー記念講堂竣工。
- 1930（ 5）年 高等部（英文科・家政科、17～19歳）設置。
- 1939（ 14）年 戦時下、米国伝道局経営の社団法人から日本の財団法人となる。
- 1941（ 16）年 校名を「横浜山手女学院」に変更。
- 1947（ 22）年 専門学校（旧制）3年（英文科・家政科・音楽科）設置。
- 1950（ 25）年 校名を「フェリス女学院」と改称。新学制により専門学校から短期大学（英文科・家政科）に改編。翌年に音楽科開設。
- 1965（ 40）年 大学開設。短期大学（英文科）を発展改組し、大学文学部（英文学科・国文学科）開設。
- 1970（ 45）年 学院創立100周年。
- 1988（ 63）年 短期大学（家政科）を発展改組し、文学部に国際文化学科開設。大学緑園キャンパス開設。
- 1989（平成 1）年 短期大学（音楽科）を発展改組し、大学音楽学部（声楽学科・器楽学科・楽理学科）開設。フェリスホール竣工。
- 1991（ 3）年 大学院人文科学研究科修士課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1992（ 4）年 大学院人文科学研究科修士課程地域文化専攻開設。
- 1993（ 5）年 文学部国文学科を日本文学科に名称変更。
- 1995（ 7）年 大学院人文科学研究科を博士課程前期・後期に改組。
大学院人文科学研究科博士後期課程（英文学専攻・日本文学専攻）開設。
- 1997（ 9）年 文学部国際文化学科を発展改組し、国際交流学部（国際交流学科）開設。

- 1998（平成10）年 大学院音楽研究科修士課程（声楽専攻・器楽専攻・創作表現専攻）開設。
国際学生交流会館開設（～2008年3月）
- 2001（ 13）年 大学院国際交流研究科博士前期課程・博士後期課程（国際交流専攻）開設。
緑園キャンパス施設拡充（文学部棟、キダーホール・緑園、図書館竣工）。
- 2002（ 14）年 中高新校舎・新カイバー記念講堂竣工。
- 2004（ 16）年 文学部コミュニケーション学科開設。
音楽学部楽理学科を音楽芸術学科に、大学院音楽研究科創作表現専攻を音楽芸術専攻に
名称変更。
- 2005（ 17）年 音楽学部演奏学科（声楽学科・器楽学科の改組）開設。
- 2008（ 20）年 大学院人文科学研究科（コミュニケーション学専攻）博士前期課程開設。
- 2009（ 21）年 大学院音楽研究科修士課程演奏専攻（声楽専攻・器楽専攻の改組）開設。
- 2010（ 22）年 学院創立140周年。大学院人文科学研究科（コミュニケーション学専攻）博士後期課程開設。
- 2014（ 26）年 文学部英文学科を英語英米文学学科に、文学部日本文学科を日本語日本文学科に名称変更。
- 2015（ 27）年 大学開設50周年。
- 2017（ 29）年 全学教養教育機構（CLA:Center for the Liberal Arts）開設。
- 2018（ 30）年 大学院人文科学研究科英文学専攻を英語英米文学専攻に、人文科学研究科日本文学専攻
を日本語日本文学専攻に名称変更。

専任教員一覧〔学部〕

学 長

教 授	秋 岡 陽
-----	-------

副学長

教 授	谷 口 昭 弘
教 授	谷 知 子

文学部

英語英米文学科

教 授	梅 崎 透
教 授	大 畑 甲 太
教 授	近 藤 存 志
教 授	富 樫 剛
教 授	中 川 正 紀
教 授	福 永 保 代
教 授	藤 本 朝 巳
教 授	向 井 秀 忠
教 授	由 井 哲 哉
教 授	饒平名 尚 子
助 教	パトリック ヘラー HELLER, Patrick S.
講 師	
講 師	小 泉 泉
講 師	佐 藤 あずさ
講 師	スコット スミス SMITH, Scott W.
講 師	カレン マティソン MATTISON, Karen

日本語日本文学科

教 授	勝 田 耕 起
教 授	佐 藤 裕 子
教 授	島 村 輝
教 授	竹 内 正 彦
教 授	谷 知 子
教 授	松 田 浩
教 授	吉 田 弥 生
准教授	田 中 里 奈
助 教	宋 略

コミュニケーション学科

教 授	井 上 恵美子
教 授	小ヶ谷 千 穂
教 授	齋 藤 孝 滋
教 授	潮 村 公 弘
教 授	高 田 明 典
教 授	藤 巻 光 浩
教 授	諸 橋 泰 樹
准教授	相 澤 一
准教授	高 橋 京 子
准教授	山 崎 浩 一

国際交流学部

国際交流学科

教授	荒井 真 (2018年度特別研修)
教授	上原 良子
教授	大西 比呂志
教授	大野 英二郎
教授	箕 雅博
教授	木曾 順子
教授	金 香 ^{ナム ヒョンナム}
教授	齊藤 直
教授	佐藤 輝
教授	高柳 彰夫
教授	田丸 理砂
教授	常岡 (乗本) せつ子
教授	寺尾 隆吉
教授	中塚 次郎
教授	原口 尚彰
教授	春木 良且

教授	ヒガ, マルセーロ HIGA, Marcelo G.
教授	ベンヤミン ミドルトン Benjamin MIDDLETON
教授	矢野 久美子
教授	和田 浩一
准教授	朝倉 三枝
准教授	泉谷 陽子
准教授	新城 道彦
准教授	杉之原 真子
准教授	高雄 綾子 (2018年度特別研修)
准教授	知足 章宏
准教授	福島 仁
准教授	古内 洋平
助教	野田 寛達
客員講師	眞 眞

音楽学部

音楽芸術学科

教授	秋岡 陽
教授	立神 粧子
教授	谷口 昭弘
教授	星野 聡
准教授	川本 聡胤
准教授	瀬藤 康嗣
准教授	たかの 舞俐

演奏学科

教授	落合 敦
教授	蔵田 雅之
教授	黒川 浩
教授	土屋 広次郎
教授	戸田 弥生
教授	堀 由紀子
講師	井出 朋子
客員教授	ヴェルナー ベルチ BÄRTSCHI, Werner

センター

国際センター

講師	工藤 理恵
講師	奈良 夕里枝

情報センター

講師	内田 奈津子
----	--------

教職センター

教授	井上 恵美子
准教授	山崎 浩一

役職者等

学院長	鈴木 佳秀
学長	秋岡 陽
副学長	谷口 昭弘
副学長	谷 知子
全学教養教育機構長	谷 知子
附属図書館長	藤本 朝巳
大学院委員・大学評議員	梅崎 透
大学院委員・大学評議員	饒平名尚子
大学院委員・大学評議員	大西比呂志
大学院委員・大学評議員	矢野久美子
大学院委員・大学評議員	堀 由紀子
大学院委員・大学評議員	星野 聡
情報センター長	高柳 彰夫
山手総括主事	立神 粧子
宗教主事	相澤 一
教職課程主任	山崎 浩一
教務部長	竹内 正彦
学生部長	上原 良子
国際部長	寺尾 隆吉
入試部長	向井 秀忠
国際センター長	寺尾 隆吉
言語センター長	竹内 正彦
宗教センター長	相澤 一
ボランティアセンター長	ヒガ, マルセーロ

人文科学研究科

研究科長	井上恵美子
英語英米文学専攻主任	中川 正紀
日本語日本文学専攻主任	勝田 耕起
コミュニケーション学専攻主任	諸橋 泰樹
教務責任者	梅崎 透
入試責任者	吉田 弥生

国際交流研究科

研究科長	木曾 順子
国際交流専攻主任	金 香男
教務責任者	田丸 理砂
入試責任者	古内 洋平

音楽研究科

研究科長	立神 粧子
音楽芸術専攻主任	谷口 昭弘
演奏専攻主任	堀 由紀子
教務責任者	星野 聡
入試責任者	蔵田 雅之

文学部

学部長	井上恵美子
英語英米文学科主任	中川 正紀
日本語日本文科主任	勝田 耕起
コミュニケーション学科主任	諸橋 泰樹
教務主任	梅崎 透
入試主任	吉田 弥生

国際交流学部

学部長	木曾 順子
国際交流学科主任	金 香男
教務主任	田丸 理砂
入試主任	古内 洋平

音楽学部

学部長	立神 粧子
音楽芸術学科主任	谷口 昭弘
演奏学科主任	堀 由紀子
教務主任	星野 聡
入試主任	蔵田 雅之

教務主任・教務委員、教務責任者、科目責任者・語学責任者

履修計画を立てるにあたり、下記の教員が相談に応じます。

【教務主任・教務委員】：各学部・学科の専門科目に関すること、所属学部・学科学生の履修計画全般に関すること。

文 学 部	梅崎 透 教務主任 饒平名尚子 (英語英米文学科) 佐藤 裕子 (日本語日本文学科) 小ヶ谷千穂 (コミュニケーション学科)
国 際 交 流 学 部	田丸 理砂 教務主任
音 楽 学 部	星野 聡 教務主任 川本 聡胤 (音楽芸術学科) 落合 敦、土屋広次郎 (演奏学科)

【教務責任者】

人 文 科 学 研 究 科	梅崎 透
国 際 交 流 研 究 科	田丸 理砂
音 楽 研 究 科	星野 聡

【科目責任者・語学責任者】：次の各科目に関すること。

CLA コア科目 基礎教養・総合課題科目	未 定 (全般) 齊藤 直 原口 尚彰 (キリスト教) 春木 良且 (情報リテラシー) 和田 浩一 (健康・スポーツ)
教 職 課 程	山崎 浩一
日 本 語 教 員 養 成 講 座	田中 里奈、勝田 耕起
留学生日本語・日本事情科目	工藤 理恵、奈良夕里枝

英 語	大畑 甲太
フ ラ ン ス 語	朝倉 三枝
ド イ ツ 語	矢野 久美子
ス ペ イ ン 語	ヒガ, マルセーロ
中 国 語	野田 寛達
朝 鮮 語	新城 道彦

古 典 ギ リ シ ア 語	新城 道彦
ラ テ ン 語	
イ タ リ ア 語	
日 本 語 (日本語Ⅰ, Ⅱ)	田中 里奈、勝田 耕起

2018年度の主な制度変更〔学部関連〕

カリキュラムに関すること

1. カリキュラム・マップのバージョン・アップ

学生が履修計画を立てる際の参考とするために、学部の授業科目群には科目と科目の関係や、学修の順序などを視覚的に示したカリキュラム・マップがあります。

このカリキュラム・マップをディプロマ・ポリシーとの関連がより明確になるよう改めました。

2. 音楽学部演奏学科2年次編入学者の卒業要件単位

2018年度から新設した音楽学部演奏学科2年次編入学者の卒業に必要な単位数を定めました。

3. 英語プレイズメント・テストの受験回数

2018年度から英語プレイズメント・テストの受験回数が以下のとおり変更となりました

語学履修コース	2017年度以前	2018年度以降
英語インテンシブ・コース	3回（1年次前期、1年次後期、2年次後期）	5回（1年次前期～3年次前期の各学期）
英語スタンダード・コース 2か国語履修コース	1回（1年次前期）	2回（1年次前期、2年次後期）

2018年度の受験日程は p.1を確認してください。

4. 英語インテンシブ・コースにおける履修クラス指定

2018年度から英語インテンシブ・コースにおいて、前学期に受験した英語プレイズメント・テストの結果に基づき、学期ごとに履修するクラスを指定します。

授業科目の改廃（別冊「学部開講科目表」参照）

1 基礎教養科目

新設（2016年度以前入学者）

経済学入門	(2)
-------	-----

廃止（2016年度以前入学者）

経済学入門A	(2)
経済学入門B	(2)

2 CLA コア科目

新設（2017年度以降入学者）

経済学入門	(2)
-------	-----

廃止（2017年度以降入学者）

経済学入門A	(2)
経済学入門B	(2)

3 語学科目

廃止

英語 e (Debating Culture)	(1)
英語 e (English through Drama)	(1)
英語 e (English through Movies:Basic)	(1)
英語 e (Public Speaking)	(1)
英語 e (Reading Fantasy:Basic)	(1)
英語 e (Reading Fiction)	(1)
英語 e (Reading Literature) A	(1)
英語 e (Reading Literature) B	(1)
英語 e (Reading Poetry)	(1)
英語 e (TOEFL-iBT Preparation II)	(1)
英語 e (TOEIC Preparation II)	(1)
英語 e (World Englishes:Advanced)	(1)

4 文学部英語英米文科学科専門科目

新設（2014年度入学者）

アメリカの文化 1	(2)
アメリカの文化 2	(2)

廃止（2014年度入学者）

アメリカの文化	(2)
---------	-----

新設（2015年度以降入学者）

アメリカの文化 1	(2)
アメリカの文化 2	(2)

廃止（2015年度以降入学者）

アメリカの文化	(2)
---------	-----

5 文学部日本語日本文学科専門科目

新設（2014～2015年度入学者）

漢文学研究の方法	(2)
寄席芸能の世界	(2)
短歌・俳句創作を学ぶ	(2)

廃止（2014～2015年度入学者）

キリスト教と日本文学	(2)
短歌創作を学ぶ	(2)
俳句創作を学ぶ	(2)

新設（2016年度以降入学者）

日本語日本文学プレゼミ9	(2)
漢文学研究の方法	(2)
寄席芸能の世界	(2)
短歌・俳句創作を学ぶ	(2)

廃止（2016年度以降入学者）

キリスト教と日本文学	(2)
短歌創作を学ぶ	(2)
俳句創作を学ぶ	(2)

6 文学部コミュニケーション学科専門科目

新設

英語学研究入門 1	(2)
日本語学概論 A	(2)
日本語学概論 B	(2)
日本語の歴史 A	(2)
日本語の歴史 B	(2)
日本語の文体と語法	(2)
日本語の形態と構文	(2)
日本語の音声とアクセント	(2)
英語学特論 1	(2)
日本語の意味と語彙	(2)
日本語の敬語	(2)
英語と社会・文化 1	(2)
英語と社会・文化 2	(2)

廃止

英語コミュニケーション概説	(2)
日本語コミュニケーション概説 A	(2)
日本語コミュニケーション概説 B	(2)
日本語コミュニケーションの歴史 A	(2)
日本語コミュニケーションの歴史 B	(2)
文体と語法の日本語コミュニケーション学	(2)
形態と構文の日本語コミュニケーション学	(2)
日本語音声とコミュニケーション	(2)
第二言語習得の英語コミュニケーション学	(2)
日本語コミュニケーション：意味と語彙	(2)
日本語敬語コミュニケーション	(2)
社会・文化と英語コミュニケーション	(2)

7 国際交流学部国際交流学科専門科目

新設（2007～2013年度入学者）

イギリスの政治と社会 1	(2)
イギリスの政治と社会 2	(2)
アメリカ史 1	(2)
アメリカ史 2	(2)
アメリカの政治と社会 1	(2)
アメリカの政治と社会 2	(2)

現代アメリカ論 1	(2)
現代アメリカ論 2	(2)
Spring Abroad	(2)
オーストラリア地域文化研究 1	(2)
オーストラリア地域文化研究 2	(2)
プログラミング入門	(2)

廃止（2007～2013年度入学者）

イギリスの政治と社会 A	(2)
イギリスの政治と社会 B	(2)
アメリカ史 A	(2)
アメリカ史 B	(2)
アメリカの政治と社会 A	(2)
アメリカの政治と社会 B	(2)
現代アメリカ論 A	(2)
現代アメリカ論 B	(2)
北米現地実習	(2)
オーストラリア地域文化研究 A	(2)
オーストラリア地域文化研究 B	(2)
情報処理演習	(1)

新設（2014年度以降入学者）

Spring Abroad	(2)
イギリスの政治と社会 1	(2)
イギリスの政治と社会 2	(2)
アメリカの政治と社会 1	(2)
アメリカの政治と社会 2	(2)
現代アメリカ論 1	(2)
現代アメリカ論 2	(2)
アメリカ史 1	(2)
アメリカ史 2	(2)
オーストラリア地域文化研究 1	(2)
オーストラリア地域文化研究 2	(2)
プログラミング入門	(2)

廃止（2014年度以降入学者）

北米現地実習	(2)
イギリスの政治と社会 A	(2)
イギリスの政治と社会 B	(2)
アメリカの政治と社会 A	(2)
アメリカの政治と社会 B	(2)
現代アメリカ論 A	(2)
現代アメリカ論 B	(2)
アメリカ史 A	(2)
アメリカ史 B	(2)
オーストラリア地域文化研究 A	(2)
オーストラリア地域文化研究 B	(2)
ソーシャルラーニング演習	(1)

8 音楽学部音楽芸術学科専門科目

新設

PA 教職実技（聴音・音楽理論）	(1)
------------------	-----

9 教職に関する科目

新設（2011年度以降入学者）

道徳教育の理論と実践	(2)
生徒・進路指導の理論と方法	(2)

廃止（2011年度以降入学者）

道徳教育の研究	(2)
生徒指導	(2)

2018年度 フェリス女学院大学学生要覧

2018年4月1日 発行

発 行 フェリス女学院大学
緑園校舎 〒245-8650 横浜市泉区緑園4-5-3
TEL 0 4 5 - 8 1 2 - 8 2 1 1(代表)
山手校舎 〒231-8651 横浜市中区山手町37
TEL 0 4 5 - 6 8 1 - 5 1 5 0(代表)

印 刷 株式会社 野毛印刷社

フェリス女学院大学公式webサイト <http://www.ferris.ac.jp/>

